

ウヨロ川中下流域の
里山自然環境調査報告書

2006年12月

NPO法人ウヨロ環境トラスト

目次

1. 調査概要	1
1.1 調査目的	1
1.2 調査項目及び年度	1
1.3 調査者	2
1.4 調査区域	2
2. 2005年度の自然環境調査	4
2.1 ウヨロ川～ウヨロ環境トラストの森周辺の動物	4
2.2 鳥類	4
2.3 哺乳類	5
2.4 魚類	5
3. 2006年度の自然環境調査	9
3.1 ウヨロ環境トラストの森周辺の鳥類調査	9
3.1.1 はじめに	9
3.1.2 調査地と調査法	9
1) 調査法、調査日時	9
2) 調査地の環境	10
3.1.3 結果	11
1) ラインセンサス調査結果	11
2) 出現種	15
3) 出現率と優占種	15
3.1.4 注目すべき種	17
3.1.5 考察	18
3.1.6 参考資料1 鳥類リスト	19
3.1.7 参考資料2 フットパスで見られる野鳥(春)	21
3.2 里山の小型哺乳類調査	29
3.2.1 調査概要	29
3.2.2 調査期間	29
3.2.3 調査者	29
3.2.4 調査方法	29
3.2.5 調査地	29
3.2.6 結果と考察	35
3.2.7 要約	36
3.2.8 引用文献	36
3.3 デジタル教材北の里山事典づくりに伴う環境調査	37
3.3.1 植物調査	37
1) 調査地の概要	37
2) 調査時期	37
3) 植生の概要	39

4) 考察.....	43
5) 着目すべき種.....	66
3.3.2 陸上昆虫類調査.....	67
1) 調査方法.....	67
2) 調査時期.....	68
3) 調査位置.....	68
4) 調査結果.....	71
5) 着目すべき種.....	91
3.3.3 底生動物調査.....	92
1) 調査方法.....	92
2) 調査時期.....	92
3) 調査位置.....	92
4) 調査結果.....	94
5) 着目すべき種.....	104
3.3.4 魚類調査.....	105
1) 調査方法.....	105
2) 調査時期.....	105
3) 調査位置.....	105
4) 調査結果.....	107
5) 着目すべき種.....	113
4. まとめ.....	115
4.1 確認種.....	115
1) 植物.....	115
2) 昆虫類.....	115
3) 底生動物.....	115
4) 魚類.....	115
5) 鳥類.....	115
6) 哺乳類.....	116
4.2 希少種.....	117
5. 今後の課題.....	120

この自然環境調査は、財団法人秋山記念生命科学振興財団の社会貢献活動助成金の助成を受けて実施しました。

1. 調査概要

1.1 調査目的

北海道の南西部に位置する白老町のウヨロ川中下流部は、雑木林、カラマツ林、牧場、丘陵地などの自然豊かな里地・里山である。この地域の里山では、地域住民や環境ボランティア団体によって里山の雑木林及び人工林を対象に下草刈り、枝打ち、除間伐などの実践的環境保全活動が行われている。

本州方面の里山の雑木林では、手入れを行い日の当たる明るい林にすると林床植物が増え、種の多様性が増大するとの報告がある。本調査は、北海道での里山保全活動が行われている本地区で、専門機関及び専門家の協力を得て里山の自然環境の現状を把握するために実施したものである。また調査結果は生物多様性を高めるための里山の今後の保全作業の内容を検討する資料として活用することとしている。

1.2 調査項目及び年度

調査項目及び調査年度、調査者をまとめ、表 1-1 に示した。ウヨロ川中下流部周辺における自然環境調査は主に 2005 年から 2006 年にかけて実施されている。

この内、2005 年秋には自然ウォッチングセンターにより魚類、鳥類、哺乳類の計 3 項目について調査が実施された。ただし、調査が秋季のみであったことから確認種リストにはそれまでの自然観察会などで確認された種も含めている。また鳥類、哺乳類については、既存資料として萩の里自然公園整備に関する調査(1997 年白老町)も合わせてリストアップされている。

2006 年 6 月から 10 月にかけて自然ウォッチングセンターにより、ラインセンサス調査と鳥類相調査を内容とする鳥類調査が実施され、その結果が報告された。

2006 年 7 月には、NPO 法人ウヨロ環境トラスト、北海道立林業試験場の共同研究による、小型哺乳類(野ネズミ等)を対象とした調査が実施された。

また同年には、子どもゆめ基金の助成によるデジタル教材北の里山事典作成のための自然環境調査が実施されており、陸上昆虫類、水生昆虫等、魚類の項目に加え、いぶり自然ガイドの会の代表である宗広光明氏の協力により、植物相についても調査が実施された。

本報告書は上記の調査結果をまとめたものである。

表 1-1 調査項目及び年度

調査項目	調査年度	調査者
植物調査	2005 年 10 月～2006 年 10 月	いぶり自然ガイドの会(代表 宗広光明)
陸上昆虫類調査	2006 年 6～9 月	パブリックコンサルタント株式会社
底生動物調査	2006 年 6 月	パブリックコンサルタント株式会社
魚類調査	2005 年 9 月	自然ウォッチングセンター
	2006 年 6 月	パブリックコンサルタント株式会社
鳥類調査	2005 年 9 月まで (萩の里自然公園整備のための基礎資料 1997 年を含む)	自然ウォッチングセンター
	2006 年 6～10 月	自然ウォッチングセンター
哺乳類調査	2005 年 9 月まで (萩の里自然公園整備のための基礎資料 1997 年を含む)	自然ウォッチングセンター
	2006 年 7 月 小型哺乳類調査	NPO 法人ウヨロ環境トラスト、北海道立林業試験場

1.3 調査者

いぶり自然ガイドの会・・・宗広光明(2006年度植物調査)

自然ウォッチングセンター・・・島田明英、鎌田恵実

(2005年度魚類、鳥類、哺乳類調査、2006年度鳥類調査)

パブリックコンサルタント株式会社・・・植田和俊、角田武、佐藤英世

(2006年度教材関係 陸上昆虫調査報告書作成、底生動物及び魚類の現地調査・報告書作成)

坑井データサービス・・・木野田君公(2006年度陸上昆虫現地調査・同定)

北海道立林業試験場・・・中田圭亮(2006年度小型哺乳類調査技術指導)

NPO法人ウヨロ環境トラスト・・・佐藤辰夫、濱田満、河野功、辻昌秀(2006年度小型哺乳類調査)

1.4 調査区域

本調査の区域は、北海道の南西部に位置し太平洋に注ぐ白老川水系のウヨロ川の中下流域に点在するトラストの森(トラスト地)、萩の里自然公園、エコの森及びウヨロ川フットパス周辺を対象として実施している。これらの位置関係をまとめ、図 1-1 に示した。

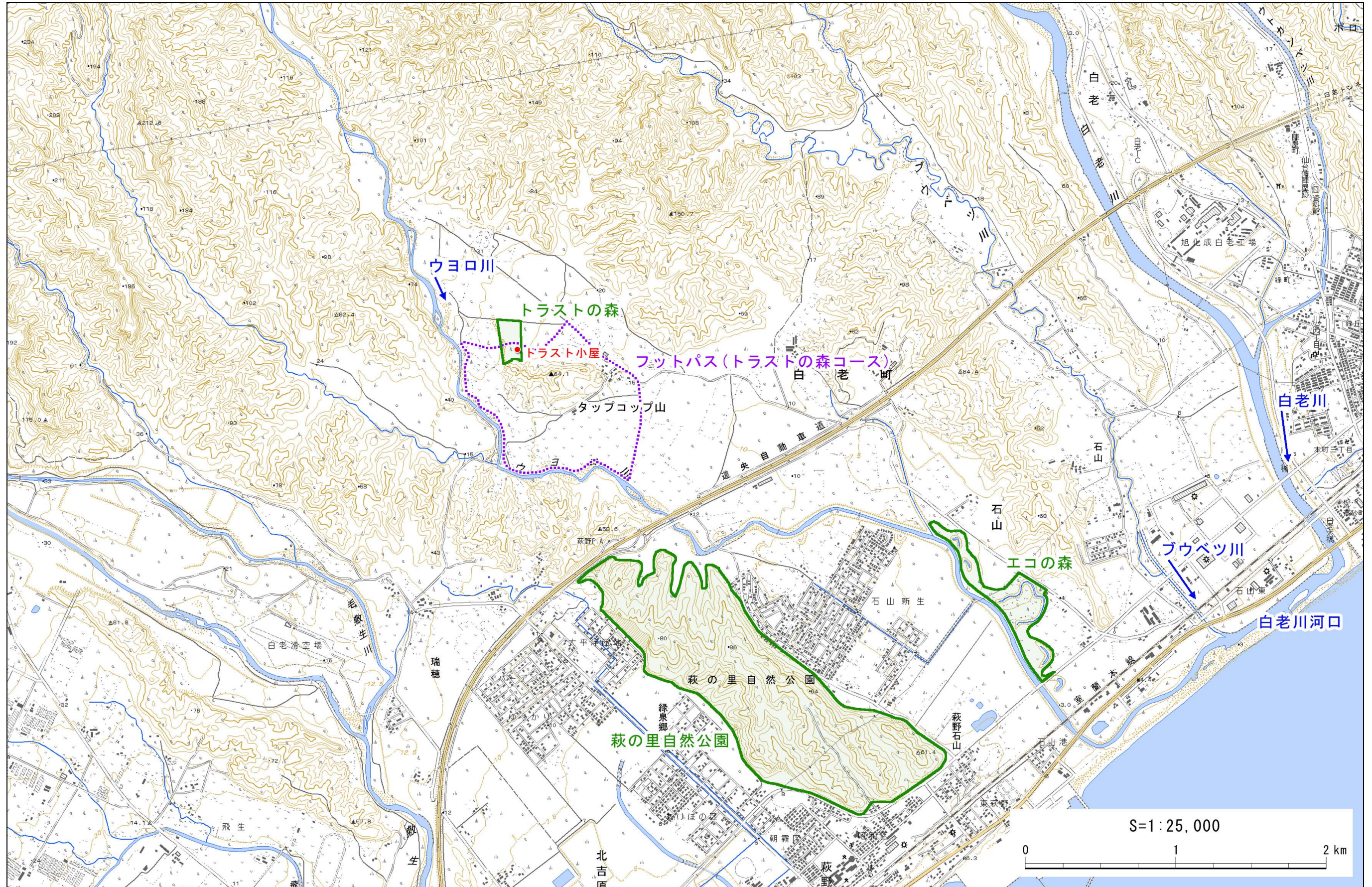


図 1-1 調査区域

2. 2005 年度の自然環境調査

2.1 ウヨロ川～ウヨロ環境トラストの森周辺の動物

2006 年 3 月に製作されたウヨロ川フットパス・マップ作成の参考資料とするため、ウヨロ川～ウヨロ環境トラストの森(トラストの森)周辺の動物をリストアップし、観察対象としての特徴を記した。調査は 2005 年秋に行った。それ以前の観察についても記録を掘り起こして可能な限りリストアップした。

2.2 鳥類

1997 年に萩の里自然公園整備のための基礎資料として調査されまとめられたリスト、およびそれ以降にウヨロ川～トラストの森周辺で観察されたものをリストアップした。68 種がリストアップされた。

(森林性鳥類)

種類数としては最も多い。多くは萩の里自然公園等のウヨロ川周辺の森林で見られるものである。フットパスを歩いて普通に見られるのは、シジュウカラ、ハシブトガラ、メジロ、ヒヨドリ、アオジ、アカハラ、コゲラ、アカゲラ等である。

夏鳥が多く、5～7月に多くの種類に出会うことができる。フットパスの中では、大径木のある萩の里自然公園付近で多く見られる。高速道路より上流では河畔林や防風林を中心に観察することができる。

秋の渡りの時期には、ツグミ、カシラダカ、マヒワ、イカルなどが渡ってゆくのが見られる。

冬季には種類数は少なくなり、留鳥であるシジュウカラ類、キツツキ類、カケス、ヒヨドリ等が見られる程度となる。

ホトギスは最近分布を北へ広げつつある種で、この地域でもここ数年の間に新しく生息するようになったものと思われる。初夏に林内から声を聞くことができる。

(草原性鳥類)

ウヨロ川周辺の牧場や原野で見られるもので、ホオジロ、ホオアカ、ベニマシコ、ノビタキ、モズ、カッコウなどである。森林性の種に比較して個体数は多くないが、見通しのよい場所に現れるので初心者でも観察しやすい。特にホオジロ、ノビタキ等は個体数も多く、フットパスでよく出会う鳥たちである。

ほとんどが夏鳥であるため、冬季にはいなくなる。冬の草原には鳥は少ない。

(河川性鳥類)

キセキレイはウヨロ川でもっとも普通に見られる川の鳥である。春から秋まで、見ることができる。

イソシギはキセキレイほど多くはないが、繁殖期には鋭い声で鳴きながら河川沿いに飛び回るため、目につきやすい。これも夏鳥である。

カワガラスはウヨロ川ではあまり個体数が多くない。フットパスを歩いても1、2羽に出会う程度である。秋には流下したサケの卵を食べる姿が見られる。

ヤマセミは個体数は少ないがフットパス沿いのウヨロ川に生息していて、フットパスを歩けばかなりの確率で出会うことができる。ただ、河川沿いに飛行しているものに出会うことがほとんどで、じっくり観察するのはなかなか難しい。春から秋まで見られる。越冬の可能性もある。

カワセミもヤマセミと同様、河川沿いに飛び去るのを見る事が多く、じっくり観察するにはかなりの注意深さが必要である。春から秋まで見られる。

マガモ、アオサギも見られるが、フットパス沿いのウヨロ川に降りていることは少ない。コガモは泉で観察されたことがある。

2.3 哺乳類

13種がリストアップされた。

トガリネズミ科、ネズミ科、イタチ科等については、生息していても未記録の種があると思われる。さらにコウモリ類については全く不明である。これら以外の中～大形種はおおよそリストアップされたものと考えられる。

夜行性のものが多く、直接姿を観察する機会は少ない。おもに足跡・糞等によってその存在を知ることがほとんどである。

フットパスを歩いて必ず見られるのはエゾシカの足跡、糞である。近年白老周辺でも個体数が増えているようで、近い将来、普通に姿を見られるようになるかもしれない。

キタキツネも糞や足跡は珍しくない。姿を見ることはそれほど多くない。

外来動物として全道的に問題となっているアライグマが、2005年夏にトラストの森と周辺で確認された。近くの小川で明瞭な足跡があったほか、トラストの森のウヨロ小屋の流し台にもアライグマと思われる足跡が残されていた。今のところ個体数は多くないようである。

エゾリスやエゾシマリスも生息するが、個体数はそれほど多くない。エゾリスは冬季雪の上の足跡で存在を知ることができる。

2.4 魚類

2005年9月の捕獲調査および水中観察によって11種がリストアップされた。

これらのうち、高速道路から上流のフットパス沿いウヨロ川で確認されたのは、サケ、サクラマス(ヤマメ)、ウグイ類、フクドジョウ、シマウキゴリ、エゾハナカジカ、シベリアヤツメ、イバラトミヨであり、カワヤツメ、ギンブナ、ヤチウグイ、イトヨは高速道路より下流のみでの確認であった。

フットパスを歩いて普通に観察可能な魚類はサケである。9月～11月に観察される。産卵は高速道路の橋直下から、最上流の橋にかけてで観察される。もっとも観察しやすいのは、高速道路橋直下と、護岸のある直角カーブ地点であろう。遡上の様子、雌をめぐる雄同士の違い、産卵床を掘る行動、産卵後の産卵床を守る雌などが見られ、じっくり粘れば産卵行動も観察できよう。

子どもたちが水遊びの際にタモ網で採集できた種は、ウグイ類、フクドジョウ、サクラマス(ヤマメ)、エゾハナカジカなどである。しかし流れが速いことと、個体数が多くないことから、子どもの手では採集は簡単ではない。

川の側流が水たまり状になっている場所では、ウグイ類やイバラトミヨが溜まっていて簡単に採集・観察ができることがある。しかしこのような場所は川の状態によって現れたり消えたりするのでいつも同じ場所にあるわけではない。

水中メガネや箱メガネで川の中を観察すれば、ヤマメやウグイの群れが観察できる。このような観察には水深のある淵がよく、最上流橋の上流側の淵は最適な場所である。観察するには水中に立ち込むことが必要となるので暖かい季節に限られる。

トラストの森近くの泉には、イバラトミヨが生息する。水温が低いので、個体数は多くない。

(2005年11月 自然ウォッチングセンター)

表 2-1 ウヨロ川～トラストの森周辺哺乳類リスト

	分類	種名	記録の種類	備考	記録時期
1	モグラ目 トガリネズミ科	オオアシトガリネズミ	捕獲		20050919
2	ウサギ目 ウサギ科	エゾユキウサギ	糞		
3	ネズミ目 リス科	エゾリス	足跡、目撃情報		20040119、20050919
4	ネズミ目 リス科	エゾシマリス	目撃情報		20050919
5	ネズミ目 ネズミ科	エゾヤチネズミ	捕獲、捕食痕跡		2003
6	ネズミ目 ネズミ科	エゾアカネズミ	捕獲		20050919
7	ネコ目 クマ科	エゾヒグマ	目撃情報	萩の里調査	19970830
8	ネコ目 アライグマ科	アライグマ	足跡		20050918
9	ネコ目 イヌ科	エゾタヌキ	足跡、ため糞	ため糞は萩の里	19970716、20040119
10	ネコ目 イヌ科	キタキツネ	足跡、糞、目撃		97年4～9月、20040119
11	ネコ目 イタチ科	ホンドテン	目撃情報		20050919
12	ネコ目 イタチ科	イタチ	糞	萩の里調査	19970620
13	ウシ目 シカ科	エゾシカ	糞、足跡		19970419、20050918

リスト作成 自然ウォッチングセンター

表 2-2 魚類リスト

科名	種名	学名
ヤツメウナギ	シベリアヤツメ	<i>Lethenteron kessleri</i>
サケ	サクラマス	<i>Oncorhynchus masou masou</i>
	(ヤマメ)	<i>Oncorhynchus masou masou</i>
	サケ	<i>Oncorhynchus keta</i>
コイ	ギンブナ	<i>Carassius auratus langsdorfii</i>
	ウグイ属の一種	<i>Tribolodon sp.</i>
	ヤチウグイ	<i>Phoxinus phoxinus sachalinensis</i>
ドジョウ	フクドジョウ	<i>Noemacheilus barbatulus toni</i>
トゲウオ	イトヨ(降海型)	<i>Gasterosteus aculeatus</i>
	イバラトミヨ	<i>Pungitius pungitius</i>
ハゼ	シマウキゴリ	<i>Gymnogobius sp.2</i>
カジカ	エゾハナカジカ	<i>Cottus amblystomopsis</i>
7科	11種	

リスト作成 自然ウォッチングセンター

表 2-3 ウヨロ川周辺に生息する鳥類

萩の里調査:1997年調査

トラスト周辺:2003~2005年記録

	分類	種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	萩の里調査	トラスト周辺	備考
1	コウノトリ目	サギ科	アオサギ					+			*	
2	カモ目	カモ科	マガモ	+						*	*	
3	カモ目	カモ科	コガモ					+			*	
4	カモ目	カモ科	カアアシ						+		*	
5	タカ目	タカ科	トビ	+	+	+	+		+	*	*	
6	タカ目	タカ科	ノスリ					+	+	*	*	
7	タカ目	タカ科	オジロワシ						+		*	
8	トドリ目	シギ科	イソシギ				+				*	
9	トドリ目	シギ科	オジシギ		+					*		
10	トドリ目	シギ科	ヤマシギ				+				*	
11	トドリ目	カモ科	オセグロカモ						+		*	
12	ハト目	ハト科	キジバト	+	+		+	+		*	*	
13	ハト目	ハト科	アオバト			+	+		+	*	*	
14	カッコウ目	カッコウ科	カッコウ			+				*	*	
15	カッコウ目	カッコウ科	ツツドリ			+				*	*	
16	カッコウ目	カッコウ科	ホトギス				+				*	
17	アマツバメ目	アマツバメ科	アマツバメ					+			*	
18	ブッポウソウ目	カササギ科	ヤマサギ						+		*	
19	ブッポウソウ目	カササギ科	カササギ					+		*	*	
20	キツツキ目	キツツキ科	アカゲラ		+	+	+		+	*	*	
21	キツツキ目	キツツキ科	オアカゲラ	+						*		
22	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ		+			+	+	*	*	
23	スズメ目	ヒバリ科	ヒバリ	+			+			*	*	
24	スズメ目	ツバメ科	イソツバメ				+			*	*	
25	スズメ目	セキレイ科	キセキレイ	+	+			+		*	*	
26	スズメ目	セキレイ科	ハクセキレイ	+			+			*	*	
27	スズメ目	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	+	+	+	+	+	+	*	*	
28	スズメ目	モズ科	モズ			+		+	+	*	*	
29	スズメ目	ツグミ科	コノハ			+	+	+	+	*		
30	スズメ目	ツグミ科	ノビタキ	+					+	*		
31	スズメ目	ツグミ科	ノビタキ	+						*	*	
32	スズメ目	ツグミ科	トラツグミ		+					*	*	
33	スズメ目	ツグミ科	クロツグミ		+	+	+	+	+	*	*	
34	スズメ目	ツグミ科	アカハラ		+		+		+	*	*	
35	スズメ目	ツグミ科	ツグミ						+	*	*	
36	スズメ目	ウグイス科	ヤブウグイス		+	+	+		+	*		
37	スズメ目	ウグイス科	ウグイス		+	+	+	+	+	*	*	
38	スズメ目	ウグイス科	エゾセンニュウ			+	+			*		
39	スズメ目	ウグイス科	エゾムシクイ		+	+				*		
40	スズメ目	ウグイス科	センダイムシクイ		+		+	+	+	*	*	
41	スズメ目	ウグイス科	キクイタダキ	+		+				*		
42	スズメ目	ヒタキ科	ヒタキ			+	+			*	*	
43	スズメ目	ヒタキ科	オオノ				+			*	*	
44	スズメ目	ヒタキ科	エゾヒタキ		+					*		
45	スズメ目	ヒタキ科	コサメヒタキ				+			*		
46	スズメ目	エナガ科	エナガ	+	+		+		+	*	*	
47	スズメ目	シジュウカラ科	ハシブトガラ	+	+	+	+	+	+	*	*	
48	スズメ目	シジュウカラ科	ヒガラ	+	+					*	*	
49	スズメ目	シジュウカラ科	ヤマガラ		+			+	+	*		

50	スズメ目	シジュウカラ科	シジュウカラ	+	+	+	+	+	+	+	+	*	*	
51	スズメ目	シジュウカラ科	コシジュウカラ		+		+	+	+			*	*	
52	スズメ目	キバシ科	キバシ						+				*	
53	スズメ目	メジロ科	メジロ		+	+	+	+	+	+		*	*	
54	スズメ目	ホオジロ科	ホオジロ	+			+					*	*	
55	スズメ目	ホオジロ科	ホオアカ											
56	スズメ目	ホオジロ科	カシラダカ											
57	スズメ目	ホオジロ科	ミヤマホオジロ							+		*		
58	スズメ目	ホオジロ科	アオジ	+	+	+	+	+	+	+	+	*	*	
59	スズメ目	アトリ科	カワラヒワ	+	+	+	+				+	*	*	
60	スズメ目	アトリ科	マヒワ		+							*	*	
61	スズメ目	アトリ科	ベニマシコ					+			+	*	*	
62	スズメ目	アトリ科	イカル			+		+	+			*	*	
63	スズメ目	アトリ科	シメ							+		*	*	
64	スズメ目	ハタオリドリ科	スズメ	+		+		+				*		
65	スズメ目	ムクドリ科	コムクドリ			+						*		
66	スズメ目	カラス科	カケス						+	+		*	*	
67	スズメ目	カラス科	ハシボソガラス	+					+	+		*	*	
68	スズメ目	カラス科	ハシブトガラス		+	+	+	+	+	+	+	*	*	

リスト作成 自然ウォッチングセンター

3. 2006 年度の自然環境調査

3.1 ウヨロ環境トラストの森周辺の鳥類調査

3.1.1 はじめに

ウヨロ川周辺では 1997 年以降、68 種の鳥類の生息が記録されている。これはおもに、萩の里自然公園地域で記録されたものであり、ウヨロ環境トラストの森(以下、トラストの森)周辺の鳥類については断片的な観察があるにすぎない。

今回は、NPO 法人ウヨロ環境トラストによる今後の里山の利用・保全計画に資するため、トラストの森周辺に生息する鳥類の調査を行い、その特徴を明らかにした。

3.1.2 調査地と調査法

1) 調査法、調査日時

トラストの森を含むウヨロ川中・下流域(道央自動車道から上流の地域)を対象に行った。調査はラインセンサス調査と、補足的な鳥類相調査を行った。

ラインセンサス調査

繁殖期の鳥類群集を明らかにするためのラインセンサス調査を6月に実施した。この調査では、生息する鳥類の種類と個体数を記録し、さらに出現位置を地図上に記録した。トラストの森周辺に整備されているフットパスを利用し、一周 4.6 kmのセンサスルートを設定し、そこを時速約 1.5～2 kmで歩いて両側およそ 50m以内に出現した鳥類を記録した。ルートは 1.9 kmの河川沿いの区間と、2.7 kmの森林・牧場区間に分けて集計した。

調査日時は下記の通りである。

2006 年 6月 21日 5:00～8:37

2006 年 6月 25日 5:50～7:50

鳥類相調査

特にルートを決めずにトラストの森周辺を踏査し、出現した鳥類の種類を記録した。調査日時は下記の通りである。

2006 年 6月 3日 17:10～18:30

2006 年 7月 21日 7:10～8:10

2006 年 7月 28日 6:00～7:00

2006 年 9月 25日 5:00～7:30

2006 年 10月 27日 5:45～8:00

尚、牧場、牧草地、放牧地、雑草地については、概ね以下のように区分した。

- ・ 牧場・・・牧草地、放牧地、雑草地、牧場施設(牧舎、人家)を含む全体
- ・ 牧草地・・・採草地の意味
- ・ 放牧地・・・採草をせず、専ら放牧に利用されている牧野
- ・ 雑草地・・・採草も放牧もされておらず、ほとんど放置されているように見える牧野

2) 調査地の環境

ラインセンサスルートは、森林・牧場区間と、河川区間に区分して結果を集計した。それぞれの区間の環境は以下の通りである。

森林・牧場区間

道央自動車道の橋上流 400m 地点から、トラストの森を通過して、上流側で再びウヨロ川に戻るルートである。調査範囲には牧場(雑草地、人家含む)、ミズナラ・ハルニレ・ヤチダモ等からなる広葉樹二次林、カラマツ人工林を含み、それぞれの環境区分の通過距離と割合は以下の通りである。

牧場	1.1 km (41%)
広葉樹二次林	0.9 km (33%)
カラマツ人工林	0.7 km (26%)

河川区間

ウヨロ川道央自動車道上流約 1.6 kmに位置する無名橋から、ウヨロ川沿いに道央自動車道までの区間である。ヤチダモ、ハンノキ、ハルニレ、ミズナラ等からなる広葉樹河畔林を主とし、一部に牧場(放牧地)を含む。それぞれの環境区分の通過距離と割合は以下の通りである。

広葉樹河畔林	1.7 km (89%)
牧場	0.2 km (11%)



図 3-1 ラインセンサスルート

3.1.3 結果

1) ラインセンサス調査結果

ラインセンサスの調査結果は、森林・牧場区間と河川区間に分け、調査した2日間の記録数を合計した。その上で出現した各種の個体数、優占度(その調査地で出現した全個体数に対する各種類の個体数の割合:%)、生息密度(1kmあたりの出現個体数)を表 3-1 に示した。

また、主要な種の出現位置を地図に示した。鳥類相調査の結果は、出現した種を表 3-2 に示した。

表 3-1 ラインセンサス結果

ID	種名	森林区間			河川区間			合計		
		個体数	優占度	N / km	個体数	優占度	N / km	個体数	優占度	N / km
006800	アオサギ	1	0.5	0.18	2	1.3	0.53	3	0.8	0.65
013000	トビ				1	0.7	0.26	1	0.3	0.22
023300	イソシギ				1	0.7	0.26	1	0.3	0.22
024800	オオシシギ	4	2.0	0.73	3	2.0	0.79	7	2.0	1.51
031500	キンハト	7	3.5	1.28	2	1.3	0.53	9	2.5	1.94
031700	アオハト				1	0.7	0.26	1	0.3	0.22
031900	ジュウイチ	2	1.0	0.36				2	0.6	0.43
032100	カッコウ	5	2.5	0.91	2	1.3	0.53	7	2.0	1.51
032200	ツツドリ	8	4.0	1.46	4	2.6	1.05	12	3.4	2.59
032300	ホトキス	1	0.5	0.18				1	0.3	0.22
034000	ヤマセミ	3	1.5	0.55				3	0.8	0.65
034500	カワセミ	1	0.5	0.18	4	2.6	1.05	5	1.4	1.08
034900	アリスイ	1	0.5	0.18				1	0.3	0.22
035800	コケラ	6	3.0	1.09	1	0.7	0.26	7	2.0	1.51
036500	ヒバリ	5	2.5	0.91	7	4.6	1.84	12	3.4	2.59
037100	イワツバメ	1	0.5	0.18				1	0.3	0.22
037500	キセキレイ	1	0.5	0.18	1	0.7	0.26	2	0.6	0.43
037600	ハクセキレイ				1	0.7	0.26	1	0.3	0.22
037700	セグロセキレイ				2	1.3	0.53	2	0.6	0.43
038100	ヒンズイ	2	1.0	0.36	1	0.7	0.26	3	0.8	0.65
038800	ヒヨドリ	16	8.0	2.92	20	13.1	5.26	36	10.2	7.76
039000	モズ	2	1.0	0.36	2	1.3	0.53	4	1.1	0.86
040700	コルリ	10	5.0	1.82				10	2.8	2.16
041100	ヒタキ	4	2.0	0.73	6	3.9	1.58	10	2.8	2.16
042300	クロツグミ	6	3.0	1.09	7	4.6	1.84	13	3.7	2.80
042500	アカハラ	3	1.5	0.55				3	0.8	0.65
043400	ヤブサメ				1	0.7	0.26	1	0.3	0.22

043500	ウケ'イス	12	6.0	2.19	14	9.2	3.68	26	7.3	5.60
043700	エゾ'センニユウ	2	1.0	0.36	3	2.0	0.79	5	1.4	1.08
044300	オオヨシキリ				1	0.7	0.26	1	0.3	0.22
045200	メホ'ソムシクイ	1	0.5	0.18	1	0.7	0.26	2	0.6	0.43
045300	エゾ'ムシクイ	8	4.0	1.46	8	5.2	2.11	16	4.5	3.45
045400	センダ'イムシクイ	6	3.0	1.09	1	0.7	0.26	7	2.0	1.51
046000	キビ'タキ	2	1.0	0.36				2	0.6	0.43
046300	オオルリ				2	1.3	0.53	2	0.6	0.43
046600	コサメビ'タキ				1	0.7	0.26	1	0.3	0.22
047000	ハシブ'トガラ	1	0.5	0.18	1	0.7	0.26	2	0.6	0.43
047200	ヒガラ	1	0.5	0.18				1	0.3	0.22
047500	シジ'ユウカラ	4	2.0	0.73	3	2.0	0.79	7	2.0	1.51
047600	ゴ'シ'ユウカラ	1	0.5	0.18				1	0.3	0.22
047700	キハ'シリ	2	1.0	0.36				2	0.6	0.43
047800	メジ'ロ	7	3.5	1.28	2	1.3	0.53	9	2.5	1.94
048200	ホオシ'ロ				1	0.7	0.26	1	0.3	0.22
048600	ホオアカ	3	1.5	0.55	2	1.3	0.53	5	1.4	1.08
049500	アオシ'	23	11.4	4.20	27	17.6	7.11	50	14.1	10.78
049800	オオシ'ユリン	1	0.5	0.18	1	0.7	0.26	2	0.6	0.43
050600	カララヒワ	6	3.0	1.09	5	3.3	1.32	11	3.1	2.37
051600	ハ'ニマシコ	1	0.5	0.18				1	0.3	0.22
052000	イカル	2	1.0	0.36				2	0.6	0.43
052100	シメ	2	1.0	0.36	4	2.6	1.05	6	1.7	1.29
052300	ニユウナイス'メ				2	1.3	0.53	2	0.6	0.43
052400	ス'メ	17	8.5	3.10				17	4.8	3.66
054000	ハシホ'ソガラス				2	1.3	0.53	2	0.6	0.43
054100	ハシブ'トガラス	10	5.0	1.82	3	2.0	0.79	13	3.7	2.80
合計	54 種	201	100.0	36.68	153	100.0	40.26	354	100.0	76.29
		42 種			40 種			54 種		

リスト作成 自然ウォッチングセンター

表 3-2 確認種一覧（2006年）

調査日時		6/21・25	6/21・25	6/3	7/21	7/28～30	9/29	10/27
調査地		河川区間	森林牧場 区間	トラストの森	トラストの森	トラストの森	トラストの森	トラストの森
006800	アオサギ	1	1					
013000	トビ	1					1	1
013300	オオタカ						1	
013900	ノスリ						1	
023300	イソシギ	1						
024300	ヤマシギ			1		1		
024800	オオジシギ	1	1	1				
031500	キジハト	1	1	1			1	1
031700	アオハト	1						
031900	シユウイチ		1	1				
032100	カッコウ	1	1					
032200	ツツドリ	1	1	1				
032300	ホトキス		1					
034000	ヤマセミ		1					
034500	カワセミ	1	1					
034900	アリスイ		1					
035300	クマゲラ						1	
035500	アカゲラ						1	
035800	コゲラ	1	1		1		1	1
036500	ヒバリ	1	1					
037100	イワツバメ		1					
037500	キセキレイ	1	1				1	
037600	ハクセキレイ	1						
037700	セグロセキレイ	1						
038100	ヒンズイ	1	1				1	
038800	ヒヨドリ	1	1	1	1		1	1
039000	モス	1	1				1	
039700	カワガラス						1	
040700	コルリ		1	1				
040800	ルリビタキ							1
041100	ノビタキ	1	1					
041900	トラツグミ			1				
042300	クロツグミ	1	1		1	1	1	
042500	アカハラ		1		1			
043400	ヤブサメ	1						
043500	ウグイス	1	1	1		1	1	1
043700	エゾセンニュウ	1	1					
044300	オオヨシキリ	1						
045200	メボソムシクイ	1	1					
045300	エゾムシクイ	1	1	1				
045400	センダイムシクイ	1	1					
046000	キビタキ		1	1				
046300	オオルリ	1		1				
046600	コサメビタキ	1						
046800	エナガ						1	1
047000	ハシブトガラ	1	1			1	1	1
047100	コガラ				1	1		
047200	ヒガラ		1					
047300	ヤマガラ				1		1	1
047500	シシユウカラ	1	1				1	1
047600	コシユウカラ		1				1	1

047700	キハシリ		1			1		
047800	メシロ	1	1	1			1	
048200	ホオシロ	1						1
048600	ホオアカ	1	1					
048900	カシラダカ							1
049000	ミヤマホオシロ							1
049500	アオシ	1	1	1			1	1
049800	オオシユリン	1	1					
050600	カララヒワ	1	1				1	1
050700	マヒワ							1
051600	ハニマシコ		1			1		1
052000	イカル		1		1	1	1	
052100	シメ	1	1	1		1		1
052300	ニューナイスシメ	1						
052400	スシメ		1					
053300	カケス						1	1
054000	ハシホソガラス	1						1
054100	ハシブトガラス	1	1	1			1	
種数	計 69 種	40 種	42 種	16 種	7 種	9 種	25 種	21 種

* 1: 出現したことを示す

リスト作成 自然ウォッチングセンター

2) 出現種

今回の調査で 69 種の鳥類が記録された。このうち、オオタカ、クマゲラ、セグロセキレイ、オオジュリンなど 12 種が、ウヨロ川中下流域で過去に記録されておらず、今回新たに記録された種であった。

この結果、過去の記録を合わせると萩の里自然公園を含むウヨロ川中・下流域で記録された鳥類は 80 種となった。(表 3-3 参照)

今回記録された 69 種を、分類群によって分けると以下のようになった。

コウノトリ目	1 種
タカ目	3 種
チドリ目	3 種
ハト目	2 種
カッコウ目	4 種
ブッポウソウ目	2 種
キツツキ目	4 種
スズメ目	50 種

水域(河川)を調査対象範囲に含んだにもかかわらず、水鳥類は少なく、アオサギ、イソシギ、ヤマセミ、カワセミ、カワガラスが記録されたのみであった。出現種の 9 割以上を陸生の鳥類が占めた。

ラインセンサス調査では、森林・牧場区間と河川区間に分けて記録したが、この 2 区間を比較すると、出現種は森林・牧場区間 42 種、河川区間 40 種とあまり変わらなかった。両区間で記録された 54 種のうち、共通して記録された種は 28 種であり、共通種の割合は 52% であった。両区間で鳥類相には相違が見られるといえる。

3) 出現率と優占種

出現率

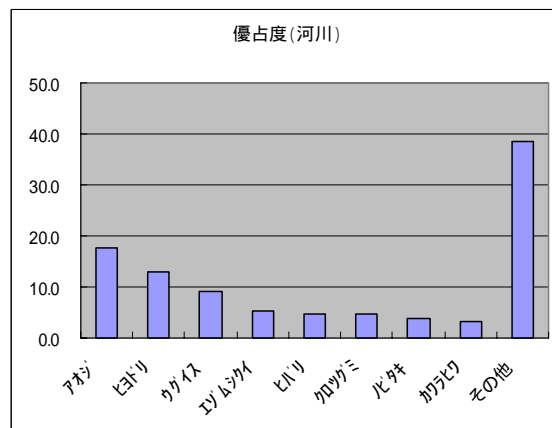
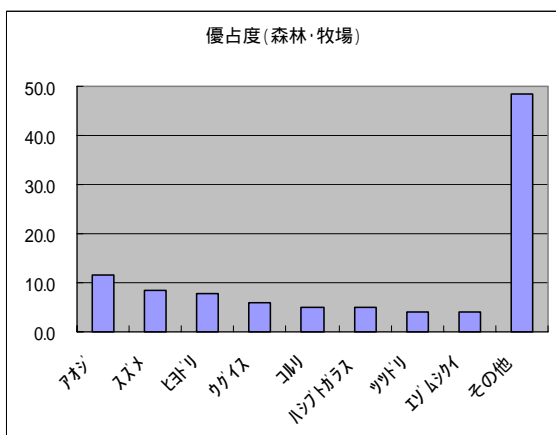
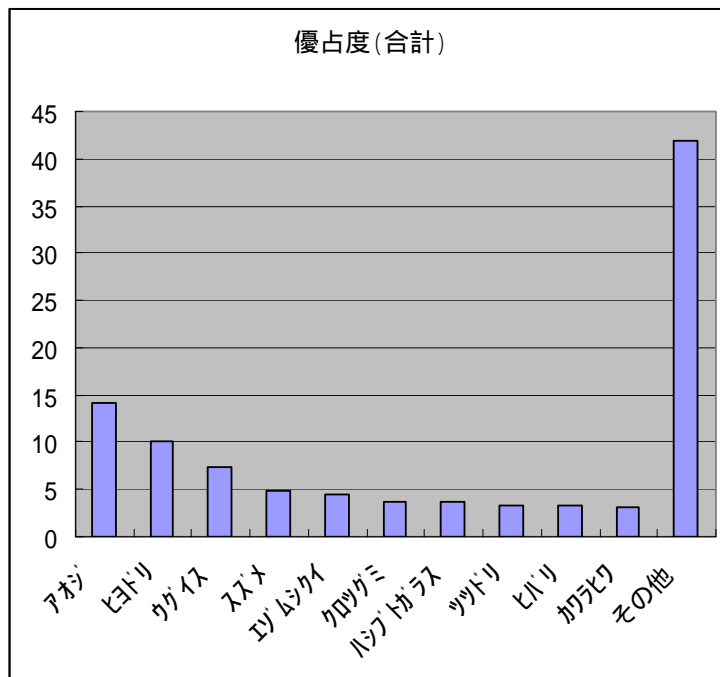
ラインセンサス(2 区間)と鳥類相調査 5 回の合計 7 回の調査のうち、それぞれの種が何回出現したかを見ることで、その種がどのくらい観察されやすいかを知ることができる。

その結果、ヒヨドリとウグイスが 6 回出現しており最も多かった。次いで、キジバト、コゲラ、クロツグミ、ハシブトガラ、アオジ、シメが 5 回であった。これらが、トラストの森周辺で春～夏に普通に見られる鳥類であるといえる。

他方、オオタカ、クマゲラ、ルリビタキなど 24 種は 1 回しか出現しておらず、これらはこの期間にはまれにしか見られない種であるといえる。

優占種

ラインセンサスで得られた優占度から、上位種をグラフに示した。



森林・牧場区間、河川区間を合計した優占度では、アオジが最も優先し14%を占めた。次いでヒヨドリ(10.2%)、ウグイス(7.3%)の優先度が高く、スズメ、エゾムシクイ、クロツグミ等7種が3%以上の優占度であった。

森林・牧場区間では、コルリが優占度上位種に含まれるのが特徴的である。

河川区間では、ノビタキが優占度上位種に含まれた。

3.1.4 注目すべき種

オオタカ

今回の調査で初めて記録された。高速道路上流の無名橋付近で9月に記録された。オオタカの繁殖はカラマツ林で行われる例が多いので、周辺での繁殖も考えられる。レッドリスト記載種、国内希少種。

オオジシギ

牧場周辺で数つがい繁殖するものと思われる。最近減少が心配される種であるが、この地域ではまだ普通に生息している。レッドリスト記載種。

ホトギス

6月にトラストの森内で記録された。ホトギスは従来道内では渡島半島南部に限って生息するとされていたが、最近分布域が北上している可能性がある。この地域は分布の北限に近い生息地であると思われる。

ヤマセミ

この地域で繁殖しているものと思われる。ヤマセミは河川沿いの大きな崖地で繁殖するが、このような場所は河川工事等で失われやすく、減少が心配される。北海道レッドリスト記載種。

クマゲラ

9月にトラストの森北側で記録された。またトラストの森内にクマゲラの食痕も見られている。この地域にはクマゲラが繁殖するような大径木は少なく、繁殖はしていないと思われる。秋～冬の非繁殖期に採餌等のためにこの地域を利用している。国指定天然記念物、レッドリスト記載種。

3.1.5 考察

今回の調査は6月～10月の期間に行われたため、留鳥(一年中ウヨロ川周辺に生息する種)と夏鳥(ウヨロ川周辺に繁殖のためにやってくる種)を記録することができた。また、10月には一部の冬鳥も記録された(カシラダカ、ミヤマホオジロ、マヒワ)。

今回の調査で新たに記録された種を含め、この地域で生息が確認された鳥類は80種となった。(表 3-3 参照)

今後も観察を続けることにより、この種類数は増加することが考えられる。特に冬鳥および旅鳥(春・秋の渡り時期に通過する種)についてはまだ十分な観察がなく、今後も観察を続けることにより明らかにしていく必要がある。

今回は6月にラインセンサスを行って、繁殖期の鳥類について明らかにすることができた。アオジ、ウグイス、ヒヨドリは優占度、生息密度が高く、また出現率も高いことから、春～夏にこの地域に最も普通に生息する種といえる。また鳥類群集の構成としては、少数種が飛び抜けて高い優先度を示すことなく、種多様性の比較的高い構成となっており、健全な鳥類群集が維持されているものと考えられる。これは、この地域の環境の多様性に依っているものと考えられる。

この地域は、森林、牧草地や草原、河川、さらに人家などの人為的環境がモザイク状に分布した複雑な環境となっている。これに対応して鳥類も、コルリやエゾムシクイなどの森林性の種、ヒバリ、ノビタキなどの草原性の種、ヤマセミ、カワセミといった河川性の種、人家周辺に生息するスズメ等、多様な種構成となっている。

種類数としては、森林性の種が最も多い。コルリ、エゾムシクイ、キバシリといった鬱閉した林内に生息する種も見られるが、アオジ、クロツグミ等の林縁や開放的な林に生息する種がより多く生息する。これは、森林がモザイク状に分布するこの地域の特徴を反映したものである。

牧草地・放牧地もこの地域の環境の主要な要素であり、占める面積も森林に匹敵する。この環境では、オオジシギ、ヒバリ、ノビタキ、ホオアカ、オオジュリンといった草原性の鳥類が生息する。しかしこれらの種の生息密度は低く、優占度上位種としてはヒバリがあげられる程度である。これは、この環境では牧草の採草等の作業が行われており、草原性鳥類の生息地として安定した環境とはなっていないためと考えられる。

河川ではアオサギ、イソシギ、ヤマセミ、カワセミ、カワガラスが観察された。このうち、イソシギ、ヤマセミ、カワセミは調査範囲内で少なくとも1つがいの繁殖が行われているものと思われる。カワガラスは繁殖期には見られず、秋に観察された。さらに、河川周辺に生息する種として、キセキレイ、セグロセキレイが見られた。これらも1つがい程度が生息した。ウヨロ川のような環境の河川では、通常カワガラス、キセキレイ等はずっと高密度に生息する例が多い。ウヨロ川でこれらの種の生息密度が低いことの理由は不明である。

(2006年11月 自然ウォッチングセンター)

3.1.6 参考資料1 鳥類リスト

表 3-3 参考資料1 (萩の里自然公園を含むウヨロ川中・下流域の鳥類リスト)

	目	科	種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	萩の里調査	トラスト周辺	06トラスト調査	備考
1	コウノトリ目	鶯科	アオサギ						+			*	*	
2	加賀目	加賀科	マガモ	+							*	*		
3	加賀目	加賀科	コガモ						+			*		
4	加賀目	加賀科	カアアサ							+		*		
5	タカ目	タカ科	トビ	+	+	+	+		+	+	*	*	*	
6	タカ目	タカ科	オオカ						+				*	
7	タカ目	タカ科	ノスリ						+	+	*	*	*	
8	タカ目	タカ科	オジロヅク							+		*		
9	ホドリ目	シギ科	イソシギ			+	+					*	*	
10	ホドリ目	シギ科	オジシギ		+	+					*		*	
11	ホドリ目	シギ科	ヤマシギ			+	+					*	*	
12	ホドリ目	加メ科	オオセウカキ							+		*		
13	ハト目	ハト科	キジバト	+	+	+	+	+	+	+	*	*	*	
14	ハト目	ハト科	アオバト			+	+		+		*	*	*	
15	カッコウ目	カッコウ科	ジュウイチ			+							*	
16	カッコウ目	カッコウ科	カッコウ			+					*	*	*	
17	カッコウ目	カッコウ科	ツツドリ			+					*	*	*	
18	カッコウ目	カッコウ科	ホトギス			+	+					*	*	
19	アマツバメ目	アマツバメ科	アマツバメ						+			*		
20	ブッポウソウ目	カハシ科	ヤマハシ			+				+		*	*	
21	ブッポウソウ目	カハシ科	カハシ			+			+		*	*	*	
22	キツツキ目	キツツキ科	アリスイ			+							*	
23	キツツキ目	キツツキ科	クマガラ						+				*	
24	キツツキ目	キツツキ科	アカガラ		+	+	+		+	+	*	*	*	
25	キツツキ目	キツツキ科	オオアカガラ	+							*			
26	キツツキ目	キツツキ科	コガラ		+	+	+	+	+	+	*	*	*	
27	スズメ目	ヒバリ科	ヒバリ	+		+	+				*	*	*	
28	スズメ目	ツバメ科	イソツバメ			+	+				*	*	*	
29	スズメ目	セキレイ科	キセキレイ	+	+	+			+		*	*	*	
30	スズメ目	セキレイ科	ハクセキレイ	+		+	+				*	*	*	
31	スズメ目	セキレイ科	セウロセキレイ			+							*	
32	スズメ目	セキレイ科	ヒンズイ			+			+				*	
33	スズメ目	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	+	+	+	+	+	+	+	*	*	*	
34	スズメ目	モズ科	モズ			+		+	+		*	*	*	
35	スズメ目	カガラス科	カガラス						+				*	
36	スズメ目	ツグミ科	コノハ			+	+	+	+		*		*	
37	スズメ目	ツグミ科	ルビキ	+						+	*		*	
38	スズメ目	ツグミ科	ルビキ	+		+					*	*	*	
39	スズメ目	ツグミ科	トラツグミ		+	+					*	*	*	
40	スズメ目	ツグミ科	クロツグミ		+	+	+	+	+	+	*	*	*	
41	スズメ目	ツグミ科	アカハラ		+	+	+		+	+	*	*	*	
42	スズメ目	ツグミ科	ツグミ							+	*	*		
43	スズメ目	ウグイス科	ヤブウグイス		+	+	+		+		*		*	
44	スズメ目	ウグイス科	ウグイス		+	+	+	+	+	+	*	*	*	
45	スズメ目	ウグイス科	イソシロウグイス			+	+				*		*	
46	スズメ目	ウグイス科	オオシロウグイス			+							*	
47	スズメ目	ウグイス科	メボソウグイス			+							*	
48	スズメ目	ウグイス科	イソメソウグイス		+	+					*		*	
49	スズメ目	ウグイス科	センダングサ		+	+	+	+	+		*	*	*	
50	スズメ目	ウグイス科	キイタダキ	+		+					*			
51	スズメ目	ヒタキ科	ヒタキ			+	+				*	*	*	
52	スズメ目	ヒタキ科	オオヒタキ			+	+				*	*	*	
53	スズメ目	ヒタキ科	イソヒタキ		+	+					*		*	
54	スズメ目	ヒタキ科	コサビ				+				*			
55	スズメ目	イナガ科	イナガ	+	+		+		+	+	*	*	*	
56	スズメ目	シユウカラ科	ハシロトガラ	+	+	+	+	+	+	+	*	*	*	
57	スズメ目	シユウカラ科	コガラ				+						*	
58	スズメ目	シユウカラ科	ヒガラ	+	+	+					*	*	*	
59	スズメ目	シユウカラ科	ヤマガラ		+		+	+	+	+	*		*	
60	スズメ目	シユウカラ科	シユウカラ	+	+	+	+	+	+	+	*	*	*	

61	スズメ目	ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ		+	+	+	+	+	+	*	*	*	
62	スズメ目	キハシ科	キハシ			+	+		+			*	*	
63	スズメ目	メジロ科	メジロ		+	+	+	+	+	+	*	*	*	
64	スズメ目	ホオジロ科	ホオジロ	+		+	+			+	*	*	*	
65	スズメ目	ホオジロ科	ホオアカ			+								*
66	スズメ目	ホオジロ科	カシラダカ							+				*
67	スズメ目	ホオジロ科	ミヤマホオジロ							+	*		*	
68	スズメ目	ホオジロ科	アオジ	+	+	+	+	+	+	+	*	*	*	
69	スズメ目	ホオジロ科	オオジュリン			+								*
70	スズメ目	アトリ科	カワセウ	+	+	+	+		+	+	*	*	*	
71	スズメ目	アトリ科	マユ		+					+	*	*	*	
72	スズメ目	アトリ科	ヘニマシコ			+	+	+		+	*	*	*	
73	スズメ目	アトリ科	イカル			+	+	+	+		*	*	*	
74	スズメ目	アトリ科	シメ			+	+		+	+	*	*	*	
75	スズメ目	ハタオリドリ科	ニューナイスメ			+								*
76	スズメ目	ハタオリドリ科	スズメ	+		+		+			*		*	
77	スズメ目	ムクドリ科	コムクドリ			+					*			
78	スズメ目	カラス科	カラス						+	+	*	*	*	
79	スズメ目	カラス科	ハシボソガラス	+		+			+	+	*	*	*	
80	スズメ目	カラス科	ハシブトガラス		+	+	+	+	+	+	*	*	*	

リスト作成 自然ウォッチングセンター

萩の里調査：1997年の萩の里自然公園自然環境調査

トラスト周辺：2003年～2005年のトラストの森周辺の記録

06 トラスト調査：2006年のラインセンサス及びトラストの森周辺鳥類相調査

3.1.7 参考資料2 フットパスで見られる野鳥(春)



図 3-2 参考資料2 フットパスで見られる野鳥(春) 1/8

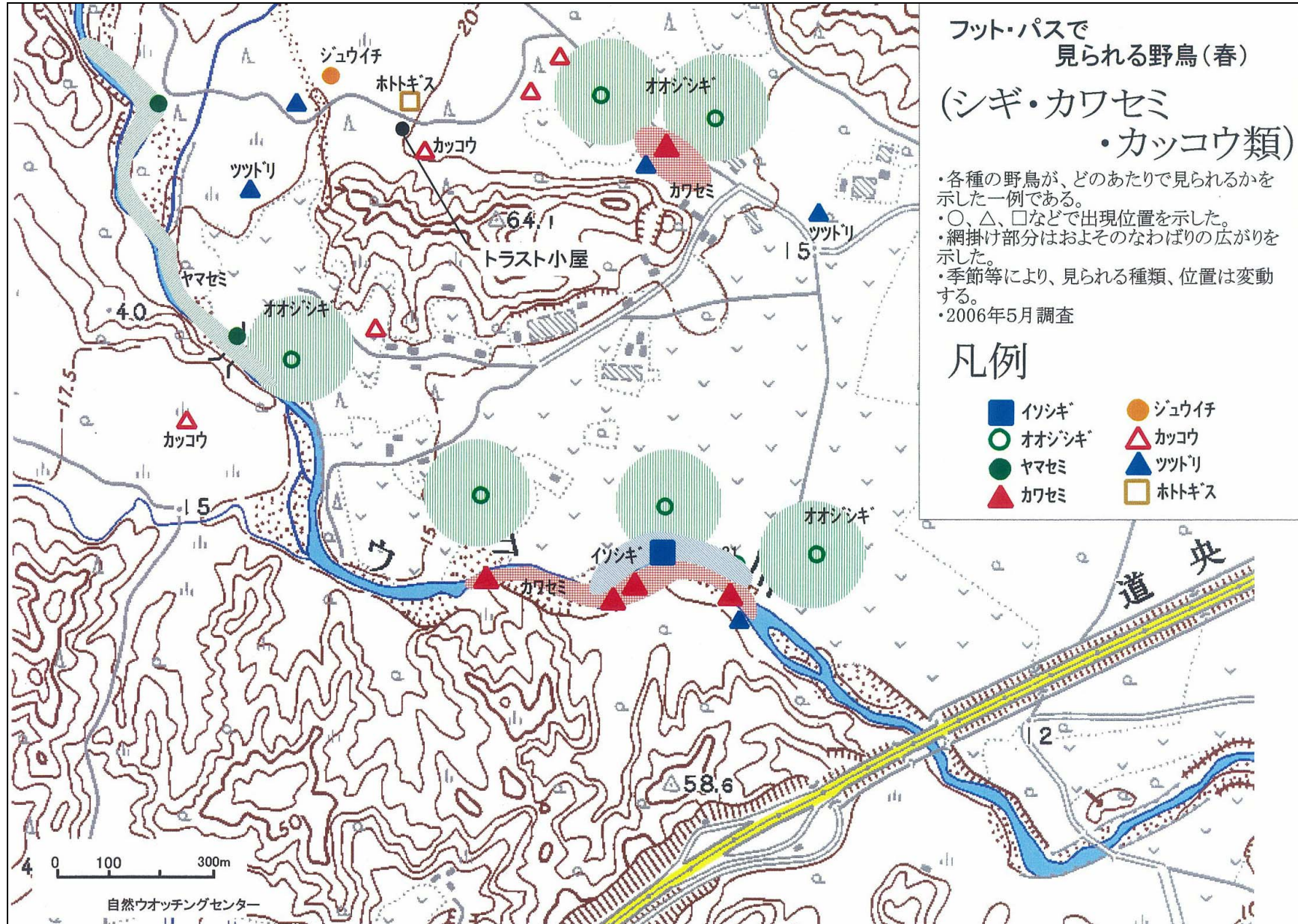


図 3-3 参考資料 2 フットパスで見られる野鳥(春) 2/8

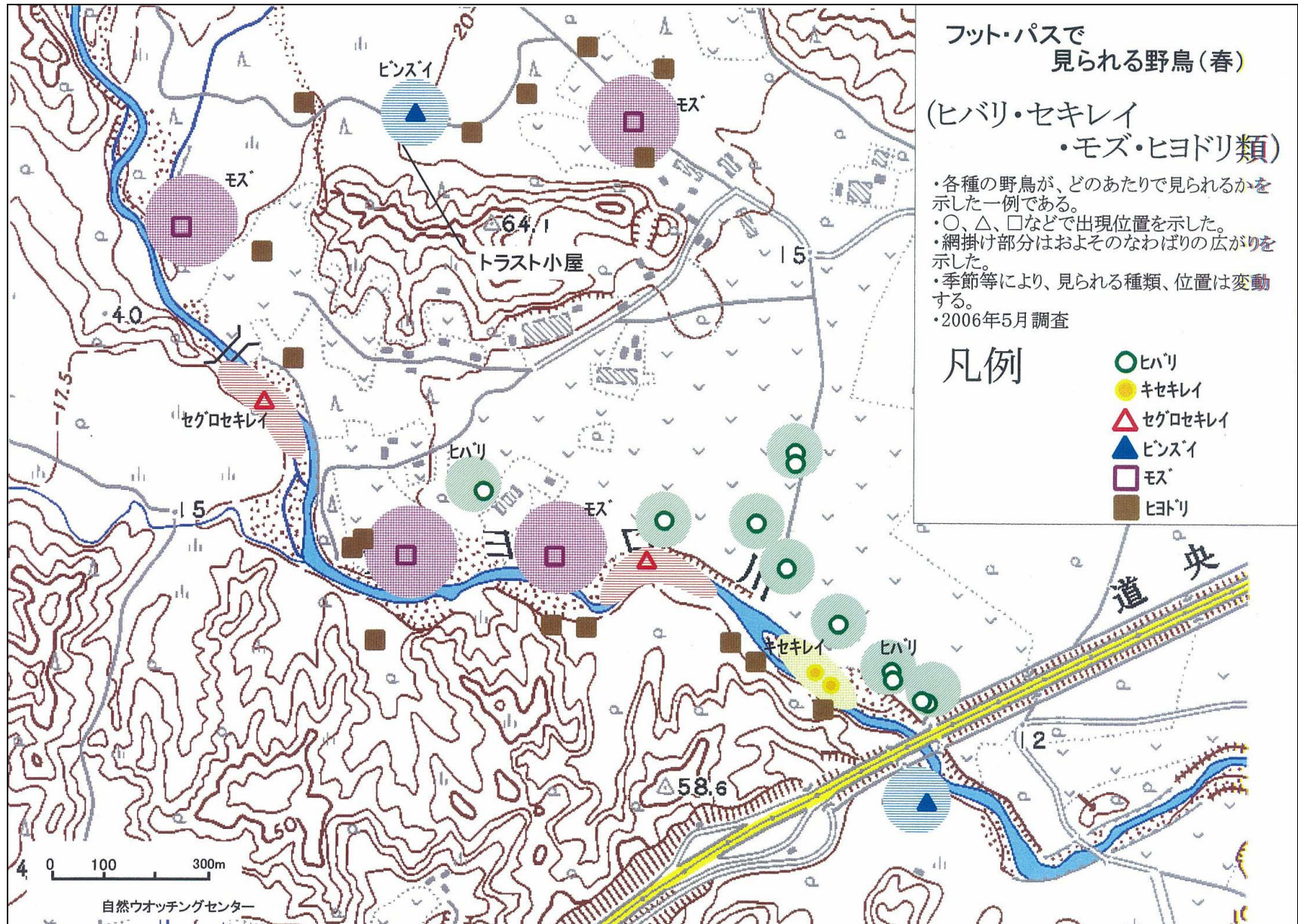


図 3-4 参考資料 2 フットパスで見られる野鳥(春) 3/8

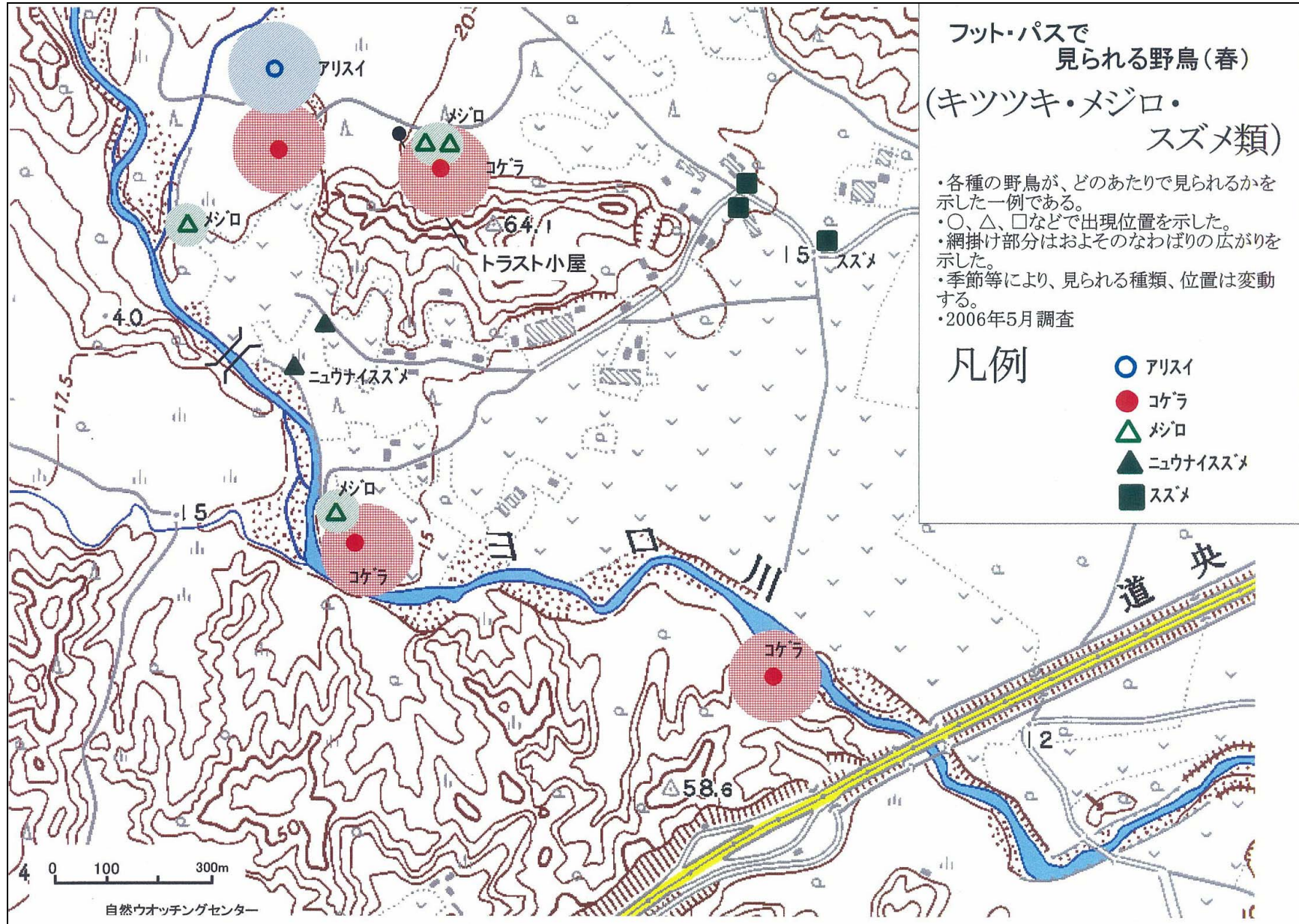


図 3-5 参考資料 2 フットパスで見られる野鳥(春) 4/8

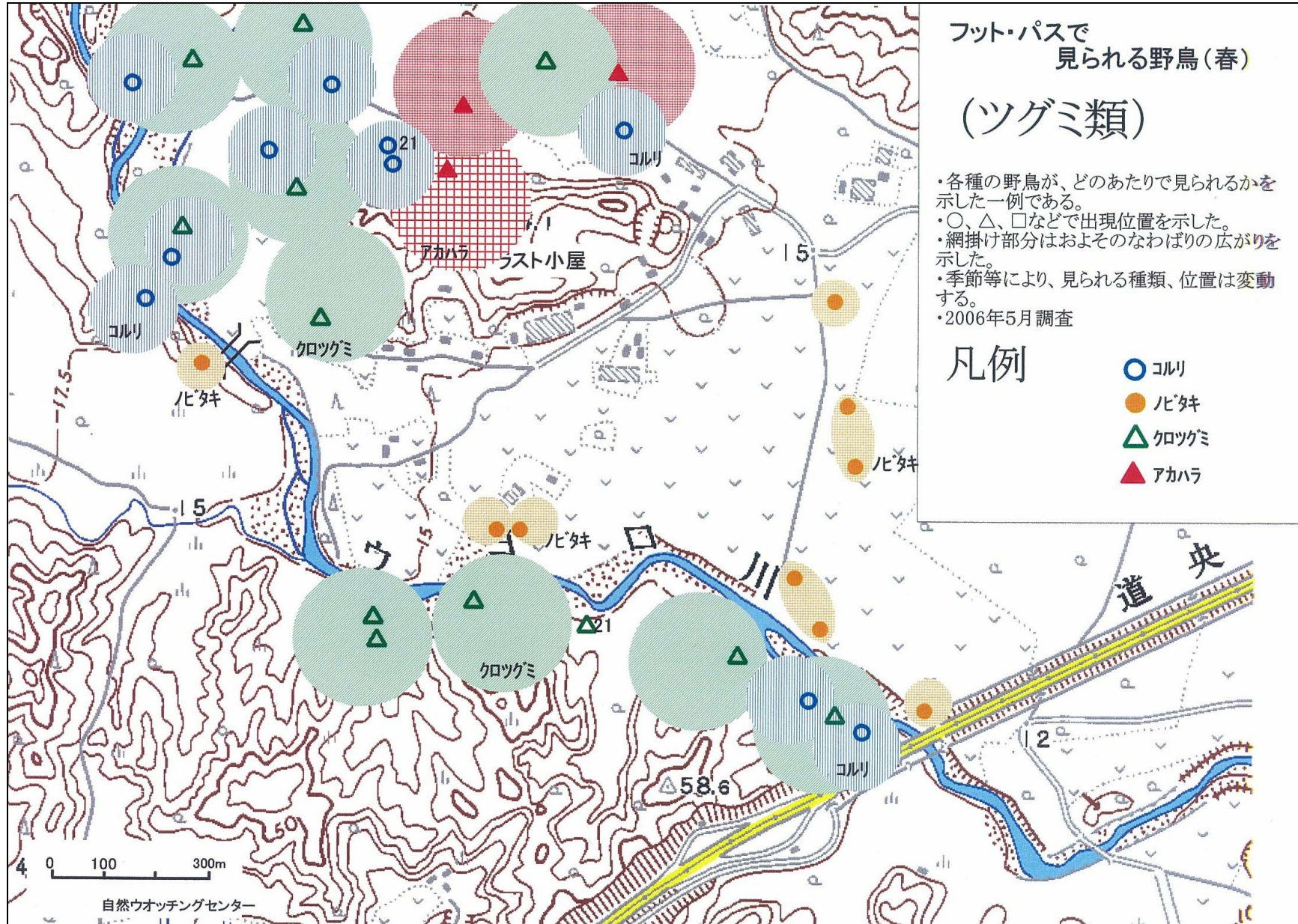


図 3-6 参考資料 2 フットパスで見られる野鳥(春) 5/8



図 3-7 参考資料 2 フットパスで見られる野鳥(春) 6/8

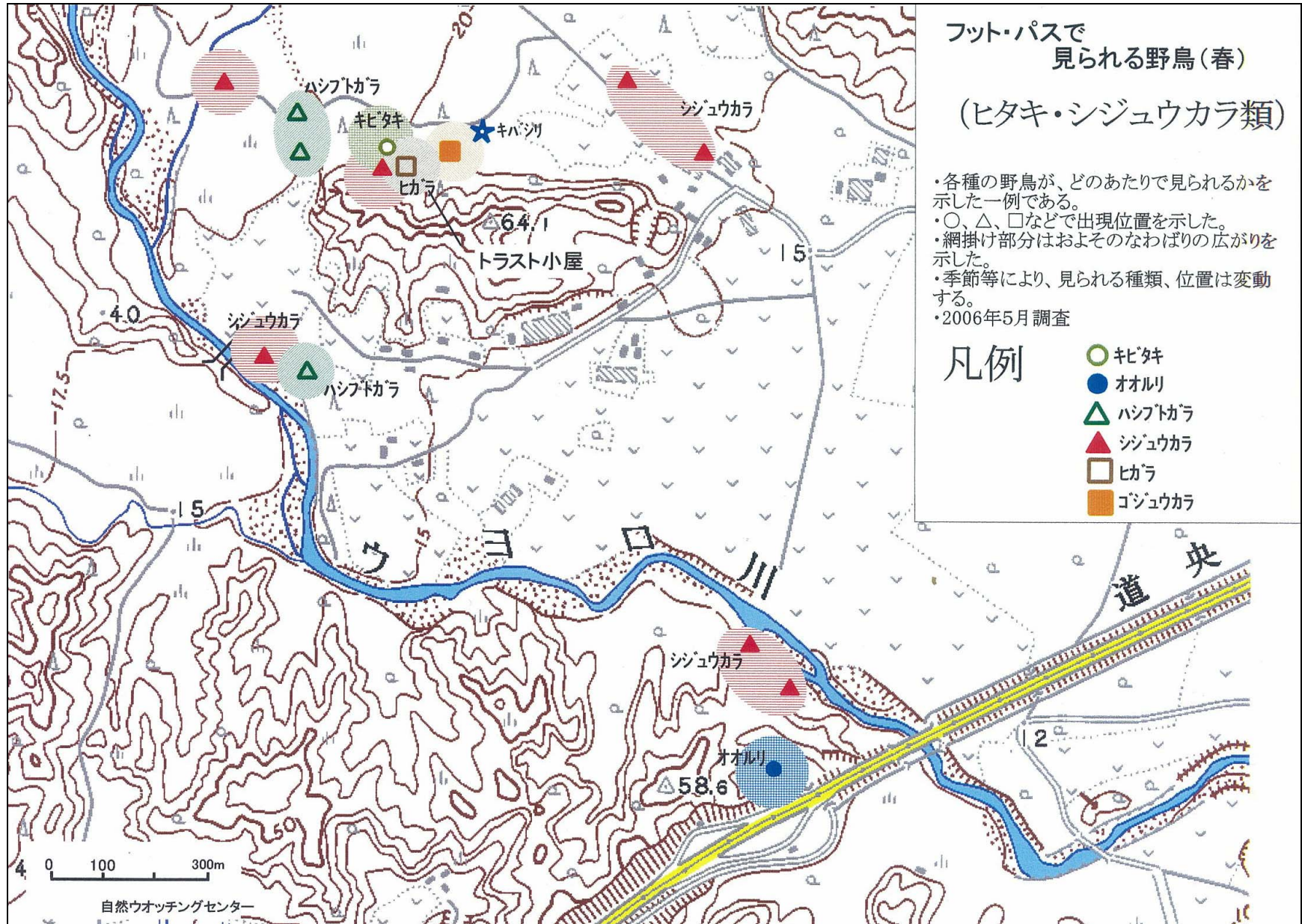


図 3-8 参考資料 2 フットパスで見られる野鳥(春) 7/8

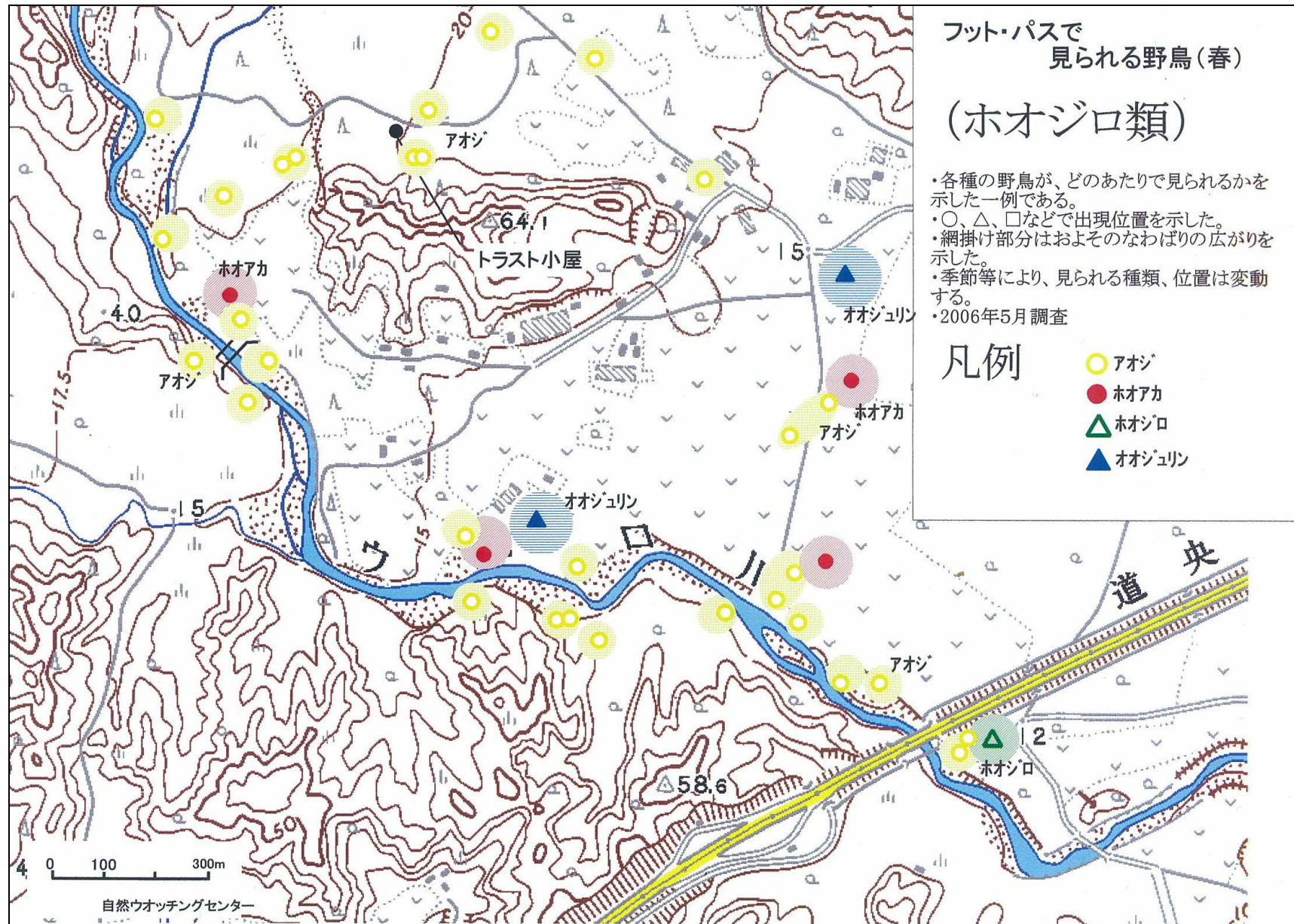


図 3-9 参考資料2 フットパスで見られる野鳥(春) 8/8

3.2 里山の小型哺乳類調査

3.2.1 調査概要

里山自然環境調査における生物多様性調査の一環として、北海道胆振地方の落葉広葉樹二次林とカラマツ人工林において下草を刈った場所(以下、草刈り区)と自然のままに下草を刈っていない場所(自然区)における小型哺乳類の生息状況を把握するため、調査を行った。

3.2.2 調査期間

2006年7月6日～8日の3日間にわたって行った。

3.2.3 調査者

NPO法人ウヨロ環境トラスト 佐藤辰夫・宗広光明・濱田満・河野功・辻昌秀
北海道立林業試験場 中田圭亮(技術指導)

3.2.4 調査方法

地上性の小型哺乳類を調査するため、各区にそれぞれ10m間隔の2列10行にして列状にワナ地点を設け、各ワナ地点にシャーマン型生け捕りワナを1個ずつおいて(ワナ数は計20個)、2日間の捕獲作業を行った。なおワナにはえん麦を使用した。

捕獲された小型哺乳類は指切り法によって標識をつけ捕獲地点に放した(日本哺乳類学会種名・標本検討委員会、2001)。2日間の未標識個体の捕獲合計数をもって生息数の指標とした。

3.2.5 調査地

白老町字石山に位置する萩の里自然公園(HA)、エコの森(EC)、トラストの森(TO)の3カ所で調査した(図3-10)。

HAはミズナラ、カエデ類、ハンノキ類、ホオノキ、ヤマグワ、ウダイカンバ、キハダなどの落葉広葉樹の二次林である。草刈り区と自然区はともに林内に設けた。草刈り区は幅員4mの舗道された管理用道路に沿って設けた。道路に近い列は道路から10m離れた。ここはオニシモツケやスゲ類、イワミツバ、シソ科の一種、シダ類などの草本によって林床が密に被われている。近傍にミヤコザサの密生地はあるが、ワナかけ場所は草本だけの場所である。地上高1mから目視した被度は80%～100%である。平坦地。この場所は2、3年にわたり草刈りと簡単な清掃作業が励行されて、直径3cm以上の落枝はほとんどない。2006年は調査後7月8日に草刈りが行われた。一方、自然区は草刈り区から約300m離れた林内に設けた。ここは広葉樹の若木や灌木も多い場所である。林床植生はササ類と草本の混生地で、ササとしては、チシマザサとミヤコザサ、草本としては、オニシモツケ、スゲ類、イネ科の一種、チョウセンゴミシ、シダ類、フキ、ツタウルシなどが生育している。被度は75%～100%。ササ本数は1m²で5本から21本である。傾斜地で、斜度は平均7°。落枝は1m²あたり1本程度ある(図3-11)。

ECはウヨロ川に沿ったミズナラ、ハルニレ、イタヤ類、カンバ類、エゾヤマザクラ、センノキなどの落葉広葉樹の河畔林である。草刈り区は伐採跡地で、草本とミヤコザサの混生地である。2002年にカシワ、イヌエンジュ、イタヤカエデ、ハルニレ、カンバ類などの広葉樹を植栽した。草本とササの被度は85%～100%。ササは1m²で16本から230本。草本はヨモギ、チモシー、コウヤワラビ、アラゲハンゴンソウなど。2006年6月下旬に植栽木の周りを坪刈りした(草刈りした面積は全面積の30%ほど

にあたる)。平坦地。落枝は少なく、1㎡あたり0 - 1本。落葉層は自然区に比べて薄い。植栽木の多くはエゾシカの激しい採食を受け、樹高が1mに満たない若木も多い。一方、自然区はミヤコザサが優占する場所で、その本数は1㎡で130本から138本。ササ高は65cm - 100m。ササのほかにはスゲ類が混生しているが、景観的にはササ地である。被度は70% - 95%。落葉層は多くのワナ地点で厚いが、落枝は少なく、1㎡で0 - 1本。平坦地。草刈り区と自然区は約80m離れている(図3-12)。

TOは1967年ないし1968年に植栽されたカラマツ人工林である。草刈り区はミヤコザサ、スズタケ、フッキソウ、スゲ類などが混生している。ササ本数は1㎡あたり15本 - 72本で、高さは35cm - 45cm。ササの割合は30% - 95%ほどである。被度は5% - 50%。平坦地。2006年5月に全刈りされた。平坦地。自然区はササと草本の混生地であるが、ササが多く、その割合は90% - 100%である。草本としてはフッキソウなどが見られる。ササはミヤコザサとスズタケの2種が生育している。優占するミヤコザサの本数は1㎡で71本から254本、高さは80cm - 85cm。スズタケは一部に混生し、本数は1㎡で15本。被度は90% - 100%。平坦地。落葉層は厚い。落枝や伐採後に放置された樹幹が1㎡で2本 - 4本ある。草刈り区と自然区は約40m離れている(図3-13)。

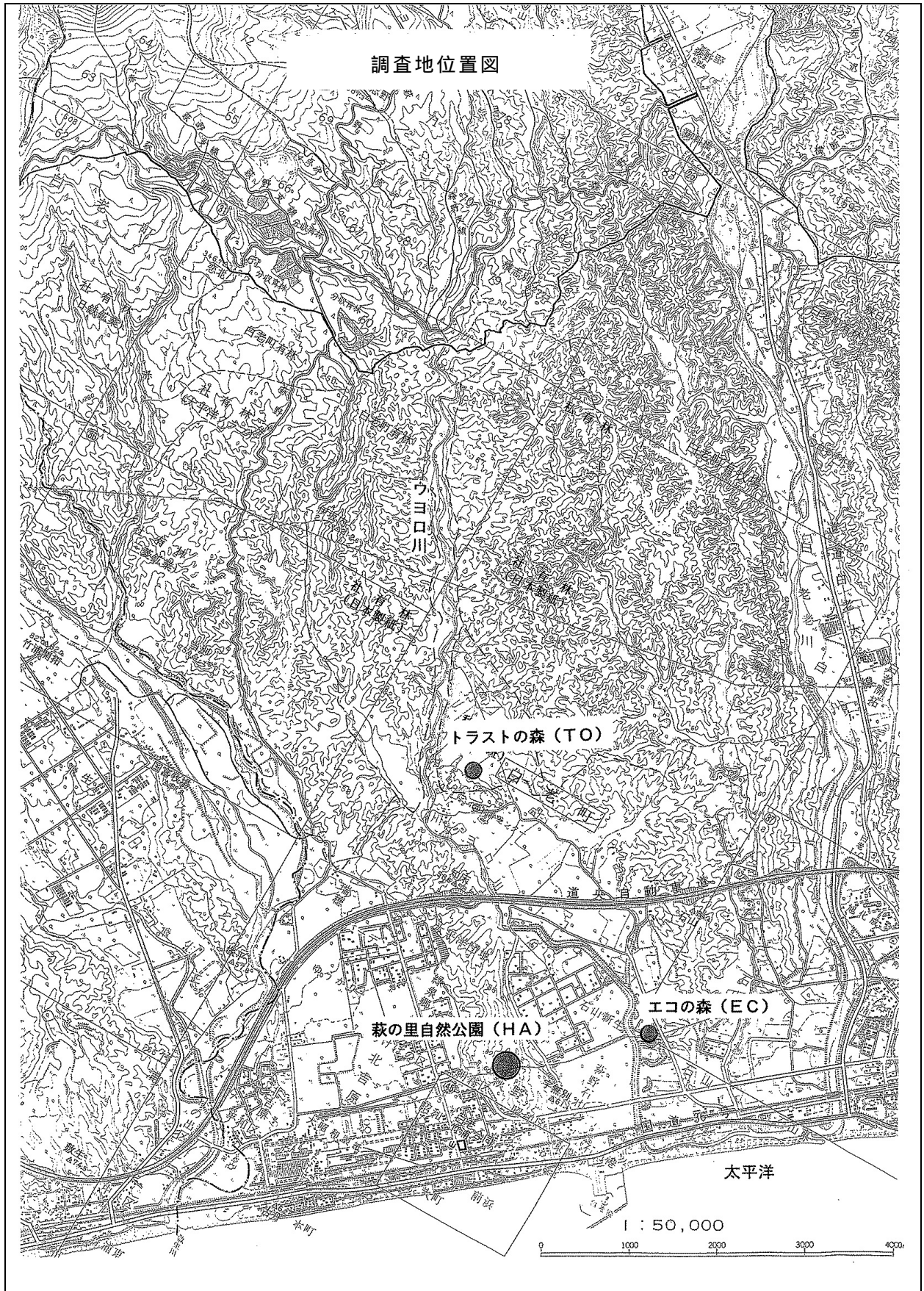


図 3-10 調査地位置図

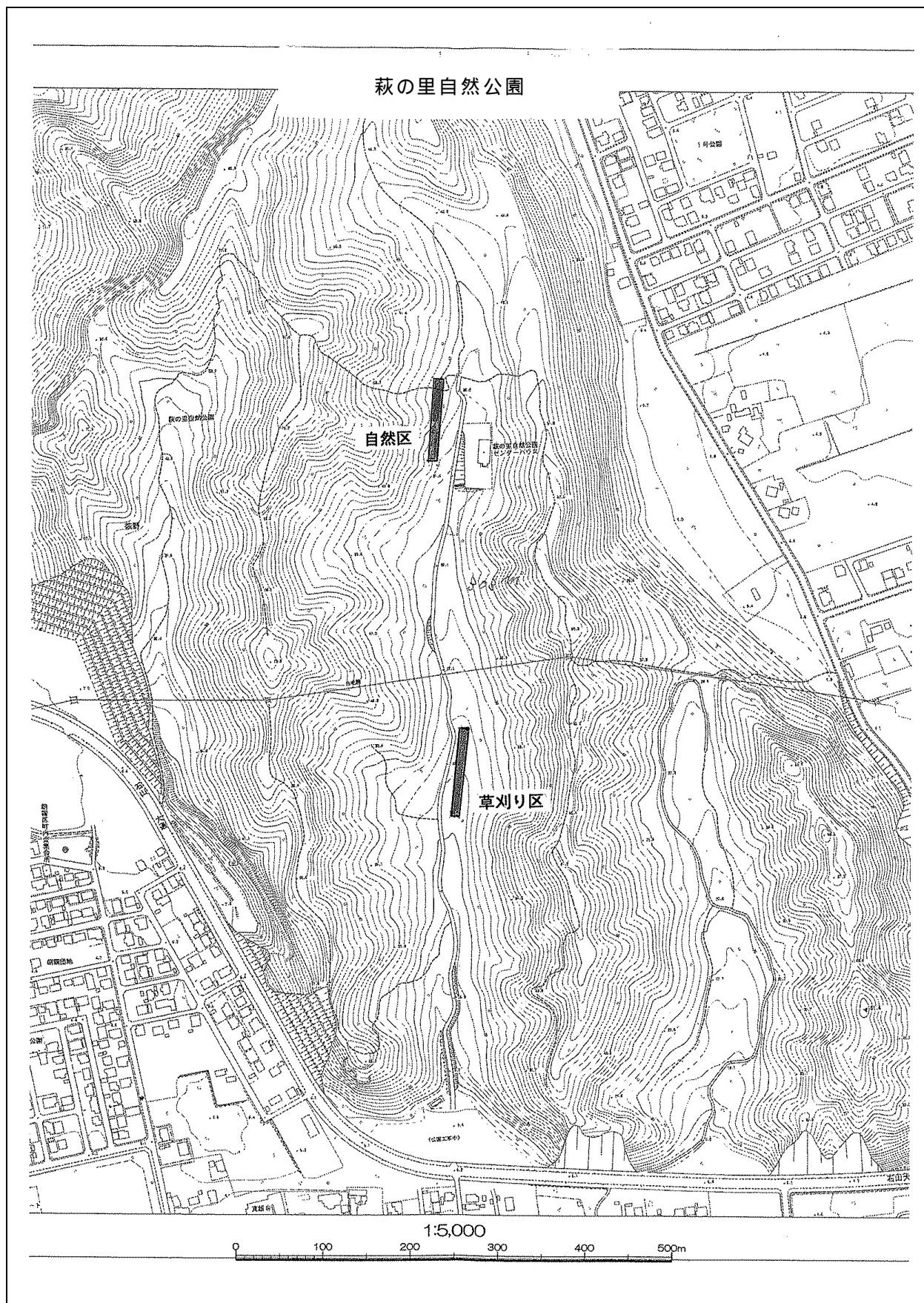


図 3-11 萩の里自然公園調査箇所図

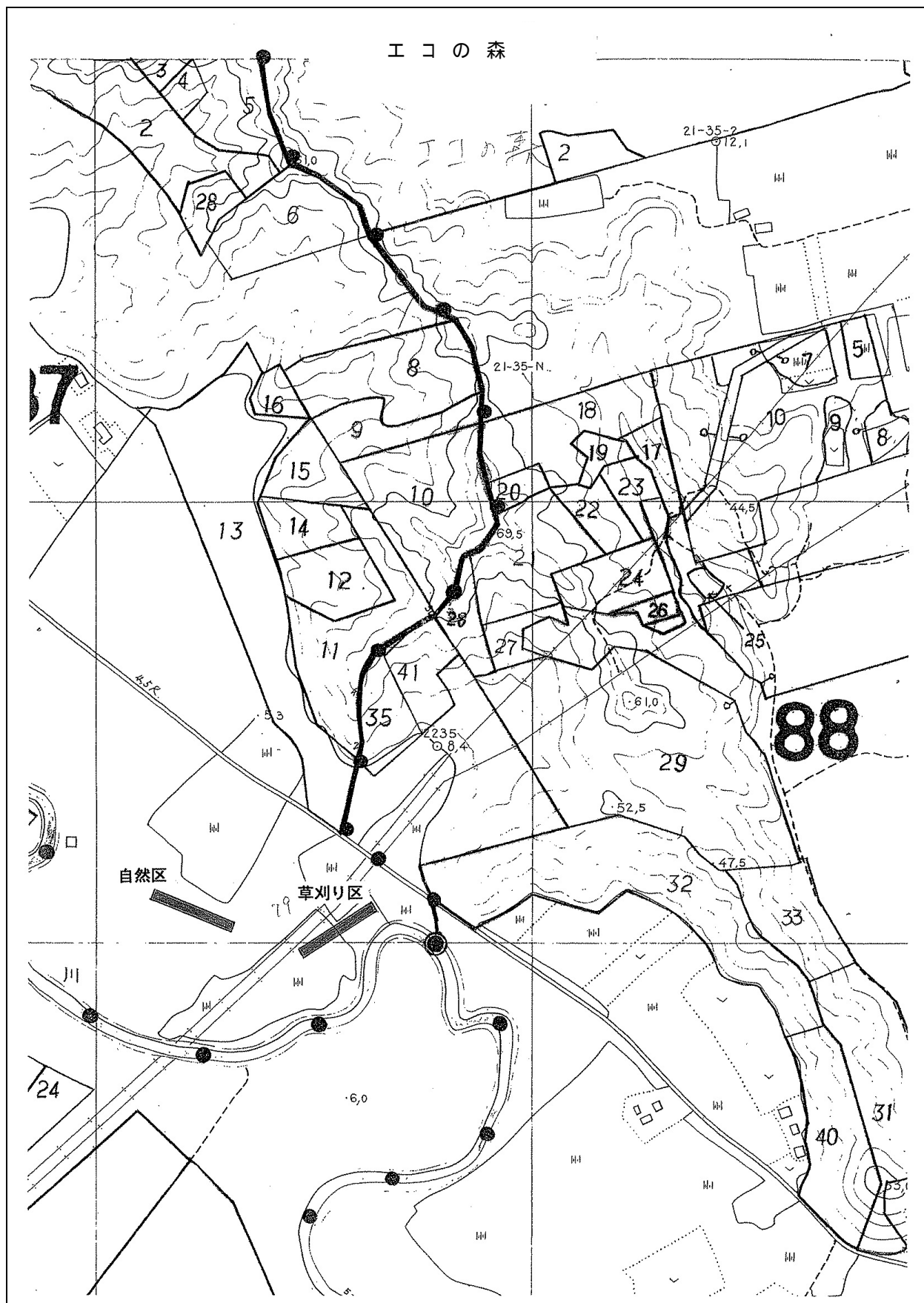


図 3-12 エコの森調査箇所図

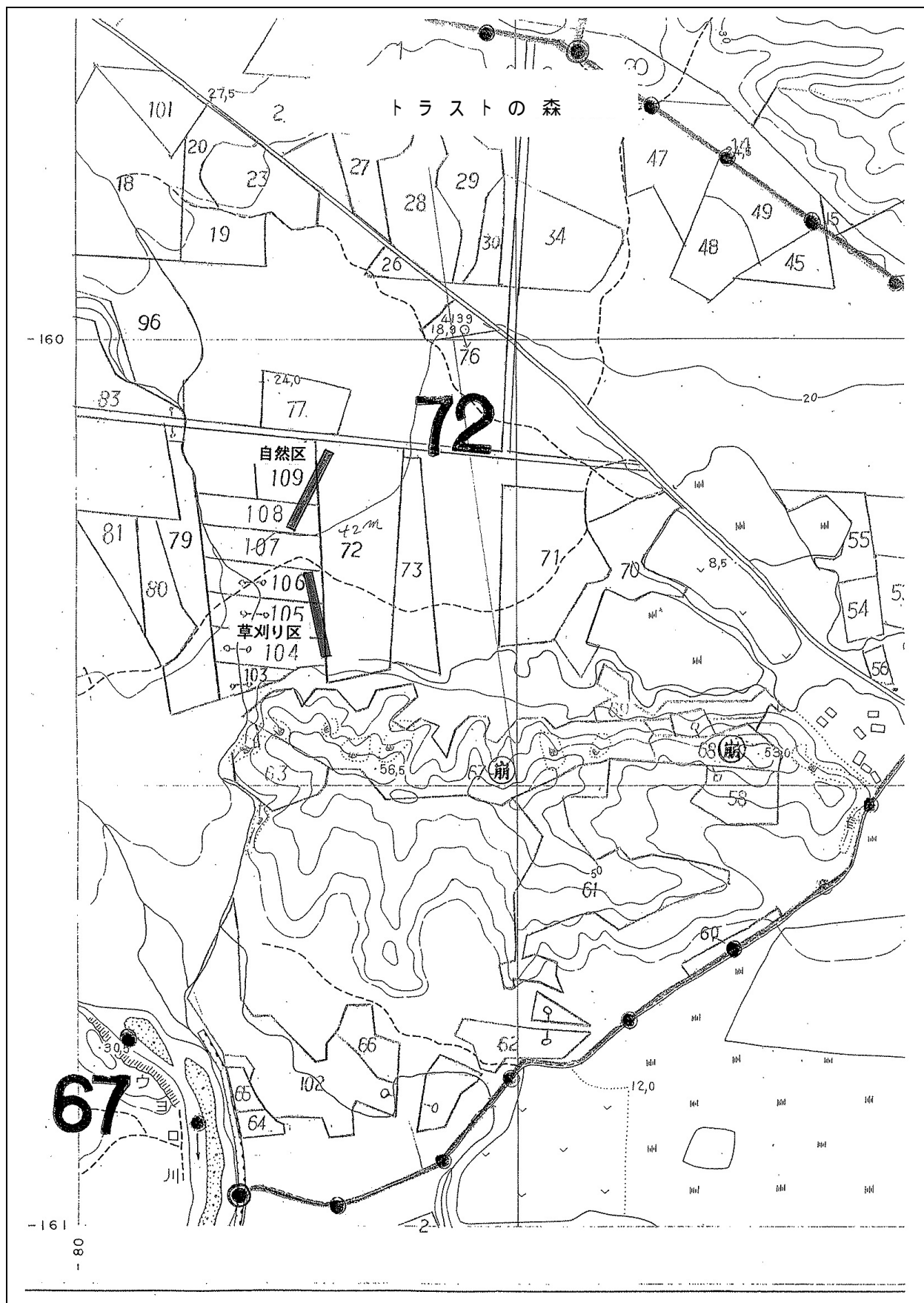


図 3-13 トラストの森調査箇所図

3.2.6 結果と考察

白老町字石山の3カ所の調査地ではネズミ類とトガリネズミ類の合計5種が捕獲された(表3-4)。このうちネズミ類はエゾヤチネズミ、エゾアカネズミ、ヒメネズミの3種であり、トガリネズミ類はオオアシトガリネズミとエゾトガリネズミの2種であった。これらは道内に広く分布している生息数が多い種である。今回は短期間の調査であるため場所ごとにみると捕獲されていない種もあるが、くり返して調査を行うと、3カ所とも同じ種が今後捕獲される可能性は高い。

表 3-4 調査区において捕獲された小型哺乳類の種構成と捕獲数

種類	捕獲数
HA 草刈区 エゾヤチネズミ	1
HA 自然区 エゾヤチネズミ	9
エゾアカネズミ	6
ヒメネズミ	1
EC 草刈区 エゾヤチネズミ	4
EC 自然区 エゾヤチネズミ	13
エゾトガリネズミ	1
TO 草刈区 エゾヤチネズミ	5
オオアシトガリネズミ	6
TO 自然区 エゾヤチネズミ	13
エゾアカネズミ	1
オオアシトガリネズミ	2
エゾトガリネズミ	1

学名などは以下のとおりである。

げっ歯目ネズミ科

エゾヤチネズミ *Myodes rufocanus bedfordiae*

エゾアカネズミ *Apodemus speciosus ainu*

ヒメネズミ *Apodemus argenteus*

食虫目トガリネズミ科

オオアシトガリネズミ *Sorex unguiculatus*

エゾトガリネズミ *Sorex caecutiens saevus*

TO 草刈り区の一部はササが刈られていなかったため、そのワナ地点を除くと、捕獲数はエゾヤチネズミ1頭、オオアシトガリネズミ2頭となる。このほか TO 自然区ではネズミ類・トガリネズミ類のほかエゾアカガエル1頭がワナに捕獲された。

個別の調査地ごとにまとめると、HA では、草刈り区はエゾヤチネズミが1頭だけ捕獲された。一方、自然区はエゾヤチネズミ、エゾアカネズミ、ヒメネズミの3種16頭が捕獲された。草刈り区と自然区を比べると、捕獲される種類また捕獲数ともに、草刈り区は自然区より少ない。自然区では広葉樹の若木や灌木が多く、また林床植生のササはエゾヤチネズミの好む餌資源であるとともに格好の

すみ場所を提供する(太田、1984;中田、1998)ので、植生の質的また量的な違いが結果に反映していると考えられる。

ECでは草刈り区はエゾヤチネズミ4頭だけの捕獲であり、生息数は少なかった。一方、自然区はエゾヤチネズミとエゾトガリネズミの2種14頭が捕獲された。草刈り区と自然区を比べると、HAと同じく、捕獲される種類また捕獲数ともに草刈り区は自然区より少ない。自然区では、ササと広葉樹の枯れ葉が落葉層に厚く、またササが密生していることがこのような結果に反映されたものと考えられる。なお自然区は落葉広葉樹の河畔林であるので、今後ヒメネズミといった森林性のネズミ類も捕獲される可能性が高い。

TOでは、草刈り区はエゾヤチネズミとオオアシトガリネズミの2種11頭が捕獲され、自然区はエゾヤチネズミ、エゾアカネズミ、オオアシトガリネズミ、エゾトガリネズミの4種17頭が捕獲された。TOの草刈り区と自然区で捕獲された種類と捕獲数は、ほかのHAとECの調査地よりも多かった。とくに自然区でエゾヤチネズミが13頭とEC自然区と同じく多かったことは、ササが密生していることを反映していると考えられる。草刈り区と自然区を比べると、ほかの調査地と同じく、捕獲される種類また捕獲数ともに、草刈り区は自然区より少ない。自然区ではササを中心にして植生が繁茂していることがこのような結果に反映されたものと考えられる。

中田(1998)によると、パンチュウトラップなどの捕殺式のワナを10m間隔の2列10行に配置する簡易調査では、2日間の捕獲合計数が0-5頭で普通の生息状況、6-11頭でやや多い、12頭以上で多いとしている。今回の結果はワナの種類とワナ数がことなるが、捕獲数の概数基準に当てはめると、エゾヤチネズミは3調査地とも、草刈り区では普通の生息状況、また自然区ではいずれもやや多いから非常に多いという状況であった。

以上のように、草刈り区は自然区に比べて、小型哺乳類の種構成は単純であり、また捕獲数も少なかった。草刈り区では自然区に比べてササが質量ともに少なく、また草刈りによって植生が部分的になくなっていたので、そのような林床植生の違いが今回の結果に表出したと考えられる。

3.2.7 要約

白老町内の3カ所において地上性小型哺乳類の現況調査を行った。捕獲された種はネズミ類とトガリネズミ類の5種であり、エゾヤチネズミが優占していた。そのほかエゾアカネズミとオオアシトガリネズミが多く捕獲された。草刈り区の種構成と捕獲数は草刈りをしていない自然区に比べて単純かつ少なく、草刈りの効果が出していた。

3.2.8 引用文献

- 中田圭亮 1998 野ネズミの予察調査と防除の手引(第2版) 71P 北海道森林保全協会、札幌
日本哺乳類学会種名・標本検討委員会 2001 哺乳類標本の取り扱いに関するガイドライン 哺乳類科学 41:215-233.
太田嘉四夫(編) 1984 北海道産野ネズミ類の研究 400P 北海道大学図書刊行会、札幌

(2006年8月 NPO法人ウヨロ環境トラスト)

3.3 デジタル教材北の里山事典づくりに伴う環境調査

3.3.1 植物調査

1) 調査地の概要

ウヨロ川フットパスのトラストの森コースは、オーシャン牧場を起点として、ウヨロ川を遡行し、途中からトラストの森へ入り、そして森の湧水地を通過して、さけますふ化場に辿り着くという一周 4.6km の歩道である。

このコースは、以下にみられる環境の多様さから、変化に富んだ植生を観察することが出来る。

(図 3-14 参照)

- ・ ウヨロ川河岸の様々な変化と様相
- ・ ミニ三日月池
- ・ ササ群落(林床)の比較
- ・ 古い牧草地の様相
- ・ 小山(タップコップ山)
- ・ 湧水と湿地帯
- ・ トラストの森(ウヨロ小屋)周辺の里山化

以上の環境における植生を見ながらのフットパス歩き(学習)は、自然の豊かさを知る上でも、里山里山を再認識する上でも、内容の濃いそして楽しい自然観察になるに違いない。

本調査は、そのための資料になれば幸いである。

尚、調査地については、図 3-14 の位置図に記載した場所の番号に従って植生の概要を記した。また、その植物相については表 3-5 植物目録に全種記載した。

2) 調査時期

第 1 回	2005 年 10 月 10、11 日	- 1 周
第 2 回	2006 年 5 月 16 日	- 河畔
第 3 回	2006 年 5 月 19 日	- トラストの森、牧草地
第 4 回	2006 年 5 月 23 日	- タップコップ山
第 5 回	2006 年 6 月 15 日	- トラストの森・その他
第 6 回	2006 年 6 月 20 日	- トラストの森・その他
第 7 回	2006 年 8 月 8 日	- 河畔・トラストの森
第 8 回	2006 年 8 月 24 日	- トラストの森
第 9 回	2006 年 9 月 9 日	- トラストの森・その他
第 10 回	2006 年 9 月 26 日	- トラストの森・その他
第 11 回	2006 年 10 月 16 日	- トラストの森・タップコップ山

以上 1 年間に亘ったが見落としがあるかもしれないし、外来種があるかもしれないので、今後の追加調査が必要である。

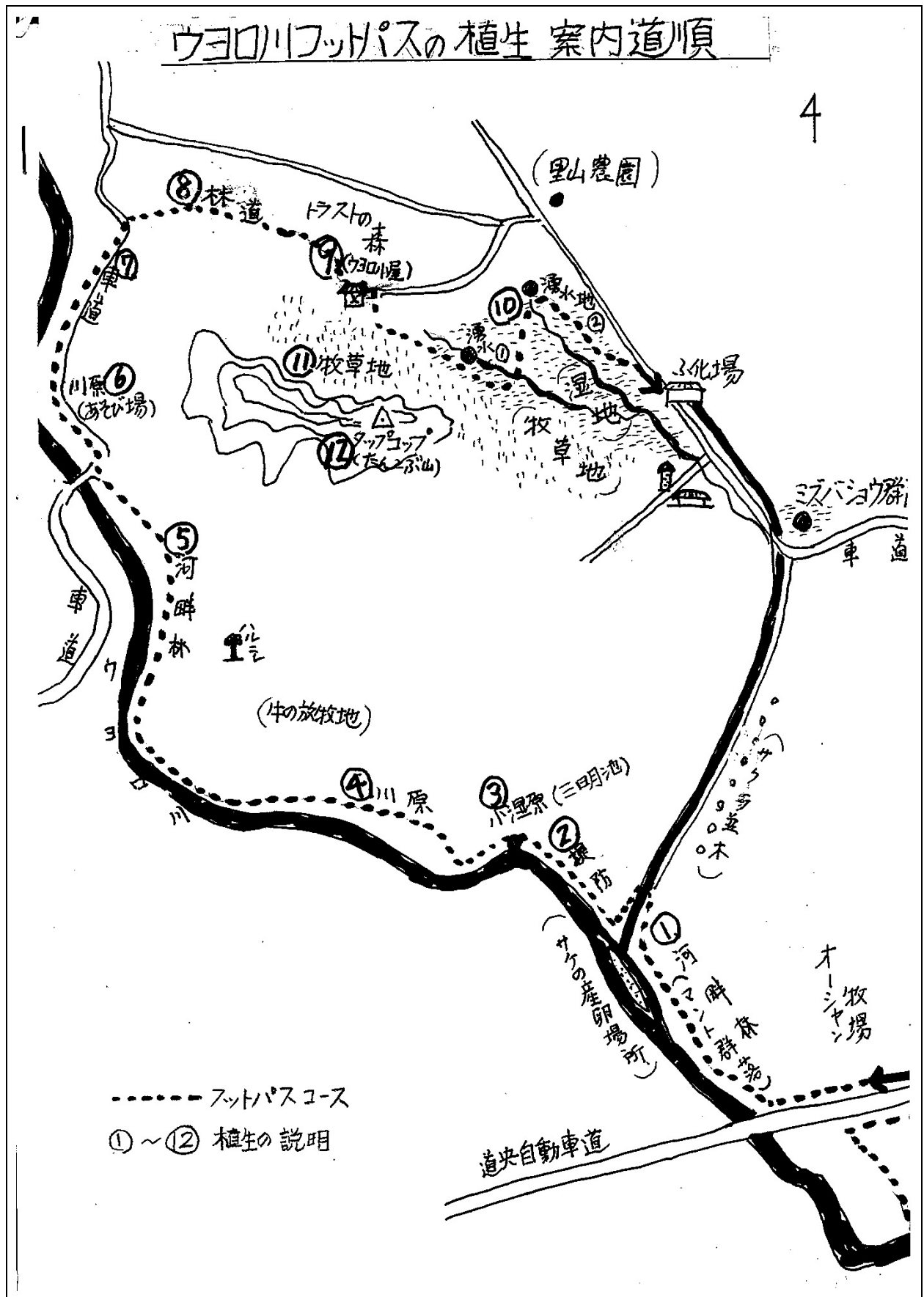


図 3-14 植物調査位置図

3) 植生の概要

～ 河畔林の植生

オーシャンファームからふ化場支流までのフットパスは、牧場沿いに歩く河畔林コースと、河辺に下りて歩く河辺コースの二つのコースがある。牧場沿いコースは低段丘状で高燥地になっている。ヤナギ類、カツラ、ケヤマハンノキ、ノリウツギ、ヤマグワ、エゾニワトコなどの陽地性樹木が完着している。林縁には、林床のよく伸長したエゾミヤコザサが繁茂し、オオイタドリ、ヨシ、ハンゴンソウ、オニシモツケなどの高茎植物が勢いを増している。またこれらの樹木や草本には、ヤマブドウやカラハナソウが広く被いマント群落を形成している。林縁にはミツモトソウの黄花やクルマバナの紅色が可愛い。牧草の中にコウヤワラビの群生とヒメグサが散在して興味をひく。河辺より一段と高みなのに、やはり湿地性のあらわれだろう。

河辺に下りると様相は一変する。近年何度か大水に見舞われたらしく、枝葉のついた生木が岸にうち上げられ、泥をかぶったヨシが同方向に横倒しになっている様を見ると、今でも時には暴れ川となることがよくわかる。しかし水辺は、ヨシ、タニガワスゲ、サドスゲが根を張り、岸辺のくずれを防いでいるし、河辺はオノエヤナギ、イヌコリヤナギ、ヤチダモ、ケヤマハンノキ、カワヤナギ、ドロヤナギなどがよく育ち、河畔を安定させている。

道端にはトクサの群落が現れたり、オシダ、ミゾソバ、ミズヒキ、ハナタデ、キツネノボタン、エゾトリカブト、コンロンソウ、ヘビイチゴ、ダイコンソウ、ツリフネソウ(白花も混じる)、イヌトウバナ、イヌゴマ、エゾシロネ、オオヨモギ、アキタブキ、ヤマニガナ、ヤマカモジグサなど樹陰地ながら、四季を通じて花を咲かせている。

林が切れると、空間が開け、明るいコンクリートの築堤防が続く。ナワシロイチゴが四方に枝を拡げ、オカトラノオ、メマツヨイグサ、ヤマアワなどが生育している。

小湿原(ミニ三日月池)の植生

ウヨロ川は、この地点で大きく曲がり込むので、氾濫の跡を残していて、滞水域となっている。ここでは、抽水植物の群落を多種見ることが出来る。特にカヤツリグサ科が優占する。大きな群生はオオカサスゲだが、その周囲にはサンカクイ、フトイ、アブラガヤ、クロアブラガヤ、イグサ科のホソコウガイゼキショウ、ハリコウガイゼキショウ、ヒメコウガイゼキショウが、またシロネ属ではシロネ、ヒメシロネ、エゾシロネ、コシロネの4種が揃っている。これらコウガイゼキショウ亜属やシロネ属は、比較観察が出来て、同定がひも解き易く、楽しいものである。

この辺りには、アケボノソウが散在していて、歓声があがる所でもある。

牧場傍のせいひ、スゲの不明種が見つかり、専門家に同定願ったところ、帰化植物であった。種名は不明とのことであった。

スゲの帰化植物は、国内ではあまり見つかっていないので、今後の再調査に期したい。

河原の植生

ここは広々とした河原だが、度々の大水の氾濫に曝されるため、砂や小石がいつも新しい。幅広い清流と河原は、汚染や築堤を知らなかった昔の川遊びを彷彿とさせる場所である。

植生は不安定で、ヨシとツルヨシ、その他がかろうじて生育している。

去年は河原全体が、オノエヤナギの幼木、メマツヨイグサの群生に驚いたが、今年はすっかり流されてしまった。

ヤナギの種子の発芽条件と河原の発芽条件(湿気や湿度、季節)の合致はなかなか難しいらしい。ヤナギの種子の発芽期間は、約一週間だというし、発芽率のこともある。去年の様な一斉発芽は、滅多に見られないことかも知れない。洪水によって河辺がどんなに荒らされようが、河原の植生は、ヤナギの定着によって始まると云うから、ヤナギの貴重さがわかるというものである。ここはスゲ類が多いのも特徴である。タニスゲ、タニガワスゲ、アゼスゲ、ナルコスゲ、サドスゲが並ぶ。(朝日百科植物の世界「やなぎ」参照)

河畔林の植生

放牧地に立つハルニレの大木は、ベンチもあって休憩所になっている。2つの歩道は、川辺よりも高く、長い堤防や土手が築かれている。

河原近くの乾燥地には、ニレ、ケヤマハンノキ、ヤナギ類を主要木とするが、中にハクウンボクが一本現れる。また初めてエゾタンポポが見られるし、ベニバナイチヤクソウも小群落を作る。

大橋近くになると、エゾヤマザクラの植林も一部に見られ、カラマツ、ヤマモミジ、ヒロハヘビノボラズ、ノバラ、ナワシロイチゴなど交差し、草本ではアキノキリンソウやコガネギクが次々と出現、秋の道は一段と美しい。

河原(あそび場)の植生

ウオロ環境トラストでは、毎年夏のキャンプを児童対象に行っている。この行事には川あそびが取り入れられているが、ここがその場所である。この周辺には帰化植物が多種生育していたが、ヤナギ類などの成長によって、年々減少してしまった。

帰化植物は攪乱地や裸地には最も早く入り込む(セイヨウタンポポ、オオアワダチソウ、ムシトリナデシコなど)が、日影には弱く、消えるのも早いようである。

大橋の付近には、毎年ヤクシソウ(在来種)が多数見られる。

橋を境にした対岸は、支笏泥熔岩による堆積層がむき出しになっているが、この層にミツデウラボシとイヌシダが混生している。2種共に、道内ではあまり目にしないシダである。

車道の植生

町道萩野12間線から分岐する枝道がここへ通じていて、巾広い砂利道を、時々車が砂ぼこりを上げている。道端には、エゾノコンギク、エゾリンドウ、ノイバラなどが咲き出し、乾いた砂利道ながら、花を楽しんで歩けた。

今までは、全く目立たなかった道端のケヤマハンノキの幼木が、今年になって、まるで移植したかの様に、目立ち始めている。

樹高も同じく、枝を窮屈げに茂らせて、まるで塀が突如出現したかの様である。急激な木の生長に、エゾリンドウたちは隅へと追いやられてしまった。この現象は、陽樹の代表種ケヤマハンノキ(シラカバも同じカバノキ科)の種子散乱の独特の方法によって生成・生育した例である。ケヤマハンノキとシラカバは、この方法で時に純林をつくる。(竹浦幌向地区のケヤマハンノキの純林)

林道の植生

車道からトラストの森までの林道は、木本ではサウシバが多く、他に植林のカラマツが目立ち始め、ツタウルシが登っていて紅葉は殊更美しい。林道はヘビイチゴとヒメヘビイチゴで被われてしまう。ま

た両側は背丈程のスズタケが林床を成している。この林道は「サワシバ通り」と云ってよいか、「ヘビイチゴロード」と呼んでいいか、「スズタケのトンネル通り」と名づけてよいか……

トラストの森周辺の植生

トラストの森の中心はウヨロ小屋、物品収納小屋、便所、東屋、キノコ栽培地、多くのたき火施設、その他で構成されている。

ここには、作業員、観察者、子ども達、自動車等が来て、地面は踏み固められている。また、玉砂利等も大量に投入されて、しっかりした道路になった。従って、小屋の周辺は人為的な関わりが深い植生が多い。オオバコ、ナギナタコウジュ、ヒメジソ、アカソ、ユウゼンギク、イヌタデ、ミズ、タニソバ、ミゾソバ、ミチヤナギ、ヒメスイバ、ミミナグサ、オランダミミナグサ、コケオトギリ、ハルザキヤマガラシ、ミツバツチグリ、ゲンショウノコ、シロツメクサ、ムラサキツメクサ、カタバミ、タチツボスミレ、オオチドメ、キクムグラ、イヌトウバナ、ウツボグサ、クサイ、シバ、エノコログサ、カラマツを匍うツタなど、なじみのある里山の植物が多い。

木本としてはカラマツが優占し、ハルニレ、オオモミジ、ヤマモミジ、ハリギリ、ミズナラなどが混生する。ニシキギが道沿いに何本かあって、秋の紅葉で確認出来た。

林床はエゾミヤコザサー色だが、エゾリンドウ、トモエソウ、フイリミヤマスミレ、サクラスミレ、ヤマニガナ、タチギボシ、マムシグサが、ササの間から姿を見せるのが何とも愛らしい。

ササが疎らか、無い所は、殆どクサスゲとコジュズスゲの群生で優占される。クサスゲ - コジュズスゲ群落は、他ではあまり見ることがない植生地ではないだろうか。尚、クサスゲは道南部のスゲと思われる。

湧水地周辺 の植生

この湧水は春には見られるが、秋の頃には枯れることが多い。この川筋は日当たりも悪く、いつもじめじめしている。オオタネツケバナ、オオバセンキュウ、ズダヤクシュ、エゾネコノメソウ、ムカゴイラクサなどで植物が少ない。ただ、この土手にはクジャクシダ、ホソバナライシダ、オウレンシダ、ヘビネゴザ、ミヤマシケシダなど、10種前後のシダが生育していて驚かされた。

湧水地周辺 の植生

この湧水地は同じ森の中の湧水だが、ササも少ないので明るいし、水量が多いので、広い湿地を形成する。従って植物種が豊富に見られる。

流れ溜まりにはオオカサスゲの群落、流水にはスギナモが帯状に群生、湿地帯には、アブラガヤ、ヒメシダ、イ、ヤノネグサ、アキノウナギツカミ、オーチャードグラスが各集団となって、それぞれの生育地を得て伸長している。また数は少ないが、この水場だけにしか見られないものに、オランダガラシ(クレソン)、イネ科のヒメウキガヤ、ミゾイチゴツナギ、ドジョウツナギ、ヒロハドジョウツナギ、オオスズメノカタビラがある。

この地は長靴でなければ入れない様な湿地なのに、帰化植物のオオアワダチソウ、オオハンゴンソウが集団を作り始めているし、アメリカオニアザミの散在も認められた。ヨコスト湿原のそれらと比較して、この草丈の成長の良さに驚かされる。

旧牧草地の植生

タップコップの山ろくに広がる旧牧草地である。牧草はカモガヤ(オーチャードグラス)が占めていて、その大株が密集している。

向陽地なので、陽樹のタラノキ、ノイバラ、エビガライチゴ、ホザキシモツケ、ナワシロイチゴなどが伸び放題になっている。

草本では、ヤマドリゼンマイ、クサソテツ(コゴミ)が目立ち、ビロードスゲの密生も目立つ。長く伸びてからまってしまったノイバラの根元には小鳥の巣を見つけることが出来る。

タップコップ(たんこぶ山)の植生

タップコップ山は、標高約 50～60m の東西に連なる低山である。このあたりの高処(台地)は、支笏泥熔岩といわれる堆積層から成っているので、土壌が脆く急峻な北側は崩壊地も多い。

林床は一部にスズタケが混ざるが、エゾミヤコザサが全山を被う。低山帯なので、以前は牛馬を放牧したらしく、頂上に有刺鉄線が残っている。

1960年代頃、モンタナマツ、バンクスマツ、ストロームマツなどの外国産のマツが公園や学校などに植えられたものである。その頃のものと思われるバンクスマツが、今日、あちこちの低山や植林地に見られる。ここの山道にも、バンクスマツが見られるので、その頃のものと思われる。

有刺鉄線と云い、バンクスマツと云い、里山の感触が感ぜられるところである。

一方、深山らしさをあらわす植物も出現する。ホツツジ、エゾヤマツツジ、ミヤマイトチシダ、ヒメイチゲ、ミヤマガマズミなどである。

北側山ろくには、ヤマブドウ、マタタビ、サルナシ(コクワ)の木性つる植物が多く、林縁を固くガードしている。

4) 考察

ウヨロ川の豊かさと植物

「川に沿った主要林(河畔林)は、河川環境を豊かにする」と言う学習が必要である。その点を分析したい。

フットパスに沿ったウヨロ川は勾配が穏やかで流れが一定しており、濁りも淀みもなく清流そのものである。しかし氾濫による流木がそちこちにあり、流れを緩衝したり、小さなダムを作ったりする。また河畔林の樹林が陰影を作るなどの影響から水質や水温の差違を生ずると思われる。

そして、河畔林の植生は、河川の生物を生んだり、呼び込むキーワードになる筈である。即ち、落葉や落枝は、水生昆虫と魚類の生息、繁巣をもたらし、川を生きたものにするからである。ここで河畔林の種が重要な役割を持つらしい。概要にあるように、フットパス河畔林はヤナギ類とケヤマハンノキが圧倒的に多い。

北海道林業改良普及協会の研究によれば、水生昆虫に最も食べられる(好まれる)葉はケヤマハンノキが第1で、次にヤナギ、シラカバ、カエデ類、サワシバのグループだそうである。ウヨロ河畔林は、豊かな河川環境を作り出していることが証明できよう。



写真 3-1 豊かな河畔林が形成されるウヨロ川の中流域

水性、湿性植物の豊かさ

調査地は、河辺、三日月池、湧水の流れと周辺の湿地……と、水辺が多い。従ってこの調査地の植物相は、湿性又は水性植物が植物分布の割合からすると多いと云えよう。ずっと以前の道内は、どこも湿地(谷地)や池、沼が多く、こうであった筈である。都市化された現代、都市近郊に、この様な水辺や湿地の植物相を持つ所は少ない。

・昭和30年～40年代にかけて、伊達 - 室蘭 - 登別 - 白老間の植物調査をされた岡本幹二氏の「室蘭地方植物誌」によると、多数のRDB種(レッドデータ種)が記載されている。このことは、里地里山の“身近な自然地域”が存在していたことと深い結びつきがある。RDB種が多く出現する場所の5割が、里地里山にあることがわかっているようだ(「生物多様性キーワード事典」-中央法規)

・最も身近な白老町の植物調査では、山内一郎氏の「白老町仙台陣屋跡の植物調査報告」(昭和47年)がある。昭和50年代始めに入って、当跡は整備公園化してしまい、調査時の植物相は半減してしまった。それ迄の陣屋跡は、赤松も健全だったし、湿性植物が豊かで、RDB種も数多かった。(元陣屋資料館に保管されているので参照されたい)

トラストの森周辺は、現在、会員によって北海道自然環境保全指針にある「身近な自然」づくりが進められている。トラストの森周辺には樹林地あり、原野、水辺あり、畑やきのこ栽培なども行われており、いわゆる里地里山づくりの真最中である。

現に、ウヨロ小屋周辺の植物相の増え方は顕著になってきた。この取り組みを通して、RDB種が出現してくるかも知れない。中でも水性、湿性植物の生態は、この地ならではの持続可能な生態圏であることを強調したい。



写真 3-2 湿性植物群落の形成状況 水中にはスギナも生育する

表 3-5 植物目録 (1/16)

No.	門和名	綱和名	科和名	環コード	種和名	学名	希	帰	備考	別名	
1	シダ植物門	トクサ綱	トクサ科	00480	トクサ	<i>Equisetum hyemale</i>			河畔林		
2				00460	スギナ	<i>Equisetum arvense</i>			河畔林		
3		シダ綱	ゼンマイ科	00870	ヤマドリゼンマイ	<i>Osmunda cinnamomea</i> var. <i>fokiensis</i>			湧水地土手		
4				01670	オウレンシダ	<i>Dennstaedtia wilfordii</i>			湧水地土手		
5			グマ科	01830	ワラビ	<i>Pteridium aquilinum</i> var. <i>latiusculum</i>					
6				01630	イヌシダ	<i>Dennstaedtia hirsuta</i>			ウヨロ川対岸の岩崖		
7			ミズワラビ科	02180	クジャクシダ	<i>Adiantum pedatum</i>			湧水地土手		
8				02270	イワガネゼンマイ	<i>Coniogramme intermedia</i>			湧水地土手		
9			シシガシラ科	03340	シシガシラ	<i>Struthiopteris niponica</i>			タップコップ山		
10			オシダ科	04040	オシダ	<i>Dryopteris crassirhizoma</i>			森林		
11				04420	ミヤマベニシダ	<i>Dryopteris monticola</i>			森林		
12				04820	ホソバナライシダ(ナライシダ)	<i>Leptorumohra miqueliana</i>			湧水地土手		
13				05380	サカゲイノデ	<i>Polystichum retroso-paleaceum</i>			湧水地土手		
14				04520	ミヤマイタチシダ	<i>Dryopteris sabaei</i>			タップコップ山		
15				ヒメシダ科	06060	ニッコウシダ	<i>Thelypteris nipponica</i>			湧水地湿原	
16					06090	ヒメシダ	<i>Thelypteris palustris</i>			湧水地湿原	
17			05760		ミヤマワラビ	<i>Phegopteris connectilis</i>			湧水地土手		
18			メシダ科	07320	ミヤマシケシダ	<i>Deparia pycnosora</i>					
19				07120	ホソバシケシダ	<i>Deparia conilii</i>					
20				06990	ヘビノネゴザ	<i>Athyrium yokoscense</i>			湧水地土手		
21				07640	ミヤマシダ	<i>Diplazium sibiricum</i> var. <i>glabrum</i>			湧水地土手		
22				07010	イッポンワラビ	<i>Cornopteris crenulato-serrulata</i>			湧水地土手		

表 3-6 植物目録 (2/16)

23	種子植物 門			07850	コウヤワラビ	<i>Onoclea sensibilis</i> var. <i>interrupta</i>			牧草地		
24				07830	クサソテツ	<i>Matteuccia struthiopteris</i>				コゴミ	
25					07820	イヌガンソク	<i>Matteuccia orientalis</i>				
26			ウラボシ科	08080	ミツデウラボシ	<i>Crypsinus hastatus</i>			ウヨロ川対岸岩崖		
27		マツ綱	マツ科	08850	カラマツ	<i>Larix kaempferi</i>					
28				08985	バンクスマツ	<i>Pinus banksiana</i> Lambert			タップコップ山	バンクシャーマツ	
29		双子葉 植物綱	ヤナギ科	10070	イヌコリヤナギ	<i>Salix integra</i>					
30				10660	オノエヤナギ	<i>Salix sachalinensis</i>				ナガバヤナギ	
31				10240	キヌヤナギ	<i>Salix kinuyanagi</i>					
32				09660	バッコヤナギ	<i>Salix bakko</i> Kimura				ヤマネコヤナギ	
33				09520	ドロヤナギ	<i>Populus maximowiczii</i>				ドロノキ	
34				カバノキ科	11120	ケヤマハンノキ	<i>Alnus hirsuta</i>				
35			11170		ハンノキ	<i>Alnus japonica</i>				ヤチハンノキ	
36			11460		シラカンバ	<i>Betula platyphylla</i> var. <i>japonica</i>					
37			11520		サワシバ	<i>Carpinus cordata</i>					
38			11680		アサダ	<i>Ostrya japonica</i>			タップコップ山		
39			11200		ミヤマハンノキ	<i>Alnus maximowiczii</i>			タップコップ山		
40			ブナ科	11700	クリ	<i>Castanea crenata</i>					
41				11890	カシワ	<i>Quercus dentata</i>					
42				11980	ミズナラ	<i>Quercus mongolica</i> ssp. <i>crispula</i>					
43			ニレ科	12280	ハルニレ	<i>Ulmus japonica</i>				ニレ	
44				12290	コブニレ	<i>Ulmus japonica</i> f. <i>suberosa</i>					
45			クワ科	12630	ヤマグワ	<i>Morus australis</i>					

表 3-7 植物目録 (3/16)

46			12610	カラハナソウ	<i>Humulus lupulus</i> var. <i>cordifolius</i>			林縁	
47		イラクサ科	12900	アカソ	<i>Boehmeria sylvestrii</i>				
48			12740	クサコアカソ	<i>Boehmeria gracilis</i>				
49			13070	ムカゴイラクサ	<i>Laportea bulbifera</i>				
50			13230	ミズ	<i>Pilea hamaoi</i>				
51			タデ科	14040	タニソバ	<i>Persicaria nepalensis</i>			
52		14170		ミゾソバ	<i>Persicaria thunbergii</i>				
53		13640		ミズヒキ	<i>Antenoron filiforme</i>				
54		14260		ミチヤナギ	<i>Polygonum aviculare</i>			ウヨロ小屋周辺	
55		14140		アキノウナギツカミ	<i>Persicaria sieboldii</i>				
56		14050		ヤネグサ	<i>Persicaria nipponensis</i>			湧水地湿原	
57		14060		イシミカワ	<i>Persicaria perfoliata</i>			桜並木川辺	
58		14130		ママコノシリヌグイ	<i>Persicaria senticosa</i>			湿地	
59		14360		オオイタドリ	<i>Reynoutria sachalinensis</i>				
60		14380		ヒメスイバ	<i>Rumex acetosella</i>				
61		14510		エゾノギシギシ	<i>Rumex obtusifolius</i>				
62		14420		ナガバギシギシ	<i>Rumex crispus</i>				
63		14460		ノダイオウ	<i>Rumex longifolius</i>		VU	小湿原	
64		13990		イヌタデ	<i>Persicaria longiseta</i>				
65		14070		ハナタデ	<i>Persicaria posumbu</i> var. <i>laxiflora</i>				
66		13920		ヤナギタデ	<i>Persicaria hydropiper</i>				
67		ヒユ科		15920	イノコズチ(ヒカゲイノコズチ)	<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>japonica</i>			
68		ナデシコ科	15210	フシグロ	<i>Silene firma</i>			河原	

表 3-8 植物目録 (4/16)

69			15040	オオヤマフスマ	Moehringia lateriflora					
70			15410	ノミノフスマ	Stellaria alsine var.undulata					
71			14730	ミミナグサ	Cerastium holosteoides var.angustifolium					
72			14720	オオミミナグサ	Cerastium holosteoides					
73			15530	コハコベ	Stellaria media					
74			14710	オランダミミナグサ	Cerastium glomeratum					
75			15505	カラフトホソバハコベ	Stellaria graminea					
76			15177	マツヨイセンノウ	Silene alba (Mill.)E.H.L.Krause					
77			15200	ムシトリナデシコ	Silene armeria					
78		モクレン科	16170	ホオノキ	Magnolia hypoleuca					
79		マツブサ科	16330	チョウセンゴミシ	Schisandra chinensis					
80		カツラ科	16940	カツラ	Cercidiphyllum japonicum					
81		キンポウゲ科	18560	キツネノボタン	Ranunculus silerifolius					
82			18510	ハイキンポウゲ	Ranunculus repens					
83			17440	ヒメイチゲ	Anemone debilis			タップコップ山		
84			18650	カラマツソウ	Thalictrum var.intermedium	aquilegifolium			ウヨロ小屋周辺	
85			17360	エゾトリカブト	Aconitum yezoense					
86		メギ科	18930	ヒロハヘビノボラズ	Berberis amurensis					
87		スイレン科	19400	コウホネ	Nuphar japonicum			湧水地		
88		マタタビ科	20430	マタタビ	Actinidia polygama			タップコップ北側山 ろく		
89			20390	サルナシ	Actinidia arguta			タップコップ山	コクワ	

表 3-9 植物目録 (5/16)

90		オトギリソウ科	20880	オトギリソウ	<i>Hypericum erectum</i>				
91			21020	コケオトギリ	<i>Hypericum laxum</i>			ウヨロ小屋周辺	
92			20850	トモエソウ	<i>Hypericum ascyron</i>			ウヨロ小屋周辺	
93		ケシ科	21500	エゾキケマン	<i>Corydalis speciosa</i>				
94		アブラナ科	21815	ハルザキヤマガラシ	<i>Barbarea vulgaris</i> R.Br.				
95			22320	オランダガラシ	<i>Nasturtium officinale</i>				クレソン
96			21930	コンロンソウ	<i>Cardamine leucantha</i>				
97			21680	ヤマハタザオ	<i>Arabis hirsuta</i>				
98			21890	タネツケバナ	<i>Cardamine flexuosa</i>				
99			22000	オオバタネツケバナ	<i>Cardamine scutata</i>				
100		ユキノシタ科	24050	ハリウツギ	<i>Hydrangea paniculata</i>			林道	サビタ
101			24010	エゾアジサイ	<i>Hydrangea macrophylla</i> var. <i>megacarpa</i>			林道	
102			24080	ツルアジサイ	<i>Hydrangea petiolaris</i>				
103			23270	トリアシショウマ	<i>Astilbe thunbergii</i> var. <i>congesta</i>				
104			24910	ズダヤクシュ	<i>Tiarella polyphylla</i>			湧水 土手	
105			24690	エゾクロクモソウ	<i>Saxifraga fusca</i>			湧水 土手	
106			23480	ネコノメソウ	<i>Chrysosplenium grayanum</i>				
107			23470	ツルネコノメソウ	<i>Chrysosplenium flagelliferum</i>			湧水地	
108			23430	エゾネコノメソウ	<i>Chrysosplenium alternifolium</i> var. <i>sibiricum</i>				
109		バラ科	25010	キンミズヒキ	<i>Agrimonia japonica</i>				
110			25020	ヒメキンミズヒキ	<i>Agrimonia nipponica</i>				
111			25080	ヤマブキショウマ	<i>Aruncus dioicus</i> var. <i>tenuifolius</i>				

表 3-10 植物目録 (6/16)

112			25570	ミツモトソウ	Potentilla cryptotaeniae var.insularis				
113			25610	キジムシロ	Potentilla fragarioides var.major				
114			25620	ミツバツチグリ	Potentilla freyniana				
115			25180	オニシモツケ	Filipendula kamschatica				
116			25140	ヘビイチゴ	Duchesnea chrysantha				
117			25550	ヒメヘビイチゴ	Potentilla centigrana				
118			25350	ダイコンソウ	Geum japonicum				
119			25330	オオダイコンソウ	Geum aleppicum				
120			25880	ワタゲカマツカ	Pourthiaea villosa				
121			26560	ノイバラ	Rosa multiflora				
122			27170	ナワシロイチゴ	Rubus parvifolius			河畔林帯	
123			26760	クマイチゴ	Rubus crataegifolius			河畔林帯	
124			26880	エゾイチゴ	Rubus idaeus var.aculeatissimus f. concolor			河畔林帯	
125			27220	エビガライチゴ	Rubus phoenicolasius			タップコップ山	
126			28150	ホザキシモツケ	Spiraea salicifolia	VU			
127			27650	ナナカマド	Sorbus commixta				
128			27620	アズキナシ	Sorbus alnifolia				
129			26180	エゾヤマザクラ	Prunus sargentii				オオヤマザクラ
130			26080	ミヤマザクラ	Prunus maximowiczii				シロザクラ
131			26250	カスミザクラ	Prunus verecunda				
132		マメ科	29860	シロツメクサ	Trifolium repens				
133			29850	ムラサキツメクサ	Trifolium pratense				アカツメクサ

表 3-11 植物目録 (7/16)

134			28270	ヤブマメ	<i>Amphicarpaea bracteata</i> ssp.edgeworthii var.japonica				
135			29090	エゾヤマハギ(ヤマハギ)	<i>Lespedeza bicolor</i>				
136			29020	ヤハズソウ	<i>Kummerowia striata</i>				
137		カタバミ科	30370	カタバミ	<i>Oxalis corniculata</i>				
138			30410	エゾタチカタバミ	<i>Oxalis fontana</i>				
139		フウロソウ科	30630	ゲンノショウコ	<i>Geranium thunbergii</i>				
140		ミカン科	31900	サンショウ	<i>Zanthoxylum piperitum</i>				
141		ウルシ科	32300	ヤマウルシ	<i>Rhus trichocarpa</i>				
142			32230	ツタウルシ	<i>Rhus ambigua</i>				
143		カエデ科	32760	ヤマモミジ	<i>Acer palmatum</i> var.matumurae				
144			32720	オオモミジ	<i>Acer palmatum</i> var.amoenum				
145			32610	エゾイタヤ	<i>Acer mono</i> var.glabrum				
146			32640	アカイタヤ	<i>Acer mono</i> var.mayrii				
147		ツリフネソウ	33110	ツリフネソウ	<i>Impatiens textori</i>			白花もある	
148		科	33090	キツリフネ	<i>Impatiens noli-tangere</i>				
149		ニシキギ科	33760	ニシキギ	<i>Euonymus alatus</i>			ウヨロ小屋への道路 端	
150			34080	ツリバナ	<i>Euonymus oxyphyllus</i>				
151			34130	マユミ	<i>Euonymus sieboldianus</i>				
152			33700	ツルウメモドキ	<i>Celastrus orbiculatus</i>				
153			33720	オニツルウメモドキ	<i>Celastrus orbiculatus</i> var.papillosus				

表 3-12 植物目録 (8/16)

154		ミツバウツギ科	34320	ミツバウツギ	<i>Staphylea bumalda</i>			サワシバ道路	
155		ツゲ科	34410	フッキソウ	<i>Pachysandra terminalis</i>			タップコップ山	
156		ブドウ科	34940	ヤマブドウ	<i>Vitis coignetiae</i>				
157			34900	ツタ	<i>Parthenocissus tricuspidata</i>				
158		スマレ科	36490	タチツボスマレ	<i>Viola grypoceras</i>				
159			36630	オオタチツボスマレ	<i>Viola kusanoana</i>				
160			37000	ツボスマレ	<i>Viola verecunda</i>				
161			36885	フイリミヤマスミレ	<i>Viola selkirkii f.variegata</i>				
162			36540	サクラスマレ	<i>Viola hirtipes</i>			トラストの森	
163		ミソハギ科	37520	エゾミソハギ	<i>Lythrum salicaria</i>			湿地	
164		ウリ科	37340	ミヤマニガウリ	<i>Schizopepon bryoniaefolius</i>				
165		アカバナ科	38150	メマツヨイグサ	<i>Oenothera biennis</i>				
166			38070	アカバナ	<i>Epilobium pyrricholophum</i>				
167			37970	イワアカバナ	<i>Epilobium cephalostigma</i>				
168		スギナモ科	38280	スギナモ	<i>Hippuris vulgaris</i>			湧水地	
169		ミズキ科	38400	ミズキ	<i>Cornus controversa</i>				
170		ウコギ科	38580	ウド	<i>Aralia cordata</i>				
171			38600	タラノキ	<i>Aralia elata</i>			牧草地	
172			38700	ハリギリ	<i>Kalopanax pictus</i>				センノキ
173			38520	コシアブラ	<i>Acanthopanax sciadophylloides</i>				
174		セリ科	39120	エゾニュウ	<i>Angelica ursina</i>				
175			39450	ミツバ	<i>Cryptotaenia japonica</i>				

表 3-13 植物目録 (9/16)

176			39630	セリ	<i>Oenanthe javanica</i>				
177			39310	セントウソウ	<i>Chamaele decumbens</i>				
178			39780	ウマノミツバ	<i>Sanicula chinensis</i>				
179			39880	サウゼリ	<i>Sium suave var.nipponicum</i>			水辺	
180			39360	ドクゼリ	<i>Cicuta virosa</i>			水辺	
181			38910	オオバセンキュウ	<i>Angelica genuflexa</i>			水辺	
182			39580	オオチドメ	<i>Hydrocotyle ramiflora</i>				
183			39970	ヤブジラミ	<i>Torilis japonica</i>				
184			39900	カノツメソウ	<i>Spuriopimpinella calycina</i>			タップコップ山	
185			39420	ミヤマセンキュウ	<i>Conioselinum filicinum</i>				
186			39465	ノラニンジン	<i>Daucus carota</i>				
187		イチヤクソウ科	40300	ベニバナイチヤクソウ	<i>Pyrola incarnata</i>				
188		サクラソウ科	42850	コナスビ	<i>Lysimachia japonica f.subsessilis</i>				
189	42810		オカトラノオ	<i>Lysimachia clethroides</i>					
190	42970		クサレダマ	<i>Lysimachia vulgaris var.davurica</i>					
191		ツツジ科	41770	エゾヤマツツジ(ヤマツツジ)	<i>Rhododendron obtusum var.kaempferi</i>			タップコップ山	
192	42270		ホツツジ	<i>Tripetaleia paniculata</i>			タップコップ山		
193		エゴノキ科	43520	ハクウンボク	<i>Styrax obassia</i>			河畔林	
194		モクセイ科	43900	アオダモ	<i>Fraxinus lanuginosa f.serrata</i>				
195	43930		ヤチダモ	<i>Fraxinus mandshurica var.japonica</i>					
196	44170		ミヤマイボタ	<i>Ligustrum tschonoskii</i>					
197		リンドウ科	44620	エゾリンドウ	<i>Gentiana triflora var.japonica</i>				

表 3-14 植物目録 (10/16)

198			44810	アケボノソウ	Swertia bimaculata				
199			45000	ツルリンドウ	Tripterospermum japonicum				
200		ガガイモ科	45720	ガガイモ	Metaplexis japonica			河畔林縁	
201			45340	イケマ	Cynanchum caudatum			河畔林縁	
202		アカネ科	46050	キクムグラ	Galium kikumugura				
203			46250	クルマムグラ	Galium trifloriforme var.nipponicum			タップコップ山ろく	
204			46170	オオバノヤエムグラ	Galium pseudo-asprellum			トラストの森	
205			46230	ホソバノヨツバムグラ	Galium trifidum L. var. brevipedunculatum Regel			湧水地周辺	
206		オミナエシ科	53830	オトコエシ	Patrinia villosa				
207		クマツヅラ科	47650	ムラサキシキブ	Callicarpa japonica			タップコップ山	
208		シソ科	48280	イヌトウバナ	Clinopodium micranthum				
209			49410	イヌゴマ	Stachys riederi var.intermedia				
210			48240	クルマバナ	Clinopodium chinense var.parviflorum				
211			49480	ツルニガクサ	Teucrium viscidum var.miquelianum			ウヨロ小屋周辺	
212			48700	ヒメジソ	Mosla dianthera			ウヨロ小屋周辺	
213			48860	ウツボグサ	Prunella vulgaris ssp.asiatica			ウヨロ小屋周辺	
214			48360	ナギナタコウジュ	Elsholtzia ciliata			ウヨロ小屋周辺	
215			48590	シロネ	Lycopus lucidus			小湿原	
216			48640	エゾシロネ	Lycopus uniflorus			小湿原	
217			48610	ヒメシロネ	Lycopus maackianus			小湿原	
218			48630	コシロネ	Lycopus ramosissimus var.japonicus			小湿原	
219			48900	ヤマハッカ	Rabdosia inflexa				

表 3-15 植物目録 (11/16)

220		ゴマノハグサ科	50050	エゾコメグサ	<i>Euphrasia maximowiczii</i> var. <i>yezoensis</i>				
221		ハエドクソウ科	52290	ハエドクソウ	<i>Phryma leptostachya</i> ssp. <i>asiatica</i>				
222		オオバコ科	52300	オオバコ	<i>Plantago asiatica</i>				
223		スイカズラ科	53160	ガマズミ	<i>Viburnum dilatatum</i>			山ろく	
224			53470	ミヤマガマズミ	<i>Viburnum wrightii</i>			タップコップ山	
225			52970	エゾニワトコ	<i>Sambucus racemosa</i> ssp. <i>kamtschatica</i>				
226			52580	クロミノウグイスカグラ	<i>Lonicera caerulea</i> ssp. <i>edulis</i> var. <i>emphyllocalyx</i>				ハスカップ
227		キク科	54480	ノブキ	<i>Adenocaulon himalaicum</i>				
228			54620	ヤマハハコ	<i>Anaphalis margaritacea</i>				
229			54990	オオヨモギ	<i>Artemisia montana</i>				
230			58880	アキタブキ	<i>Petasites japonicus</i> var. <i>giganteus</i>				
231			60090	エゾタンポポ	<i>Taraxacum hondoense</i>				
232			58020	ヤナギタンポポ	<i>Hieracium umbellatum</i>				
233			55800	ヨブスマソウ	<i>Cacalia hastata</i> var. <i>orientalis</i>				
234			55270	エゾノコンギク	<i>Aster ageratoides</i> ssp. <i>ovatus</i> f. <i>yezoensis</i>				
235			55350	エゾゴマナ	<i>Aster glehnii</i>				
236			59600	ハンゴンソウ	<i>Senecio cannabifolius</i>				
237			59610	ヒトツバハンゴンソウ	<i>Senecio cannabifolius</i> Less. var. <i>integrifolius</i> . (Koidz.)				
238			58450	ヤマニガナ	<i>Lactuca raddeana</i> var. <i>elata</i>				
239		58910	コウゾリナ	<i>Picris hieracioides</i> var. <i>glabrescens</i>					

表 3-16 植物目録 (12/16)

240			60390	ヤクシソウ	<i>Youngia denticulata</i>			河原	
241			56050	ミヤママブタバコ	<i>Carpesium triste</i>				
242			57700	ヒヨドリバナ	<i>Eupatorium chinense</i> var. <i>oppositifolium</i>				
243			56360	エゾヤマアザミ	<i>Cirsium heiianum</i>				
244			56830	オオノアザミ	<i>Cirsium oligophyllum</i> ssp. <i>aomorense</i>				
245			56850	タカアザミ	<i>Cirsium pendulum</i>			湿地帯	
246			59780	アキノキリンソウ	<i>Solidago virgaurea</i> var. <i>asiatica</i>				
247			57035	アメリカオニアザミ	<i>Cirsium vulgare</i>				
248			60170	セイヨウタンポポ	<i>Taraxacum officinale</i>				
249			56480	エゾアザミ(チシマアザミ)	<i>Cirsium kamtschaticum</i>				
250			57615	ヒメジョオン	<i>Stenactis annuus</i>				
251			57655	ヘラバヒメジョオン	<i>Erigeron strigosus</i>				
252			55397	ユウゼンギク	<i>Aster novi-belgii</i>				
253			55306	ネバリノギク	<i>Aster novae-angliae</i>				
254			58985	オオハンゴンソウ	<i>Rudbeckia laciniata</i>				
255			59776	オオアワダチソウ	<i>Solidago gigantea</i> var. <i>leiophylla</i>				
256			56066	フランスギク	<i>Chrysanthemum leucanthemum</i>				
257			59800	コガネギク(ミヤマアキノキリンソウ)	<i>Solidago virgaurea</i> var. <i>leiocarpa</i>			河原	
258	単子葉	ヒルムシロ科	60830	ヒルムシロ	<i>Potamogeton distinctus</i>			湧水地	
259	植物綱	ユリ科	61490	ギョウジャニンニク	<i>Allium victorialis</i> var. <i>platyphyllum</i>			トラストの森	
260			62540	オオウバユリ	<i>Lilium cordatum</i> var. <i>glehnii</i>			タップコップ山	
261			62810	マイヅルソウ	<i>Maianthemum dilatatum</i>				
262			62380	タチギボウシ	<i>Hosta sieboldii</i> var. <i>rectifolia</i>				
263			63790	オオバナノエンレイソウ	<i>Trillium kamtschaticum</i>				

表 3-17 植物目録 (13/16)

264		イグサ科	64950	スズメノヤリ	<i>Luzula capitata</i>				
265			64930	イヌイ	<i>Juncus yokoscensis</i>				ヒライ、ネジレイ
266			64690	イ	<i>Juncus effusus</i> var. <i>decipiens</i>			湧水地周辺	
267			64870	クサイ	<i>Juncus tenuis</i>				
268			64650	ヒメコウガイゼキショウ	<i>Juncus bufonius</i>			小湿原地	
269			64830	アオコウガイゼキショウ	<i>Juncus papillosus</i>			小湿原地	
270			64910	ハリコウガイゼキショウ	<i>Juncus wallichianus</i>			小湿原地	
271		イネ科	66420	ミノゴメ	<i>Beckmannia syzigachne</i>			湧水地	カズノコグサ
272			68130	トボシガラ	<i>Festuca parvigluma</i>				
273			69710	ヨシ	<i>Phragmites australis</i>				
274			69720	ツルヨシ	<i>Phragmites japonica</i>			河原	
275			65850	ヌカボ	<i>Agrostis clavata</i> ssp. <i>matsumurae</i>				
276			68380	コウボウ	<i>Hierochloa bungeana</i>				
277			68250	ヒメウキガヤ	<i>Glyceria depauperata</i>			湧水	
278			70180	ミゾイチゴツナギ	<i>Poa acroleuca</i>			湧水地	
279			69620	クサヨシ	<i>Phalaris arundinacea</i>				
280			66550	ヤマカモジグサ	<i>Brachypodium sylvaticum</i>				
281			72660	シバ	<i>Zoysia japonica</i>				
282			68270	ドジョウツナギ	<i>Glyceria ischyronoura</i>			湧水地	
283			65970	スズメノテッポウ	<i>Alopecurus aequalis</i>				
284			66690	キツネガヤ	<i>Bromus pauciflorus</i>				
285			69180	ネズミガヤ	<i>Muhlenbergia japonica</i>				
286			69190	オオネズミガヤ	<i>Muhlenbergia longistolon</i>				

表 3-18 植物目録 (14/16)

287			69150	コシノネズミガヤ	Muhlenbergia curviaristata				
288			66140	コブナグサ	Arthraxon hispidus				
289			66850	ヤマアワ	Calamagrostis epigeios				
290			68280	ヒロハノドジョウツナギ	Glyceria leptolepis			湧水	
291			67590	アキメヒシバ	Digitaria violascens				
292			65700	ハネガヤ	Achnatherum extremiorientale				
293			67430	タツノヒゲ	Diarrhena japonica				
294			66780	ホガエリガヤ	Brylkinia caudata				
295			66980	ホッスガヤ	Calamagrostis pseudo-phragmites				
296			68950	ササガヤ	Microstegium japonicum				
297			66890	ヒメノガリヤス	Calamagrostis hakonensis			タップコップ山	
298			66900	イワノガリヤス	Calamagrostis langsdorffii			湿地	
299			69090	ススキ	Miscanthus sinensis			車道	
300			69330	ヌカキビ	Panicum bisulcatum				
301			72170	エノコログサ	Setaria viridis				
302			72070	アキノエノコログサ	Setaria faberi				
303			72130	キンエノコロ	Setaria pumilla				
304			70400	ナガハグサ	Poa pratensis				ケンタッキーブリュウ グラス
305			69690	オオアワガエリ	Phleum pratense				チモシー
306			67330	カモガヤ	Dactylis glomerata				オーチャード・グラス
307			65820	コヌカグサ	Agrostis alba				レット、トップ
308			68050	オニウシノケグサ	Festuca arundinacea			牧草	

表 3-19 植物目録 (15/16)

309			68150	ヒロハノウシノケグサ	<i>Festuca pratensis</i>			牧草	
310			66060	ハルガヤ	<i>Anthoxanthum odoratum</i>				
311			70460	オオズメノカタビラ	<i>Poa trivialis</i>			湧水地	
312			69355	ニコゲヌカキビ	<i>Dichanthelium acuminatum</i>				
313			71910	スズタケ	<i>Sasamorpha borealis</i>			林床	
314			70700	エゾミヤコザサ	<i>Sasa chartacea (Makino) Makino</i>			林床	
315		サトイモ科	73320	ミズバショウ	<i>Lysichiton camtschatcense</i>				
316			73170	マムシグサ	<i>Arisaema serratum</i>				コウライテンナンショウ
317		カヤツリグサ科	73790	ミノボロスゲ	<i>Carex albata</i>				
318			75790	クサスゲ	<i>Carex rugata</i>			トラストの森 林下	
319			75440	コジユズスゲ	<i>Carex parciflora var. macroglossa</i>			トラストの森 林下	
320			73950	アオスゲ	<i>Carex breviculmis</i>				
321			73955	イトアオスゲ	<i>Carex puberula</i>				
322			75750	オオカサスゲ	<i>Carex rhynchophysa</i>			湧水地、小湿原	
323			73790	エナシヒゴクサ	<i>Carex aphanolepis</i>			通路	
324			75170	ヒメシラスゲ	<i>Carex mollicula</i>			通路	
325			74350	ピロードスゲ	<i>Carex fedia var. miyabei</i>			牧草地	
326			74690	カワラスゲ	<i>Carex incisa</i>				タニスゲ
327			75950	サドスゲ	<i>Carex sadoensis</i>			河畔	
328			73840	ヒラギシスゲ	<i>Carex augustinowiczii</i>			河畔	
329			74180	ナルコスゲ	<i>Carex curvicollis</i>			河畔	
330			74470	タニガワスゲ	<i>Carex forficula</i>			河畔	

表 3-20 植物目録 (16/16)

331				76070	タガネソウ	Carex siderosticta				
332				74810	ヒカゲスゲ	Carex lanceolata				
333				75380	ヒメスゲ	Carex oxyandra			砂地	
334				76170	オオカワズスゲ	Carex stipata			河畔	
335				73900	ショウジョウスゲ	Carex blepharicarpa			タツブコップ山	
336				76650	ウシクグ	Cyperus orthostachyus			小湿原	
337				77800	アブラガヤ	Scirpus wichurae			小湿原	
338				77780	サンカクイ	Scirpus triqueter			小湿原	
339				77700	フトイ	Scirpus tabernaemontani			小湿原	
340				77690	クロアブラガヤ	Scirpus sylvaticus var.maximowiczii			小湿原	
341				76440	ヒメクグ	Cyperus brevifolius var.leiolepis			牧場	
342			ラン科	80450	コケイラン	Oreorchis patens			林内	
343				80930	ネジバナ	Spiranthes sinensis var.amoena				モジズリ
	2 門	5 綱	73 科			343 種	2 種	26 種		

ウヨロ川フットパスと、その周辺の植物目録

調査年月日……2005年10月～2006年10月

調査者……宗広 光明

シダ類以上の高等植物は以下の通りである。

	科	種
シダ植物	9	26
裸子植物	1	2
双子葉植物(離弁花)	41	159
双子葉植物(合弁花)	15	70
単子葉植物	7	86
合計	73	343

1.2006年11月現在、高等植物は73科343種である。

2.本目録は、属・亜種・変種・品種の別、また木本、草本の別はしていない。

5 月に見られる花たち



ミズバショウ (サトイモ科)
撮影場所：社台



タチツボスミレ (スミレ科)
撮影場所：トラストの森周辺



ツボスミレ (スミレ科)
撮影場所：トラストの森周辺



オオバナノエンレイソウ (ユリ科)
撮影場所：トラストの森周辺



セントウソウ (セリ科)
撮影場所：トラストの森周辺



マイズルソウ (ユリ科)
撮影場所：トラストの森周辺

6 月 に 見 ら れ る 花 た ち



エゾタンポポ (キク科)
撮影場所：トラストの森周辺



セイヨウタンポポ (キク科)
撮影場所：トラストの森周辺



オオタネツケバナ (アブラナ科)
撮影場所：トラストの森周辺



フッキソウ (ツゲ科)
撮影場所：トラストの森周辺



オオヤマフスマ (ナデシコ科)
撮影場所：トラストの森周辺



ウツボグサ (シソ科)
撮影場所：ウヨロ川河岸

7 ~ 8 月に見られる花たち



エゾミソハギ (ミソハギ科)
撮影場所：トラストの森周辺



ホザキシモツケ (バラ科)
撮影場所：ウヨロ川河岸



ツリフネソウ (ツリフネソウ科)
撮影場所：ウヨロ川河岸



ヤマハハコ (キク科)
撮影場所：ウヨロ川河岸



ノリウツギ (ユキノシタ科)
撮影場所：牧場周辺



オトコエシ (オミナエシ科)
撮影場所：ウヨロ川河岸

9 ~ 10 月に見られる花たち



アキノキリンソウ (キク科)
撮影場所：ウヨロ川河畔



ススキ (イネ科)
撮影場所：ウヨロ川河畔



マムシグサの実 (サトイモ科)
撮影場所：トラストの森



エゾリンドウ (リンドウ科)
撮影場所：トラストの森



エゾノコンギク (キク科)
撮影場所：ウヨロ川河畔



マユミ (ニシキギ科)
撮影場所：トラストの森周辺

5) 着目すべき種

本調査で確認された植物種のうち、ノダイオウ及びホザキシモツケは、現在、環境省により絶滅の恐れのある種として選定されている。

ノダイオウ及びホザキシモツケの選定状況や確認状況をまとめ、表 3-21 に示した。

尚、掲載に関しては環境省及び北海道が刊行している最新のレッドデータブックより引用した。

表 3-21 絶滅の恐れのある植物種

種名・選定状況・確認状況	写 真
<p>【種名】 ノダイオウ</p> <p>【選定状況】 環境省レッドデータリスト(2000) 絶滅危惧 類 (VU)</p> <p>北海道レッドデータブック(2001) -</p> <p>【主な生態】 高さ 80～120cm 程度になるタデ科の多年草。北海道、本州の中部以北に分布し、湿った草地や荒地に生育する。花の咲く時期は 6～8 月。</p> <p>【確認状況・位置】 ウヨロ川小湿原 で確認した。</p>	 <p>写真 3-3 ノダイオウ</p>
<p>【種名】 ホザキシモツケ</p> <p>【選定状況】 環境省レッドデータリスト(2000) 絶滅危惧 類 (VU)</p> <p>北海道レッドデータブック(2001) -</p> <p>【主な生態】 高さ 1～2m 程度になるバラ科の木本。北海道、本州中部以北に分布し、湿原の周辺などに生育する。花の咲く時期は 7～8 月。</p> <p>【確認状況・位置】 調査範囲のいたる場所で生育を確認。</p>	 <p>写真 3-4 ホザキシモツケ</p>

(2006 年 11 月「ウヨロ川フットパス周辺の植物調査報告」


いぶり自然ガイドの会代表 宗広光明)

3.3.2 陸上昆虫類調査

1) 調査方法

調査は、調査範囲において任意採取法による捕獲を主体とし、その他バイトトラップ法、ライトトラップ法を併用して実施した。各調査方法の概要は表 3-22 に示したとおりである。

表 3-22 調査方法

調査方法・特徴など	調査状況写真
<p>【任意採取法】</p> <p>調査方法 調査地区を踏査し、生息する種を確認する方法。各調査場所の環境条件等を考慮し、スウィーピング、ベーターティング、石起こし等を併用する。</p> <p>対象昆虫類 昆虫類全般。</p>	
<p>【バイトトラップ】</p> <p>調査方法 糖蜜や腐肉、さなぎ粉等の誘引餌(バイト)を入れたトラップ(プラスチックコップ等)を、口が地表面と同じレベルになるように埋設して、落ち込んだ昆虫を採集する。植生の異なる複数の場所に調査地点を設け、1地点当たり20～50個のトラップを埋設する。</p> <p>対象昆虫類 オサムシ・ゴミムシ類、アリ類等の地表徘徊性昆虫。</p>	
<p>【ライトトラップ】</p> <p>調査方法 夜間、1～1.5×1.5～2m程度の白布のスクリーン(カーテン)を見通しのよい場所に張り、その前に蛍光灯(ブラックライト等)を吊して点灯し、光に誘引される昆虫を採集する(カーテン法)。</p> <p>対象昆虫類 夜行性昆虫(ガ類やコウチュウ類、カメムシ類等)</p>	

2) 調査時期

調査は、昆虫類の活性が上がる6月に実施した。またバッタ類・トンボ類を補足する目的から9月にも補足調査として実施した。詳細な調査日は以下のとおりである。

2006年06月01日(春季補足調査)

2006年06月19～20日(春季調査)

2006年09月04日(秋季補足調査)

3) 調査位置

調査は、ウヨロ環境トラストの森(トラストの森)周辺及びエコの森で実施した。詳細な範囲は図3-15～図3-16に示すとおりである。

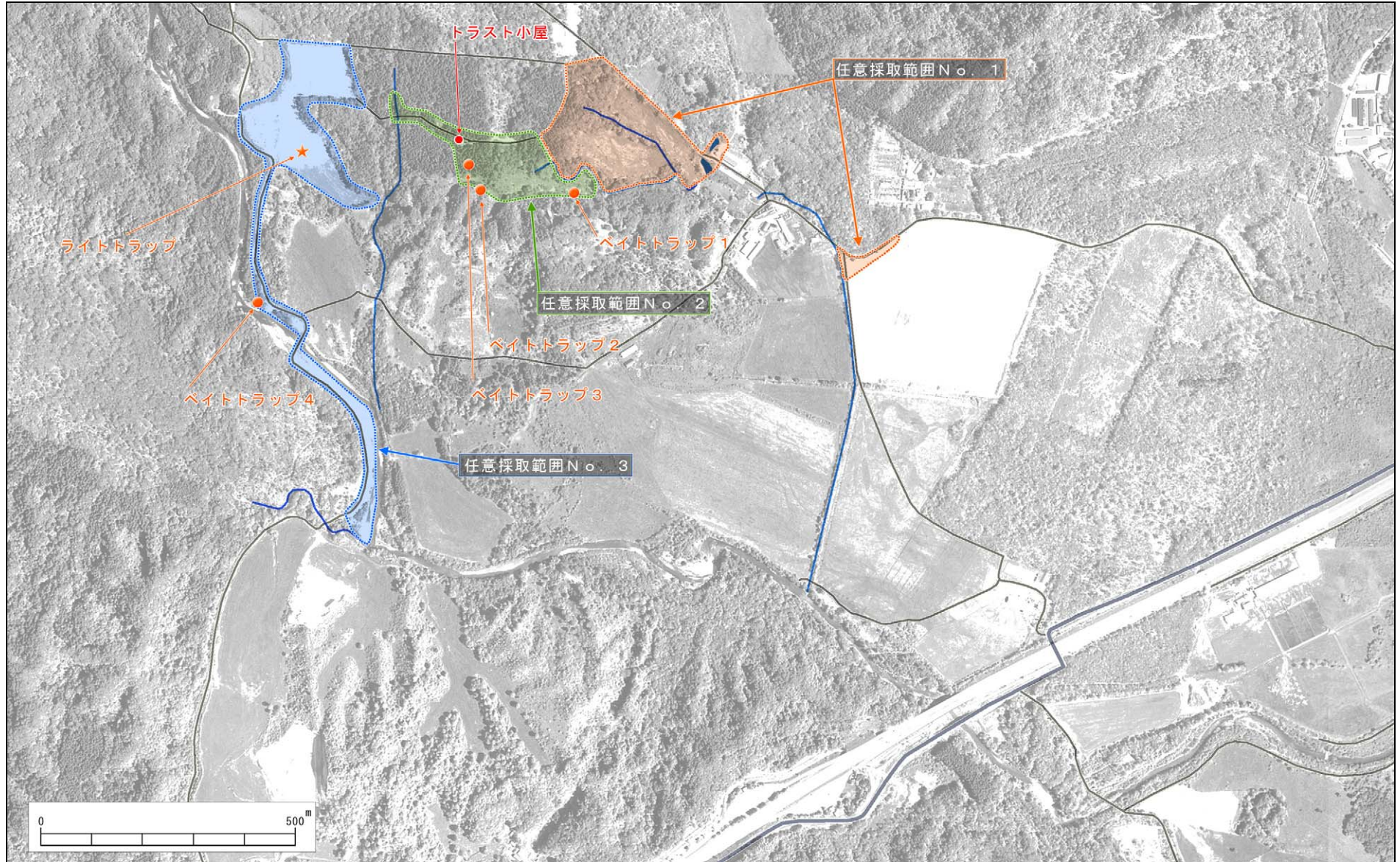


図 3-15 昆虫類調査位置図 (トラストの森周辺)

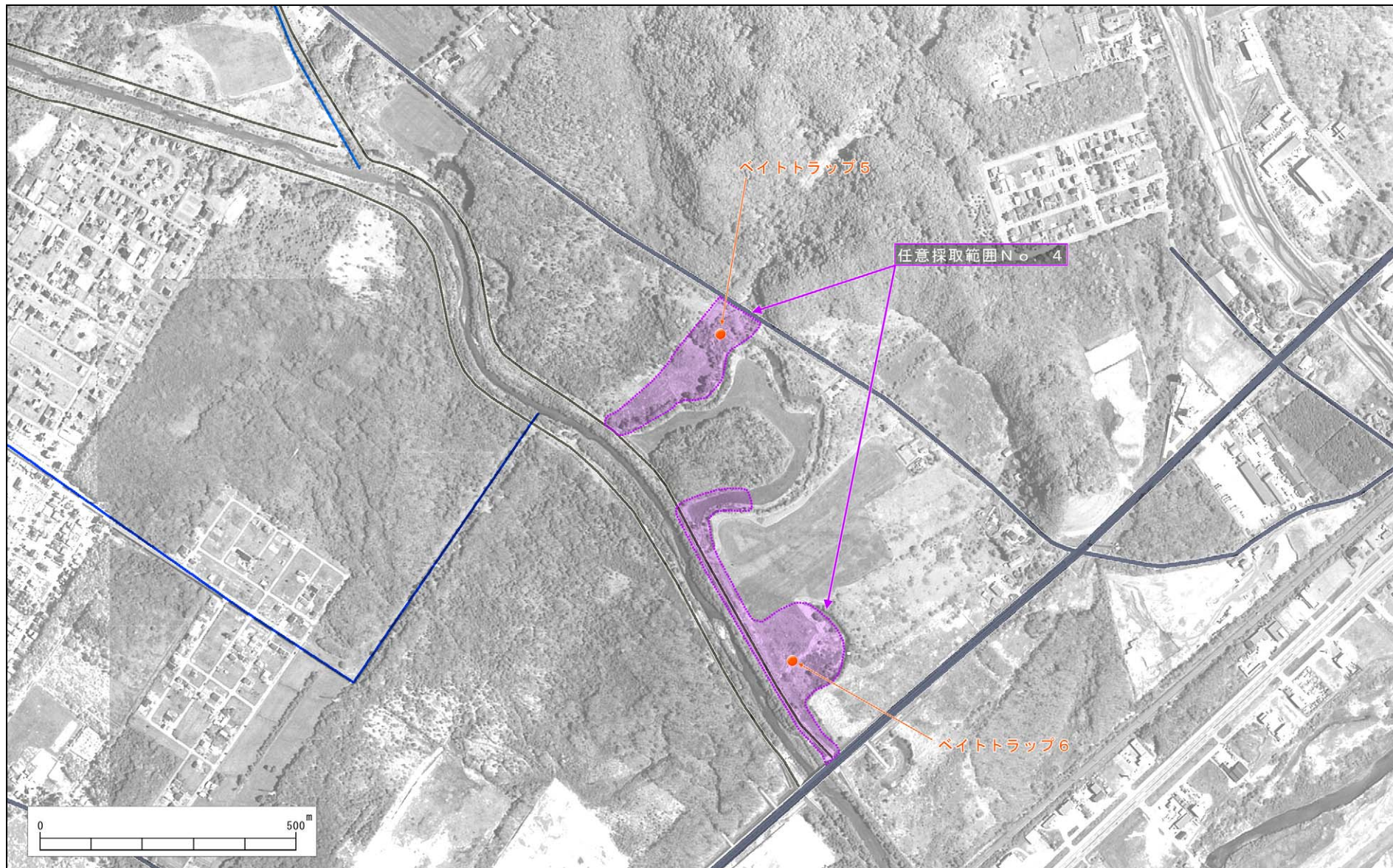


図 3-16 昆虫類調査位置図 (エコの森周辺)

4) 調査結果

確認種

調査の結果、11目91科321種の昆虫類が確認された。確認種を目録にまとめ、表 3-23～表 3-36 に示した。

表 3-23 昆虫目録 (1/14)

目名	科名		種名	学名	範囲 No.1			範囲 No.2			範囲 No.3			範囲 No.4				
					6.1	6.19	9.4	6.1	6.19	9.4	6.1	6.19	9.4	6.1	6.19	9.4		
トンボ	アオイトトンボ	1	オツネントンボ	<i>Sympecma paedisca paedisca</i>		目												
		2	アオイトトンボ	<i>Lestes sponsa</i>														
		イトトンボ	3	エゾイトトンボ	<i>Coenagrion lanceolatum</i>													
		サナエトンボ	4	モイワサナエ	<i>Davidius moiwanus moiwanus</i>													
		オニヤンマ	5	オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i>													
		ヤンマ	6	ルリボシヤンマ	<i>Aeschna juncea</i>													
	7		オオルリボシヤンマ	<i>Aeschna nigroflava</i>			目		目							目		
		エゾトンボ	8	キバネモリトンボ	<i>Somatochlora graeseri aureola</i>													
		トンボ	9	ヨツボシトンボ	<i>Libellula quadrimaculata asahinai</i>													
			10	アキアカネ	<i>Sympetrum frequens</i>													
			11	マユタテアカネ	<i>Sympetrum eroticum eroticum</i>													
			12	ノシメトンボ	<i>Sympetrum infuscatum</i>													
			13	コノシメトンボ	<i>Sympetrum baccha matutinum</i>													
			14	ミヤマアカネ	<i>Sympetrum pedemontanum elatum</i>													
			15	ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i>													
			16	シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>													
バッタ	ケラ	17	ケラ	<i>Grylotalpa fossor</i>							LT							
	コオロギ	18	エゾスズ	<i>Pteronemobius yezoensis</i>														
		19	マダラスズ	<i>Pteronemobius nigrofasciatus</i>														
		20	カンタン	<i>Oecanthus longicaudus</i>														
	ヒシバッタ	21	ヒシバッタ	<i>Tetrix japonica</i>														
	キリギリス	22	ハネナガキリギリス	<i>Gampsocleis ussuriensis</i>													聴	

表 3-24 昆虫目録 (2/14)

		23	ヒメクサキリ	<i>Homorocoryphus jezoensis</i>																
		24	ツコムシ	<i>Phaneroptera falcata</i>																
		25	ウスイロササキリ	<i>Conocephalus chinensis</i>																
		26	ヒメギス	<i>Metrioptera hime</i>																
		27	イブキヒメギス	<i>Metrioptera japonica</i>																
		28	コバネヒメギス	<i>Chizuella bonneti</i>																
	バッタ		29	ヒナバッタ	<i>Chorthippus brunneus</i>															
			30	イナゴモドキ	<i>Parapleurus alliaceus</i>															
			31	ツマグロイナゴモドキ	<i>Stethophyma magister</i>															
			32	ミカドフキバッタ	<i>Parapodisma mikado</i>															
			33	コバネイナゴ	<i>Oxya yezoensis</i>															
ハサミムシ	ハサミムシ	34	キバネハサミムシ	<i>Forficula mikado</i>														LT		
		35	エゾハサミムシ	<i>Eparchus yezoensis</i>															LT	
カメムシ	アワフキムシ	36	モンキアワフキ	<i>Aphrophora major</i>																
		37	マエキアワフキ	<i>Aphrophora pectoralis</i>																
		38	コガタアワフキ	<i>Aphrophora obtusa</i>																
		39	イシダアワフキ	<i>Aphrophora ishidae</i>																
		40	ホソアワフキ	<i>Philaenus spumarius</i>																
	ヨコバイ		41	オオヨコバイ	<i>Cicadella viridis</i>															
			42	ハラビロマキバサシガメ	<i>Himacerus apterus</i>															
	クヌギカメムシ		43	サジクヌギカメムシ	<i>Urostylis striicornis</i>															
			44	アメンボ	<i>Gerris paludum paludum</i>															
	アメンボ		45	エゾコセアカアメンボ	<i>Macrogerris yezoensis</i>															少
46			コセアカアメンボ	<i>Macrogerris gracilicornis</i>																

表 3-25 昆虫目録 (3/14)

		47	ババアメンボ	<i>Gerris babai</i>															
		48	ヒメアメンボ	<i>Gerris latiabdominis</i>	多			多											
		49	ヤスマツアメンボ	<i>Macrogerris insularis</i>	多			多											
	カスミカメムシ	50	ナカグロカスミカメ	<i>Adelphocoris suturalis</i>															
		51	トビマダラカスミカメ	<i>Phytocoris nowickyi</i>															
		52	クロマルカスミカメ(幼虫)	<i>Orthocephalus funestus</i>							多				多				
		53	シマアオカスミカメ	<i>Mermitelocerus annulipes</i>															
		54	マダラカスミカメ	<i>Cyphodemidea saundersi</i>															
		カメムシ	55	チャイロクチブトカメムシ	<i>Arma custos</i>														
			56	アシアカカメムシ	<i>Pentatoma rufipes</i>														
	57		トゲカメムシ	<i>Carbula humerigera</i>															
	58		チャバネアオカメムシ	<i>Plautia crossota stali</i>															LT
	59		エゾアオカメムシ	<i>Palomena angulosa</i>															
	60		スコットカメムシ	<i>Menida scotti</i>															
	61		ナガメ	<i>Eurydema rugosa</i>															
	62		ブチヒゲカメムシ	<i>Dolycoris baccalum</i>															
	コオイムシ	63	オオコオイムシ	<i>Appasus major</i>															
	サシガメ	64	モンシロサシガメ	<i>Rhynocoris leucospilus</i>															
	タイコウチ	65	ミズカマキリ	<i>Ranatra chinensis</i>															
	ツノゼミ	66	トビイロツノゼミ	<i>Machaerotypus sibiricus</i>															
	ヘリカメムシ	67	キバラヘリカメムシ	<i>Plinactus bicoloripes</i>															
		68	ヘリカメムシ	<i>Coreus marginatus orientalis</i>															
	ホソヘリカメムシ	69	ヒメクモヘリカメムシ	<i>Paraplesius unicolor</i>															
	マツモムシ	70	マツモムシ	<i>Notonecta triguttata</i>															

表 3-26 昆虫目録 (4/14)

アミメカゲロウ	ウスバカゲロウ	71	コウスバカゲロウの幼虫	<i>Myrmeleon formicarius</i>															
	クサカゲロウ	72	クサカゲロウ	<i>Chrysopa intima</i>															
	センブリ	73	センブリ	<i>Sialis sibilica</i>	多														
コウチュウ	アカハネムシ	74	アカハネムシ	<i>Pseudopyrochroa vestiflua</i>															
	アカハネムシ	75	ヒメアカハネムシ	<i>Pseudopyrochroa rufula</i>															
	エンマムシ	76	ヒメエンマムシ	<i>Margarinotus weymarni</i>															
	オサムシ	オオマルクビゴミムシ	77	オオマルクビゴミムシ	<i>Nebria macrogona</i>														
		アオゴミムシ	78	アオゴミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i>					PT			PT					PT	
		エゾアカガネオサムシ	79	エゾアカガネオサムシ	<i>Carabus granulatus yezoensis</i>					PT									
		オオアオモリヒラタゴミムシ	80	オオアオモリヒラタゴミムシ	<i>Colpodes buchanaani</i>								PT						
		オオフタモンミズギワゴミムシ	81	オオフタモンミズギワゴミムシ	<i>Bembidion bandotaro</i>														
		キタクロオサムシ	82	キタクロオサムシ	<i>Carabus albrechti albrechti</i>								PT						PT
		キベリアオゴミムシ	83	キベリアオゴミムシ	<i>Chlaenius circumductus</i>														PT
		キンナガゴミムシ	84	キンナガゴミムシ	<i>Pterostichus planicollis</i>					PT									PT
		クロオオナガゴミムシ	85	クロオオナガゴミムシ	<i>Pterostichus leptis</i>														
		コガシラナガゴミムシ	86	コガシラナガゴミムシ	<i>Pterostichus microcephalus</i>					PT			PT						
		コニワハンミョウ	87	コニワハンミョウ	<i>Cicindela transbaicalica japonensis</i>														
		セボシヒラタゴミムシ	88	セボシヒラタゴミムシ	<i>Agonum impressum</i>														
		ツンベルグナガゴミムシ	89	ツンベルグナガゴミムシ	<i>Pterostichus thunbergi</i>					PT									
		ノグチアオゴミムシ	90	ノグチアオゴミムシ	<i>Lithochlaenius noguchii</i>														
	ヒメゴミムシ	91	ヒメゴミムシ	<i>Anisodactylus tricuspидatus</i>									PT					PT	
	マルガタナガゴミムシ	92	マルガタナガゴミムシ	<i>Pterostichus subovatus</i>					PT			PT						PT	
	ヤホシゴミムシ	93	ヤホシゴミムシ	<i>Lebidia octoguttata</i>															
オトシブミ	94	オトシブミ	<i>Apoderus jekelii</i>																

表 3-27 昆虫目録 (5/14)

カミキリムシ	95	ケマダラカミキリ	<i>Agapanthia daurica</i>																		
	カミキリモドキ	96	モモブトカミキリモドキ	<i>Oedemeronia lucidicollis</i>																	
		クビナガムシ	97	クビカクシナガクチキムシ	<i>Scotodes niponicus</i>																
			ゲンゴロウ	98	エゾヒメゲンゴロウ	<i>Rhantus yessoensis</i>															
				99	キベリクロヒメゲンゴロウ	<i>Ilybius apicalis</i>															
				100	クロズマメゲンゴロウ	<i>Agabus conspicuus</i>							WT								
	101	ゲンゴロウモドキ		<i>Dytiscus dauricus</i>							WT										
	102	ヒメゲンゴロウ		<i>Rhantus pulverosus</i>																	
	コガネムシ	103		ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i>														LT		
		104	ツヤコガネ	<i>Anomala lucens</i>														LT			
		105	キンスジコガネ	<i>Mimela holosericea</i>														LT			
		106	アオウスチャコガネ	<i>Phyllopertha intermixta</i>																	
		107	オオマグソコガネ	<i>Aphodius haroldianus</i>																	
		108	カタモンコガネ	<i>Blitopertha conspurcata</i>																	
		109	クロマルエンマコガネ	<i>Onthophagus ater</i>																	
		110	コアオハナムグリ	<i>Oxycetonia jucunda</i>																	
		111	ゴホンダイコクコガネ	<i>Copris acutidens</i>																	
112		ハナムグリ	<i>Eucetonia pilifera</i>																		
113		ヒメヒロウドコガネ	<i>Maladera orientalis</i>																		
クワガタムシ	114	オニクワガタ	<i>Prismognathus angularis angularis</i>																		
ゴミムシダマシ	115	コスナゴミムシダマシ	<i>Gonocephalum coriaceum</i>																		
	116	ホソスナゴミムシダマシ	<i>Gonocephalum sexuale</i>																		
	117	キマワリ	<i>Plesiophthalmus nigrocyaneus nigrocyaneus</i>																		

表 3-28 昆虫目録 (6/14)

コメツキムシ	118	キアシヒラタヒサゴコメツキ	<i>Colioascerus fluviatilis</i>															
	119	サビキコリ	<i>Agrypnus binodulus binodulus</i>															
	120	アイヌベニコメツキ	<i>Denticollis nipponensis ainu</i>															
	121	カバイロコメツキ	<i>Ectinus sericeus sericeus</i>															
	122	ヒメサビキコリ	<i>Agrypnus scrofa scrofa</i>															
シデムシ	123	オオヒラタシデムシ	<i>Eusilpha japonica</i>															
	124	カバイロヒラタシデムシ	<i>Oiceoptoma subrufum</i>															
	125	ヒラタシデムシ	<i>Silpha paerforata venatoria</i>							PT								
	126	ヨツボシヒラタシデムシ	<i>Dendroxena sexcarinata</i>															
	127	ヨツボシモンシデムシ	<i>Nicrophorus quadripunctatus</i>															
ジョウカイボン	128	アイヌクビボソジョウカイ	<i>Podabrus ainu</i>															
	129	クリイロジョウカイ	<i>Stenothemus badius</i>															
	130	ジョウカイボン	<i>Lycocerus suturellus suturellus</i>															
	131	ホッカイジョウカイ	<i>Wittmercantharis vulcana</i>															
	132	ミヤマクビアカジョウカイ	<i>Lycocerus nakanei</i>	多														
ジョウカイモドキ	133	ツマキアオジョウカイモドキ	<i>Malachius prolongatus</i>															
センチコガネ	134	センチコガネ	<i>Geotrupes laevistriatus</i>															
ゾウムシ	135	カシワクチブトゾウムシ	<i>Myllocerus griseus</i>															
	136	コナラシギゾウムシ	<i>Curculio dentipes</i>															
	137	ハイイロヒョウタンゾウムシ	<i>Catapionus gracilicornis</i>															
タマムシ	138	シロオビナガボソタマムシ	<i>Coroebus quadriundulatus</i>															
テントウムシ	139	エゾアザミテントウ	<i>Epilachna pustulosa</i>															
	140	ナナホシテントウ	<i>Coccinella septempunctata</i>															
	141	アイヌテントウ	<i>Coccinella ainu</i>															

表 3-29 昆虫目録 (7/14)

ハネカクシ	142	エゾアリガタハネカクシ	<i>Paederus parallelus</i>															
	143	ヒメクロデオキノコムシ	<i>Scaphidium incisum</i>															
ハムシ	144	ハッカハムシ	<i>Chrysolina exanthematica</i>															
	145	アザミオオハムシ	<i>Galeruca vicina</i>															
	146	ウリハムシモドキ	<i>Atrachya menetriesi</i>															
	147	スジカミナリハムシ	<i>Altica latericosta</i>															
	148	ルリマルノミハムシ	<i>Nonarthra cyanea</i>															
	149	ハギツツハムシ	<i>Pachybrachis eruditus</i>															
	150	ホタルハムシ	<i>Monolepta dichroa</i>															
	151	イタドリハムシ	<i>Gallerucida bifasciata</i>															
	152	ククビアオハムシ	<i>Agelasa nigriceps</i>															
	153	キベリトゲハムシ	<i>Dactylispa masonii</i>															
	154	クワハムシ	<i>Fleutiauxia armata</i>															
	155	ジュウシホシクピナガハムシ	<i>Crioceris quatuordecimpunctata</i>															
	156	スグロアラメハムシ	<i>Lochmaea capreae</i>															
	157	チャイロサルハムシ	<i>Basilepta balyi</i>															多
	158	ハンノキハムシ	<i>Agelastica coerulea</i>															
	159	ヒメジンガサハムシ	<i>Cassida fuscorufa</i>															
	160	ミドリトビハムシ	<i>Crepidodera japonica</i>															
161	ムナグロツヤハムシ	<i>Arthrotus niger</i>																
162	ヨモギハムシ	<i>Chrysolina aurichalcea</i>																
163	リンゴコフキハムシ	<i>Lypesthes ater</i>																
164	ルリハムシ	<i>Linnaeidea aenea</i>																
ミズスマシ	165	ミヤマミズスマシ	<i>Gyrinus reticulatus</i>															

表 3-30 昆虫目録 (8/14)

シリアゲムシ	シリアゲムシ	166	プライアシリアゲ	<i>Panorpa pryeri</i>																	
ハエ	ツリアブ	167	スキバツリアブ	<i>Villa limbata</i>																	
		168	ヒロウドツリアブ	<i>Bombylius major</i>																	
	ガガンボ	169	ヒメクシヒゲガガンボ	<i>Ctenophora angustistyla</i>	多																
	クロバエ	170	キンバエ	<i>Lucilia caesar</i>																	
		171	ミヤマキンバエ	<i>Lucilia papuensis</i>																	
	ケバエ	172	ハグロケバエ	<i>Bibio tenebrosus</i>																	
	ハナアブ	173	キベリヒラタアブ	<i>Xanthogramma sapporensis</i>																	
		174	ホシツヤヒラタアブ	<i>Melanostoma scalare</i>																	
		175	ヒゲナガハナアブ	<i>Chrysotoxum shirakii</i>																	
		176	サッポロヒゲナガハナアブ	<i>Chrysotoxum sapporensis</i>																	
		177	キスネクロハナアブ	<i>Cheilosia ochripes</i>																	
		178	ニッコウクロハナアブ	<i>Cheilosia nikkoensis</i>																	
		179	クタシマハナアブ	<i>Eristalis rossica</i>																	
		180	ホシメハナアブ	<i>Eristalinus tarsalis</i>																	
		181	キベリアシフトハナアブ	<i>Helophilus sapporensis</i>																	
		182	ナミルイロハラナガハナアブ	<i>Xylota amamiensis</i>																	
		183	アシフトハナアブ	<i>Helophilus virgatus</i>																	
		184	オオフトホシヒラタアブ	<i>Syrphus ribesii</i>																	
		185	カオスジヨコモンシマハナアブ	<i>Eristalis interrupta</i>																	
186		クタシマハナアブ	<i>Eristalis rossica</i>																		
187		クタヒメヒラタアブ	<i>Sphaerophoria philanthus</i>																		
188		クロヒラタアブ	<i>Betasyrphus serarius</i>																		
189		シマハナアブ	<i>Eristalis cerealis</i>																		

表 3-31 昆虫目録 (9/14)

		190	ナガツヤヒラタアブ	<i>Melanostoma interruptum</i>															
		191	ナミヒラアシヒラタアブ	<i>Platycheirus clypeatus</i>															
		192	ニセジョウザンケイクロハナアブ	<i>Cheilosia nuda</i>															
		193	ハナダカハナアブ	<i>Rhingia laevigata</i>															
		194	ベッコウハナアブ	<i>Volucella jeddona</i>															
		195	ホソヒメヒラタアブ	<i>Sphaerophoria macrogaster</i>															
		196	ホソヒラタアブ	<i>Episyrphus balteatus</i>															
	ムシヒキアブ	197	コムライシアブ	<i>Choerades komurae</i>															
		198	チャイロオオイシアブ	<i>Laphria rufa</i>															
		199	ロクロウヒラズムシヒキ	<i>Lasiopogon rokuroi</i>															
		200	シロズヒメムシヒキ	<i>Philonicus albiceps</i>															
	ヤドリバエ	201	シナヒラタヤドリバエ	<i>Ectophasia rotundiventris</i>															
		202	クチナガハリバエ	<i>Prosenia siberita</i>															
アブ	203	ヤマトアブ	<i>Tabanus rufidens</i>																
トビケラ	ヒゲナガカワトビケラ	204	ヒゲナガカワトビケラ	<i>Stenopsyche marmorata</i>														LT	
	トビケラ	205	ムラサキトビケラ	<i>Eubasilisa regina</i>														LT	
チョウ	メイガ	206	マエアカスカシノメイガ	<i>Palpita nigropunctalis</i>														LT	
		207	ウコンノメイガ	<i>Pleuroptya ruralis</i>														LT	
		208	クロフトメイガ	<i>Termioptycha nigrescens</i>														LT	
	セセリモドキガ	209	ニホンセセリモドキ	<i>Hyblaea fortissima</i>														LT	
	アゲハチョウ	210	カラスアゲハ	<i>Papilio bianor dehaanii</i>															
		211	ミヤマカラスアゲハ	<i>Papilio maackii</i>															
212		キアゲハの幼虫	<i>Papilio machaon hippocrates</i>																

表 3-32 昆虫目録 (10/14)

カイコガ	213	オオクワゴモドキ	<i>Oberthueria falcigera</i>									LT					
	カギバガ	214	オビカギバ	<i>Drepana curvatula acuta</i>									LT				
		215	ウスイロカギバ	<i>Callidrepana palleola</i>										LT			
	カレハガ	216	ヒメカレハ	<i>Phyllodesma japonica</i>									LT				
		217	ヨシカレハ(幼虫含む)	<i>Euthrix potatoria bergmani</i>						目				LT			
	シジミチョウ	218	ツバメシジミ	<i>Everes argiades hellotia</i>						目							
		219	ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas daimio</i>						目							目
		220	ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus ladonides</i>						目							
		221	ゴマシジミ	<i>Maculinea teleius ogumae</i>													
	タテハチョウ	222	ミドリヒョウモン	<i>Argynnis paphia tsushimana</i>													
		223	ウラギンスジヒョウモン	<i>Argyronome laodice japonica</i>													
		224	オオウラギンスジヒョウモン	<i>Argyronome ruslana lysippe</i>													
		225	ウラギンヒョウモン	<i>Fabriciana adippe pallescens</i>													
		226	ルリタテハ	<i>Kaniska canace nojaponicum</i>						目							
		227	フタスジチョウ	<i>Neptis rivularis bergmanii</i>													
		228	クロヒカゲ	<i>Lethe diana diana</i>													
		229	ジャノメチョウ	<i>Minois dryas bipunctata</i>													
		230	ヤマキマダラヒカゲ	<i>Neope nipponica nipponica</i>													
		231	オオヒカゲ	<i>Ninguta schrenckii</i>													
	シャクガ	232	キバラエダシャク	<i>Garaeus specularis mactans</i>										LT			
233		クロミスジシロエダシャク	<i>Myrteta angelica</i>										LT				
234		ウストビモンナミシャク	<i>Eulithis ledereri inurbana</i>										LT				
235		ウスキオエダシャク	<i>Chiasmia normata proximaria</i>										LT				

表 3-34 昆虫目録 (12/14)

	259	モンシロチョウ	<i>Pieris rapae crucivora</i>															
スズメガ	260	アジアホソバズメ	<i>Ambulyx sericeipennis tobii</i>									LT						
	261	エゾシモフリスズメ	<i>Meganoton analis scribae</i>									LT						
	262	ハネナガブドウスズメ	<i>Acosmeryx naga naga</i>									LT						
	263	ヒサゴスズメ	<i>Mimas christophi</i>									LT						
	264	ベニスズメ	<i>Deilephila elpenor lewisii</i>							目								
	セセリチョウ	265	ギンイチモンジセセリ	<i>Leptalina unicolor</i>														
266		コチャバネセセリ	<i>Thoressa varia</i>															
267		ミヤマセセリ	<i>Erynnis montanus</i>															
トガリバガ	268	オオバトガリバ	<i>Tethea ampliata ampliata</i>									LT						
カイコガ	269	クワコ	<i>Bombyx mandarina</i>										LT					
ドクガ	270	ブドウドクガ	<i>Ilema eurydice</i>										LT					
	271	キドクガ	<i>Euproctis piperita</i>									LT	LT					
	272	リンゴドクガ	<i>Calliteara pseudabietis</i>									LT						
	273	ヒメトラガ	<i>Asteropetes noctuina</i>									LT						
ヒトリガ	274	ミヤマキベリホソバ	<i>Eilema okanoi</i>										LT					
ハマキガ	275	ギンモンズジヒメハマキ	<i>Olethreutes captiosana</i>					目		目			目					
ヒトリガ	276	アカハラゴマダラヒトリ	<i>Spilosoma punctaria</i>										LT					
マダラガ	277	ブドウスカシクロバ	<i>Illiberis tenuis</i>															
ヤガ	278	キシタミドリヤガ	<i>Xestia efflorescens</i>											LT				
	279	エゾキシタヨトウ	<i>Triphaenopsis jezoensis</i>											LT				
	280	ウスキシタヨトウ	<i>Triphaenopsis cinerescens</i>											LT				
	281	ヨスジアカヨトウ	<i>Pygopteryx suava</i>											LT				
	282	カラスヨトウ	<i>Amphipyra livida corvina</i>											LT				

表 3-35 昆虫目録 (13/14)

		283	フキヨトウ	<i>Hydraecia amurensis</i>															LT									
		284	コゴマヨトウ	<i>Chandata bella</i>																LT								
		285	シロモンヤガ	<i>Xestia cni-grum</i>																LT								
		286	シラホシキリガ	<i>Cosmia restituta picta</i>																LT								
		287	ウススジギンガ	<i>Chasminodes cilia</i>																LT								
		288	クロシラフクチバ	<i>Sypnoides fumosa</i>																LT								
		289	テングアツバ	<i>Rivula sericealis</i>																								
		290	ミツボシアツバ	<i>Hypena tristalis</i>																	LT							
		291	イネキンウワバ	<i>Plusia festucae</i>																	LT							
		292	シラクモアツバ	<i>Bomolocha zilla</i>																	LT							
		293	シロヒシモンコヤガ	<i>Erastroides fentoni</i>																	LT							
		294	センモンヤガ	<i>Agrotis exclamationis informis</i>																	LT							
		295	マエジロヤガ	<i>Ochropleura plecta glaucimacula</i>																	LT							
			ヤママユガ	296	エゾヨツメ	<i>Aglia japonica japonica</i>															LT							
				297	オオミズアオ	<i>Actias artemis artemis</i>																LT						
ハチ	アリ	298	アカヤマアリ	<i>Formica sanguinea</i>																								
		299	アズマオオズアリ	<i>Pheidole fervida</i>																								
		300	アメイロケアリ	<i>Lasius umbratus</i>																								
		301	エゾクシケアリ	<i>Myrmica jessensis</i>																								
		302	キイロケアリ	<i>Lasius flavus</i>																								
		303	クロクサアリ	<i>Lasius nipponensis</i>																								
		304	クロヤマアリ	<i>Formica japonica</i>																								
		305	シワクシケアリ	<i>Myrmica kotokui</i>																								
		306	トビイロケアリ	<i>Lasius japonicus</i>																								

表 3-36 昆虫目録 (14/14)

		307	ムネアカオオアリ	<i>Camponotus obscuripes</i>													
		308	トビイロシワアリ	<i>Tetramorium tsushimae</i>													
		309	カワラケアリ	<i>Lasius sakagami</i>													
	スズメバチ		310	ニッポンホオナガスズメバチ	<i>Dolichovespula saxonica</i>												
			311	コガタスズメバチ	<i>Vespa analis</i>												
			312	シダクロクロスズメバチ	<i>Vespula shidai</i>												
	ヒメハナバチ		313	アブラナマメヒメハナバチ	<i>Andrena brassicae</i>												
			314	ワタセヒメハナバチ	<i>Andrena watasei</i>												
	ベッコウバチ		315	クモリトゲアシベッコウ	<i>Priocnemis japonica</i>												
			316	フタスジベッコウ	<i>Eopompilus internalis</i>												
	ミツバチ		317	ウシツノキマダラハナバチ	<i>Nomada comparata</i>												
			318	エゾオオマルハナバチ	<i>Bombus hypocrita sapporoensis</i>												
			319	エゾコマルハナバチ	<i>Bombus ardens sakagami</i>												
			320	エゾトラマルハナバチ	<i>Bombus diversus tersatus</i>												
			321	ヤマトツヤハナバチ	<i>Ceratina japonica</i>												
11 目	91 科		321 種		53	8	34	16	38	43	26	93	80	5	32	51	
					91 種			91 種			184 種			87 種			

多:多く見られた種
 LT:ライトトラップで採集した種
 W:水中トラップで採集した種
 PT:ピットトラップで採集した種
 目:目撃した種

現地昆虫類捕獲・同定 木野田君公

昆虫類生息状況

任意採取範囲 No.1

調査地点として設定した任意採取範囲 No.1 は、トラストの森東側に位置し、河川や湿地・草原・泉などの環境要素が見られる。

特にトラストの森から続く草原はイネ科の牧草類やイの群落を主体とした牧草地、オオカサグを主体とした湿地は景観的に特徴的である。

河川や泉の水面では通常、道内で多く見られるアメンボ・ヒメアメンボなどの他に、比較的珍しいババアメンボも少数が生息している状況が確認された。

また6月の初めには、ミヤマミズスマシが水面を遊泳する姿が確認された。

水中では、ミズカマキリやゲンゴロウモドキ、オオコオイムシ、その他の小型ゲンゴロウ類等の、肉食性且つ大型の水生昆虫等が確認された。また泥底には、トンボ類の幼生(ヤゴ)やセンブリ類が多く見られ、特にイトトンボ類の幼生が多い。

6月の調査時には、ルリイトトンボやヨツボシトンボ、オツネトンボなどの美しいトンボ類が確認された。また、9月にはオオルリボシヤンマも確認された。これらは多くが周辺の泉で羽化したものと推測される。



さけます孵化場脇の泉



ヨツボシトンボ

さけ・ます孵化場周辺の未舗装道路付近にはヤナギ類やケヤマハンノキを主体とした樹林が見られ、6月調査時には希少種であるケマダラカミキリが確認された。

付近には樹林もあり、背後山地も近いため、コウチュウ類が多いものと思われる。青少年を対象とした昆虫類の観察場所として適した場所である。

周辺に広がる草原付近は主にイネ科の牧草類を主体としているため、昆虫類は多くはない。

6月にはセイヨウタンポポやムラサキツメクサ、その他の草本類が所々で開花しており、訪花性の昆虫類であるハナアブ類が多く飛来している。蝶類ではベニシジミやモンシロチョウが多い。

また牧草地ではセイヨウカラシナの群落が見られ、ジョウカイボンやハナムグリなどが飛来している。



ジョウカイボン

任意採取範囲 No.2

調査地点として設定した任意採取範囲 No.2 は、トラストの森周辺の樹林が中心となっている。

環境要素としては、カラマツ林・落葉広葉樹林・河川や草原・背後山地などが挙げられる。また草原の中には湧水による泉が見られる。

トラストの森では、手入れをされたカラマツ林が特徴として挙げられるが、花などが少ないため、訪花性の昆虫類は乏しい。



トラストの森周辺の樹林の状況

ベイトトラップでは、歩行生の昆虫類として、ゴミムシ類やオサムシ類が多く捕獲された。ベイトトラップは、カラマツ林床、落葉広葉樹林床、背後山地の林床などの各環境に設置したが、捕獲される種類に変化は見られなかった。

草原付近や樹林の林縁部などでは、カメムシ類やハムシ類が多く見られる。

キクビアオハムシは美しく、目立つ種である。一方カメムシ類は、体色が保護色となっており見つけることは容易ではない。



キクビアオハムシ

トラストの森付近では、湧き水による小規模な泉が見られる。6月の調査では、まだトンボ類が少なかったが、9月にはアオイトトンボに加え、オニヤンマ、ルリボシヤンマ、オオルリボシヤンマなどの大型のヤンマ類や、アキアカネ、マユタテアカネ、ノシメトンボ、コノシメトンボ、ミヤマアカネ、シオカラトンボなど多くの種類が見られた。

また、任意採取範囲 No.1 と同様、水域にはミズカマキリやゲンゴロウモドキなども生息している。

ミズカマキリやゲンゴロウモドキは大型の水生昆虫類であり、特に年少者にとって人気が高い種である。

また、両種はその呼吸方法が異なるため、捕獲された場合には、呼吸方法を観察することも面白く、環境学習の教材として適している。



水域に見られたミズカマキリ

任意採取範囲 No.3

調査地点として設定した任意採取範囲 No.3 は、トラストの森西側に位置するウヨロ川周辺である。周辺には河原・草原・樹林などの環境要素が見られる。

ウヨロ川脇の未舗装道路では、ケヤマハンノキの幼樹が卓越しており、それに伴いハンノキハムシやルリハムシが大量に生息している状況である。

これらは、ケヤマハンノキが見られるあらゆる場所に生息し、ケヤマハンノキの葉を食べている。

またオオイトダリの群落付近には、イトドリハムシが多く見られた。

ウヨロ川に架かる橋の下流、右岸側の支流の合流部には比較的広い河原が残されている。この場所ではコニワハンミョウが確認された。

ハンミョウ類は河原の環境を表徴する種として挙げられる。調査範囲内ではハンミョウ類の生息適地は少なく、本地点は貴重な生息場といえる。個体数は多くはない。

付近は礫と砂が混じっており、このような環境ではカラスアゲハやミヤマカラスアゲハが水分を補給している姿が見られた。

河原の歩行生昆虫は、ゴミムシ類やオサムシ類が主であった。

草原では、シロツメクサの大群落が見られ、マルハナバチが多数飛来していた。

ウヨロ川沿いには、河畔林としてヤナギ類が生育しているが6月にはヤナギ類に多くのアワフキムシの泡巣が作られている。

アワフキムシの泡巣はひんやりと冷たく、また生態的にも興味深いので、環境学習の教材として適している。



ウヨロ川の河原の状況



ハンノキハムシと食痕



水を飲むカラスアゲハとミヤマカラスアゲハ



アワフキムシの泡巣

任意採取範囲 No.4

調査地点として設定した任意採取範囲 No.4 は、トラストの森から南東方向約 3km に位置するエコの森周辺である。周辺には草原・樹林・旧川や湿地などの環境要素が見られる。

6月の調査では草原付近でプライアシリアゲが見られた。本種は、長い吻で他の昆虫類の体液を吸う昆虫として有名である。

また、草原ではドクガの幼虫も多かった。本種は、幼虫時代に主にバラ科の草本類に依存する。調査時には本地点の草原に卓越して生育しているワレモコウの葉に多く見られた。ドクガの幼虫に触れると、その毛(毒針毛)により、皮膚が水ぶくれのようになる。本時期に年少者を野外で遊ばせる場合には、留意が必要である。

トンボ類では6月にはモイワサナエが確認されたのみであった。本種は道内の普通種である。9月には種数が多くなり、アオイトトンボやオオルリボシヤンマ、キバネモリトンボ、アキアカネ、マユタテアカネ、ミヤマアカネ、ウスバキトンボ、シオカラトンボなどが確認された。エコの森周辺には、いくつかの旧川が残されており、幼生はこのような環境で生育しているものと推測される。

6月には、草原でエゾノコリンゴが開花しており、周辺には訪花性の昆虫類がの至るところで見られた。

ハナアブ類の他にも、ジョウカイ類やカメムシ類・ハムシ類・モモブトカミキリなどが飛来している。

またウヨロ川の堤防付近ではセイヨウカラシナの群落が見られ、ナガメなどが飛来している。

歩行生の昆虫類では、ゴミムシ類やオサムシ類が主であり、これは他の場所と大差がない。

9月には地上でコオロギ類やキリギリス類が多かった。またチョウ類ではベニシジミやゴマシジミがウヨロ川の堤防周辺で多く見れた。ウラギンスジヒョウモンなどのタテハチョウの仲間も多く、これらは草原付近で確認された。

尚、昆虫類ではないがアマガエル・エゾアカガエルも確認された。これらはエコの森周辺で再生産しているものと推測される。



エコの森周辺の草原



プライアシリアゲ



確認されたドクガの幼虫

ライトトラップ

ライトトラップは、背後山地が近いこと 周辺が開けて見通しが良いこと 周辺の環境要素が多様であること トラストの森から近いこと等を設置位置の判断基準とした。

トラストの森付近において上記の条件を満たしているのは、ウヨロ小屋からウヨロ川方面に西に 300m ほど行った広場であり、本地点が最も条件が良いと判断したため、ライトトラップを設置した。調査時の天候は、風がなく、気温も比較的高かった。

調査中には春季に見られるヤマユガ科であるエゾヨツメ、オオミズアオなどが飛来した。

またスズメガ科やヤガ科、シャクガ科の種が多数飛来した。これらはほとんどが夜行性のものである。

この内、特にオオミズアオは個体が大きく、色合いも美しいことから、非常に目立つガ類である。

コウチュウ類では、マメゲンゴロウ科の種が飛来した他、ゴミムシ科の種なども多少飛来した。しかし、6月であったことから、これらのコウチュウ類は少なく、ガの仲間がメインであった。

また、調査中にはケラも1個体飛来した。本種は畑や水田周辺など、湿気のある土壤中に生息する。前脚が穴掘りに特化し、平たいスコップのような形をしている。

里山を代表する有名な昆虫類であるが、近年、個体数が減少しているとも言われている。

見る機会は少ないが、環境学習等の時に発見できれば、独特の形態から観察対象として適している。



ライトトラップ設置位置の周辺環境



ライトトラップに飛来したオオミズアオ



ライトトラップに飛来したケラ

5) 着目すべき種


本調査で確認された昆虫類のうち、ケマダラカミキリ及びニホンセセリモドキは、現在、環境省や北海道により希少性を指摘されている。

ケマダラカミキリ、ニホンセセリモドキの選定状況や確認状況をまとめ、表 3-37 に示した。尚、掲載に関しては環境省及び北海道が刊行している最新のレッドデータブックより引用した。

ケマダラカミキリは、環境省レッドリスト(2000)により準絶滅危惧 (NT)、北海道レッドデータブック(2001)により留意種 (N) に選定されている。

ニホンセセリモドキは北海道レッドデータブック(2001)により希少種 (R) に選定されている。

表 3-37 絶滅の恐れのある昆虫類

種名・選定状況・確認状況	写 真
<p>【種名】 ケマダラカミキリ</p> <p>【選定状況】 環境省レッドデータリスト(2000) 準絶滅危惧(NT) 北海道レッドデータブック(2001) 留意種(N)</p> <p>【主な生態】 大きさ 14～18mm 程度のカミキリムシの仲間。主にヨモギ、オオハングソウ、オオハナウドの葉・茎などを食べる。</p> <p>【確認状況・位置】 調査範囲 No.1 の泉の脇の草本群落周辺(アキタブキ)で確認された。調査範囲 No.3 の林縁(オオイタドリ)で確認された。</p>	 <p>写真 3-5 ケマダラカミキリ</p>
<p>【種名】 ニホンセセリモドキ</p> <p>【選定状況】 環境省レッドデータリスト(2000) - 北海道レッドデータブック(2001) 希少種(R)</p> <p>【主な生態】 幼虫期は 5-6 月、沢沿いのやや陰地のムラサキシキブなどに見られる。蛾は年 1 化、7 月に羽化する。</p> <p>【確認状況・位置】 調査範囲 No.3 で実施したライトトラップ(9 月)に確認された。</p>	<p>写真なし</p>

(文責 パブリックコンサルタント株式会社)

3.3.3 底生動物調査

1) 調査方法

調査は、調査範囲において、たも網により様々な環境から底生動物を捕獲する定性採取法により実施した。

表 3-38 調査方法

調査方法・特徴など	調査状況写真
<p>【定性採取法】</p> <p>調査方法</p> <p>たも網により調査地区周辺の様々な環境から底生動物を捕獲する方法。</p> <p>調査範囲に生息する底生動物相を把握するのに適している。</p> <p>対象底生動物</p> <p>底生動物全般。</p>	

2) 調査時期

調査は、春季羽化種が羽化する前の6月に実施した。詳細な調査日は以下のとおりである。

2006年06月15日

3) 調査位置

調査は、トラストの森周辺及びエコの森で実施した。詳細な範囲は図 3-17 に示すとおりである。



図 3-17 底生動物調査位置図

4) 調査結果

確認種

調査の結果、17目49科87種の底生動物種が確認された。確認種をまとめ、表3-39～表3-41に示した。本調査では、調査地点をNo.1(本川中流)、No.2(本川上流)、No.3(トラストの森付近の泉)、No.4(エコの森旧川)に設定したため、出現種も流水性の種から止水性の種までバラエティーに富んだものとなっている。

確認種を目別に分類し、出現状況を図3-18に示した。図からはカゲロウ目、トンボ目、カワゲラ目、カメムシ目、トビケラ目、ハエ目、コウチュウ目に属する種が主体となって出現していることが分かる。

これらの内、カゲロウ目やカワゲラ目・トビケラ目に属する種の多くは流水性であり、流れのある河川の礫下などに生息する種である。これらの種は流水環境の見られるウヨロ川本川での確認が多かった。

一方、トンボ目・カメムシ目・ハエ目・コウチュウ目に属する種の多くは河川緩流域～止水域に生息場を持つ種である。これらの種はウヨロ川本川では少なく、トラストの森脇の泉や、エコの森に見られるウヨロ川の旧川で多くが確認された。

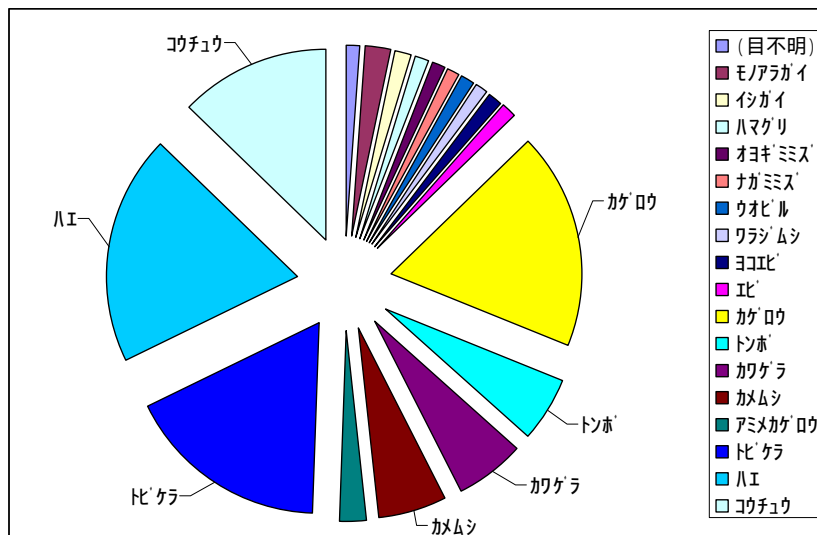


図 3-18 底生動物相

カゲロウ目・・・(コカゲロウやヒラタカゲロウ・マダラカゲロウなど)、トンボ目・・・(イトトンボやヤンマ・エゾトンボなど)、カワゲラ目・・・(オナシカワゲラやカワゲラなど)、トビケラ目・・・(ヒゲナガカワトビケラやエグリトビケラなど)、ハエ目・・・(ガガンボやユスリカ・アブなど)、コウチュウ目・・・(ゲンゴロウなど)

各地点における出現種数は、No.1(27種)、No.2(35種)、No.3(38種)、No.4(25種)であり、トラストの森脇の泉における出現種数が最も多かった。一方で最も出現種数が少なかったのはエコの森に見られる旧川であった。

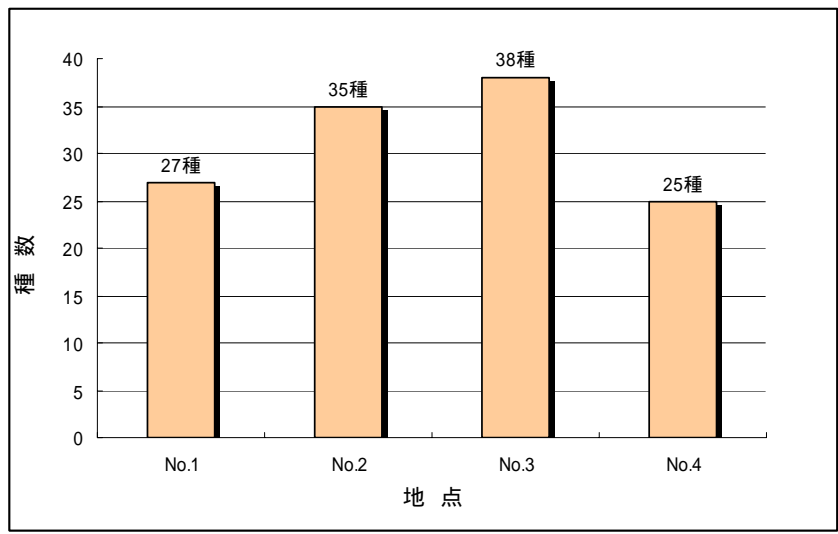


図 3-19 各地点の出現種数

図 3-20 に各地点の底生動物相を示した。図からは、流水環境 (No.1、No.2)、止水環境 (No.3、No.4) において底生動物相が全く異なることが読みとれる。

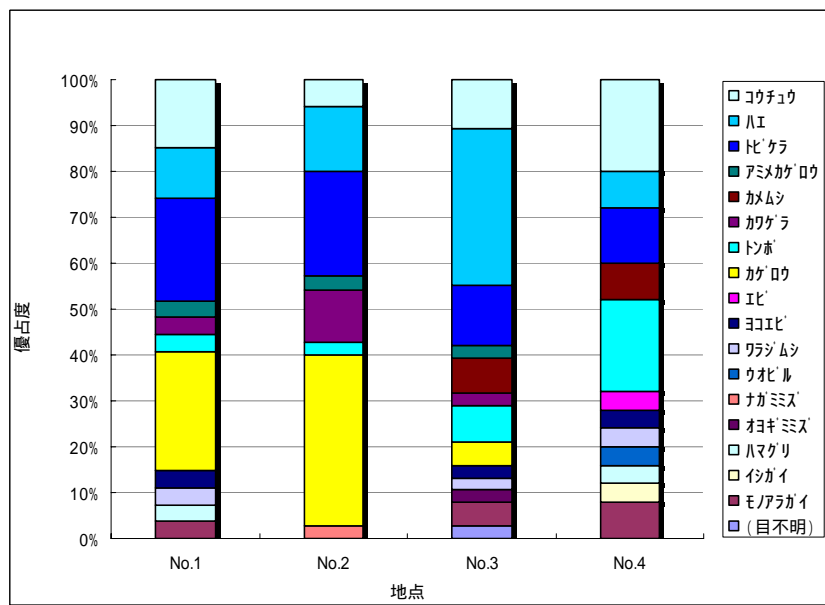


図 3-20 各地点の底生動物相

ウヨ口川本川の2地点は主に平瀬や早瀬などの流水環境で構成されており、カゲロウ等の流水性の種にとっては生息環境が多く、これらの種が卓越する。しかし河岸はやや単調であり、緩流域に生息する底生動物の生息環境に乏しい。また、中流より上流の方が出現種数が多い理由としては、これらの流水性の種が下流より多様であることが挙げられ、カゲロウ目・カワゲラ目・トビケラ目のグループ全てで中流より出現種が多い。特にカワゲラ目は多くの種が上流の地点でのみ出現している。

一方で、トラストの森脇の泉は、流水環境及び止水環境がセットで見られるために、流水性の種と止水性の種が両方見られることが特徴的である。また各地点の内、最もハエ目に属する種が多く、出現種を多くしている理由となっている。

エコの森に見られるウヨロ川の旧川は、沼地状となっており、止水域に生息する種が主となっており、トンボ目やコウチュウ目に属する種が多く生息している。

特に、ドブガイやオニヤンマ、ヒメミズカマキリ、ゲンゴロウの数種などは、エコの森の旧川でのみ見られた。

表 3-39 底生動物目録(1)

門	綱	目	科	No.	和名	学名	No.1	No.2	No.3	No.4			
類線形動物	ハリガネムシ	(目不明)	(科不明)	1.	ハリガネムシ綱の一種	Nematomorpha sp.							
軟体動物	マキガイ(腹足)	モノアラガイ(基眼)	モノアラガイ	2.	モノアラガイ	<i>Radix auricularia</i>							
			ヒラマキガイ	3.	ヒラマキガイ属の一種	<i>Gyraulus</i> sp.							
	ニマイガイ(二枚貝)	イシガイ	イシガイ	4.	ドブガイ	<i>Anodonta woodiana</i>							
			ハマグリ(マルスタレガイ)	5.	マメシジミ属の一種	<i>Pisidium</i> sp.							
環形動物	ミズ(貧毛)	オヨキミズ	オヨキミズ	6.	オヨキミズ科の一種	Lumbriculidae sp.							
		ナガミズ	ツリミズ	7.	ツリミズ科の一種	Lumbricidae sp.							
	ヒル	ウオビル(吻蛭)	グロシフォニ	8.	グロシフォニ科の一種	Glossiphoniidae sp.							
節足動物	甲殻	ワラシムシ(等脚)	ミスムシ	9.	ミスムシ	<i>Asellus hilgendorfi hilgendorfi</i>							
		ヨコエビ(端脚)	キタヨコエビ	10.	オオエゾヨコエビ キタヨコエビ科(幼若)	<i>Jesogammarus jesoensis</i> <i>Anisogammaridae</i> (juvenile)							
		エビ(十脚)	テナガエビ	11.	スジエビ	<i>Palaemon paucidens</i>							
昆虫	カゲロウ(蜉蝣)	カゲロウ(蜉蝣)	ヒメフタオカゲロウ	12.	ヒメフタオカゲロウ属の一種	<i>Ameletus</i> sp.							
			コカゲロウ	13.	フタハコカゲロウ属の一種	<i>Baetiella</i> sp.							
				14.	シロハラコカゲロウ	<i>Baetis thermicus</i>							
				15.	コカゲロウ属の数種	<i>Baetis</i> spp.							
				16.	フタオカゲロウ属の一種	<i>Siphonurus</i> sp.							
				17.	ウエヒラタカゲロウ	<i>Epeorus curvatulus</i>							
				18.	エルモンヒラタカゲロウ	<i>Epeorus latifolium</i>							
				19.	ヒメヒラタカゲロウ属の一種	<i>Rhithrogena</i> sp.							
				20.	ヒイロカゲロウ属の一種	<i>Paraleptophlebia</i> sp.							
				21.	フタスジモンカゲロウ	<i>Ephemera japonica</i>							
				22.	クロマダラカゲロウ	<i>Cincticostella nigra</i>							
				23.	オオクママダラカゲロウ	<i>Cincticostella okumai</i>							
				24.	チェルハマダラカゲロウ	<i>Cincticostella tshernovae</i>							
				25.	ヨシノマダラカゲロウ	<i>Drunella ishiyamana</i>							
				26.	フタマタマダラカゲロウ	<i>Drunella sachalinensis</i>							
				27.	ミツゲマダラカゲロウ	<i>Drunella trispina</i>							
				28.	イトトンボ	イトトンボ	28.	エゾイトトンボ	<i>Coenagrion lanceolatum</i>				
				29.	ヤンマ	ルリボシヤンマ属の一種	29.	ルリボシヤンマ属の一種	<i>Aeshna</i> sp.				
				30.	サナイトンボ	モイワサナエ	30.	モイワサナエ	<i>Davidius moiwanus moiwanus</i>				
				31.	オニヤンマ	オニヤンマ	31.	オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i>				
				32.	エゾトンボ	エゾトンボ属の一種	32.	エゾトンボ属の一種	<i>Somatochlora</i> sp.				
						エゾトンボ科(若齢)		エゾトンボ科(若齢)	<i>Corduliidae</i> (early instar)				

表 3-40 底生動物目録 (2)

門	綱	目	科	No.	和名	学名	No.1	No.2	No.3	No.4		
節足動物	昆虫	カワゲラ(セキ翅)	ミドリカワゲラ	33.	ミドリカワゲラ科の一種	<i>Chloroperlidae</i> sp.						
			オナシカワゲラ	34.	アサオナシカワゲラ属の一種	<i>Amphinemura</i> sp.						
				35.	オナシカワゲラ属の一種	<i>Nemoura</i> sp.						
			カワゲラ	36.	キカワゲラ属の一種	<i>Acroneuria</i> sp.						
				37.	モンカワゲラ亜科の一種	<i>Acroneuriinae</i> sp.						
		カメムシ(半翅)	アメンボ	38.	ヒメアメンボ属の一種	<i>Gerris</i> sp.						
			コオイムシ	39.	オオコオイムシ	<i>Appasus major</i>						
			タイコウチ	40.	ミス'カマキリ	<i>Ranatra chinensis</i>						
				41.	ヒメミス'カマキリ	<i>Ranatra unicolor</i>						
			マツモムシ	42.	マツモムシ	<i>Notonecta triguttata</i>						
		アミメカゲ'ロウ(脈翅)	ヘビトンボ	43.	ヘビ'トンボ	<i>Protohermes grandis</i>						
			センブリ	44.	セン'ブリ	<i>Sialis sibilica</i>						
		ヒ'ケラ(毛翅)	イワヒ'ケラ	45.	ミヤマイワヒ'ケラ属の一種	<i>Plectrocnemia</i> sp.						
			ヒゲ'ナガ'カ'リ'ヒ'ケラ	46.	ヒゲ'ナガ'カ'リ'ヒ'ケラ	<i>Stenopsyche marmorata</i>						
			ナガレ'ヒ'ケラ	47.	ナガレ'ヒ'ケラ属 <i>brevicephala</i> 種群	<i>Rhyacophila</i> sp. (<i>brevicephala</i> group)						
			カクス'イ'ヒ'ケラ	48.	アメリカカクス'イ'ヒ'ケラ	<i>Brachycentrus americanus</i>						
			カクツ'ヒ'ケラ	49.	カクツ'ヒ'ケラ属の一種	<i>Lepidostoma</i> sp.						
			エグリ'ヒ'ケラ	450.	ク'ロ'ハ'ネ'エグリ'ヒ'ケラ属の一種	<i>Asynarchus</i> sp.						
				51.	シ'ヨウ'ザ'ン'エグリ'ヒ'ケラ	<i>Dicosmoecus jozankeanus</i>						
				52.	ユ'ミ'モン'ヒ'ケラ属の一種	<i>Halesus</i> sp.						
				53.	キ'リ'ハ'ネ'ヒ'ケラ属の一種	<i>Limnephilus</i> sp.						
				54.	ス'シ'ヒ'ケラ属の一種	<i>Nemotaulius</i> sp.						
				55.	ホ'タル'ヒ'ケラ属の一種	<i>Nothopsyche</i> sp.						
				56.	ウ'ン'モン'ヒ'ケラ属の一種	<i>Agrypnia</i> sp.						
			ム'ラ'サ'キ'ヒ'ケラ	57.	ム'ラ'サ'キ'ヒ'ケラ	<i>Eubasilissa regina</i>						
			ク'ロ'ツ'ツ'ヒ'ケラ	58.	ア'ツ'ハ'エ'グリ'ヒ'ケラ属の一種	<i>Neophylax</i> sp.						
			シ'マ'ヒ'ケラ	59.	ウ'ル'マ'シ'マ'ヒ'ケラ	<i>Hydropsyche orientalis</i>						
			ハ'エ(双翅)	ガ'ガ'ン'ボ	60.	ガ'ガ'ン'ボ属の一種	<i>Tipula</i> sp.					
					61.	テ'イ'ク'ラ'タ属の一種	<i>Dicranota</i> sp.					
		62.			ヒゲ'ナガ'ガ'ガ'ン'ボ属の一種	<i>Hexatoma</i> sp.						
		ヌ'カ'カ		63.	ヌ'カ'カ科の一種	<i>Ceratopogonidae</i> sp.						
		ユ'ス'リ'カ		64.	ホ'カ'シ'ヌ'マ'ユ'ス'リ'カ族の一種	<i>Macropelopiini</i> sp.						
				65.	ヤマ'ヒ'メ'ユ'ス'リ'カ族の一種	<i>Pentaneurini</i> sp.						
				66.	ヤマ'ユ'ス'リ'カ'亜科の一種	<i>Diamesinae</i> sp.						

表 3-41 底生動物目録 (3)

門	綱	目	科	No.	和名	学名	No.1	No.2	No.3	No.4	
節足動物	昆虫	ハエ(双翅)		67.	エリュスリカ亜科の一種	<i>Orthoclaadiinae</i> sp.					
				68.	ホソユスリカ属の一種	<i>Dicrotendipes</i> sp.					
				69.	セホリユスリカ属の一種	<i>Glyptotendipes</i> sp.					
				70.	アシマダラユスリカ属の一種	<i>Stictochironomus</i> sp.					
				71.	ユスリカ族の一種	Chironomini sp.					
				72.	ヒゲユスリカ族の一種	Tanytarsini sp.					
					ユスリカ科(蛹)	Chironomidae (pupa)					
			ホソカ	73.	ホソカ科の一種	Dixidae sp.					
			ブユ	74.	アシマダラブユ属の一種	<i>Simulium</i> sp.					
			ナガレアブ	75.	ナガレアブ科の一種	Athericidae sp.					
			アブ	76.	アブ科の一種	Tabanidae sp.					
			コウチュウ(鞘翅)	ゲンゴロウ	77.	ナガケシゲンゴロウ属の一種	<i>Hydroporus</i> sp.				
					78.	チャイロシマヒゲンゴロウ	<i>Potamonectes anchoralis</i>				
		79.			シマヒゲンゴロウ	<i>Potamonectes simplicipes</i>					
		80.			クロスマゲンゴロウ	<i>Agabus conspicuus</i>					
		81.			キヘリクロヒゲンゴロウ	<i>Ilybius apicalis</i>					
		82.			ヨツボシクロヒゲンゴロウ	<i>Ilybius chishimanus</i>					
		83.			キヘリマゲンゴロウ	<i>Platambus fimbriatus</i>					
		84.			モンキマゲンゴロウ	<i>Platambus pictipennis</i>					
		85.			ヒメゲンゴロウ	<i>Rhantus suturalis</i>					
		86.			ゲンゴロウモドキ	<i>Dytiscus dauricus</i>					
					ゲンゴロウ亜科(幼虫)	Dytiscinae (larva)					
		コガシラミスムシ			87.	ヒメコガシラミスムシ属の一種	<i>Halipus</i> sp.				
					種数			27種	35種	38種	25種

リスト作成 パブリックコンサルタント株式会社

注: は、出現の有無を示す。

黄色のセルで示したものは、同じサンプルに出現した種のいずれかと重複する可能性があるため、地点別の種数を計数する際に対象から除いてある。

種名の配列は、原則として財団法人ダム水源地環境整備センター「河川水辺の国勢調査のための生物リスト[平成 17 年度 河川・ダム湖統一版]」に従った。

底生動物生息状況

定性採取地点 No.1

調査地点 No.1 は、ウヨロ川の下流域である道道の石山大通りウヨロ橋下付近を対象として実施した。

調査当日の天候は曇、気温は 12.4 、水温は 10.2 、河川水は平水位であった。

調査地点付近は、平瀬が卓越しており、一部深みが見られる程度で顕著な淵の形成は見られない。

河床は砂～5cm 大の礫が堆積し、河床状況は単調である。河岸にはヨシやクサヨシが繁茂し、泥の堆積が見られた。

本地点では 20 科 27 種の底生動物が確認された。

本地点に生息する底生動物は、カゲロウ類・カワゲラ類・コウチュウ類が中心となっており、カゲロウ類やトビケラ類は平瀬部に多く見られ、コウチュウ類は河岸植生間に多く見られる。

確認されたカゲロウ類は砂泥中に生息するモンカゲロウや平瀬の礫間に生息するフタオカゲロウ、マダラカゲロウなどが主であった。

トビケラ類では、砂礫を巣材とするジョウザンエグルトビケラや、落ち葉や樹皮などを巣材とするカクツツトビケラやホタルトビケラなどが主であったが個体数は多くはない。

また河岸付近にはモノアラガイやセンブリ、モイワサナエなどの緩流域を好む種の生息も見られた。

ゲンゴロウ類は比較的数量が多く、チャイロシマチビゲンゴロウやキベリマメゲンゴロウなどは河岸付近で普通に見られる。

本地点では全体的に底生動物は小型の種が多く、また、個体数も多くはなかった。

トビケラ類の種数・個体数がそれほど多くないことを考慮すると、比較的河床材料の移動が激しいものと推測される。



調査地点 No.1 から上流の状況



調査地点 No.1 から下流の状況



確認されたセンブリ

定性採取地点 No.2

調査地点 No.2 は、ウヨロ川の中流域を対象として実施した。

調査当日の天候は曇、気温は 12.4 、水温は 10.1 、河川水は平水位であった。

調査地点付近は、河道の屈曲部に大きな淵が形成されており、平瀬、早瀬が形成され、下流の橋下に更に淵が形成されていた。

河床は淵で砂礫の堆積が見られ、平瀬・早瀬では 3～30cm 大の礫が堆積し、河床状況は変化に富んだものとなっている。

河岸には礫が堆積しており、部分的に倒木などが見られるが、やや単調となっている。

本地点では 23 科 35 種の底生動物が確認された。

本地点に生息する底生動物は、カゲロウ類・カワゲラ類・トビケラ類が中心となっている。

カゲロウ類では、中流の地点では見られなかったエルモンヒラタカゲロウに代表されるヒラタカゲロウ類が多く出現した。これらのヒラタカゲロウ類は本地点の礫下等、至るところに生息している。

カワゲラ類では大型の水生昆虫であるキカワゲラ属の一種やオナシカワゲラ類が数種確認された。

特にキカワゲラは清流に生息する種であり、本種が生息することは水質の良好さを示している。

また平瀬の礫下からはヘビトンボも数個体確認された。

トビケラ類では礫下にネット状の巣を作ることで有名なヒゲナガカワトビケラやウルマーシマトビケラが比較的多く生息している。

また日本最大のトビケラ類であるムラサキトビケラも確認された。

下流の地点に比べ、水生昆虫類は全体的に大型である。

流水性の水生昆虫は、全調査地点の内、本地点が最も多様であり、個体数も非常に多い。したがってこれらの水生昆虫の観察場所としては最適であると思われる。



調査地点 No.1 から上流の状況



調査地点 No.1 から下流の状況



確認されたキカワゲラ

定性採取地点 No.3

調査地点 No.3 は、トラストの森の東側にある泉を対象として実施した。

調査当日の天候は曇、気温は 12.8 、水温は 9.1 であった。

調査地点付近は、広く湿地状となっており、水際や水域にはオオカサスゲによる群落が卓越している。また河道内には、スギナモが生育し独特の雰囲気呈している。

河道状況は湧き水による河川が形成されており、流水が見られる場所には礫や砂が堆積している。一方、河川の入流しているさけます孵化場脇の泉では、河床には泥が厚く堆積している。

したがって、底生動物も流水性の種と、緩流域～試水域に生息する種が混在して見られ、他の地点には見られない本地点の最大の特徴となっている。

本地点では 25 科 38 種の底生動物種が確認された。

本地点に生息する底生動物は、ハエ類が中心となり、またトンボ類・カメムシ類・コウチュウ類などに属する種が多く見られる。

ハエ類では、ユスリカの仲間が多く出現したが、これは本地点が年間を通じて流量が安定している結果であると考えられる。

トンボ類では、エゾイトンボやルリボシヤンマ、エソトンボなどが確認され、特にエゾイトンボの幼生は多数確認された。

カメムシ類では、オオコオイムシ、ミズカマキリ、マツモムシなどの種が確認された。特にオオコオイムシ、マツモムシなどは個体数が多かった。

トビケラ類では、エグリトビケラ属の種が多く見られ、流水域の礫にはジョウザンエグリトビケラが多い他、オオカサスゲが抽水した場所にはウンモントビケラやキリバネトビケラが多く見られた。キリバネトビケラは枯れ草等で巣材を作り、見た目は団子状であり、緩流域を表徴する種である。子どもにも容易に捕獲が可能であり、姿が独特であることから観察対象として面白い。

コウチュウ類では、ゲンゴロウ類が多種確認された。この内、最も目を引くのは大型のゲンゴロウモドキである。岸から容易に捕獲できるため、自然観察の材料としても面白い。



調査地点 No.1 の流水環境の状況



調査地点 No.1 の止水環境の状況



確認されたキリバネトビケラ

定性採取地点 No.4

調査地点 No.4 は、エコの森に見られるウヨロ川の旧川と旧川に注いでいる支川を対象として実施した。

調査当日の天候は曇、気温は 13.3 、水温は 9.9 であった。

調査地点付近は、旧川が広く開けており、周辺は湿地状となっている。水際や水域にはヨシやクサヨシ・オオカサスゲなどによる水際植生が卓越している。

旧川の水は茶褐色に着色しており、沼地状の景観となっている。また流入している支川は透明である。

河床には泥が厚く堆積し、礫等の河床材料は見られない。

本地点では 19 科 25 種の底生動物種が確認された。

本地点に生息する底生動物は、トンボ類やコウチュウ類が中心となっている。また淡水産貝類も多く、モノアラガイやヒラマキガイ、ドブガイ、マメシジミなどがいたるところに生息している。

トンボ類では、旧川でエゾイトトンボが非常に多く見られ、ルリボシヤンマやエゾトンボなども生息している。また支川ではオニヤンマの生息が確認された。支川は比較的立ち入りが容易なため、子どもにも捕獲は可能であると思われる。

カメムシ類では、アメンボ類やヒメミズカマキリなどが見られる。特にヒメミズカマキリは、本地点でのみ確認されている。

コウチュウ類ではゲンゴロウ類が多種確認された。この内、最も目を引くのはやはり大型のゲンゴロウモドキである。岸から容易に捕獲できるため、自然観察の材料としても面白い。

また小型のゲンゴロウとしてはヨツボシクロヒメゲンゴロウ、モンキマメゲンゴロウ、ヒメゲンゴロウなどが生息している。これらは小型であるためあまり目立たない種である。



調査地点 No.4 の旧川の状況



調査地点 No.4 の小沢の状況



確認されたオニヤンマ

5) 着目すべき種

本調査で確認された底生動物のうち、モノアラガイ、オオコオイムシの2種は、現在、環境省や北海道により希少性を指摘されている。



各種の選定状況や確認状況をまとめ、表 3-42 に示した。

尚、掲載に関しては環境省及び北海道が刊行している最新のレッドデータブックより引用した。

モノアラガイは、環境省レッドデータブック(2005)により準絶滅危惧(NT)に選定されている。本種は、No.1(ウヨロ川中流)、No.3(トラストの森脇の泉)、No.4(エコの森旧川)で確認された。確認場所はいずれも河岸植生付近であった。

オオコオイムシは北海道レッドデータブックにより希少種(R)に選定されている。本種は、No.3(トラスト脇泉)の河岸植生付近から確認された。

表 3-42 絶滅の恐れのある底生動物

種名・選定状況・確認状況	写 真
<p>【種名】 モノアラガイ</p> <p>【選定状況】 環境省レッドデータブック(2005) 準絶滅危惧(NT) 北海道レッドデータブック(2001) -</p> <p>【主な生態】 殻高 25mm、殻径 20mm 程になる。小川、川の淀み池沼、水田などに生息する。植食性で微少な藻類を削り取って食べる。雌雄同体でゼラチン質の卵塊を産む。成長は早く約2ヵ月で成熟する。</p> <p>【確認状況・位置】 No.1、No.3、No.4 の河岸植生付近から多数確認された。特に No.3 では個体数が多かった。</p>	 <p>写真 3-6 モノアラガイ</p>
<p>【種名】 オオコオイムシ</p> <p>【選定状況】 環境省レッドデータリスト(2000) - 北海道レッドデータブック(2001) 希少種(R)</p> <p>【主な生態】 北海道から本州に分布するコオイムシ科の一種。主に小川、水田、湖沼等の水生植物の繁茂する止水域に生息する。</p> <p>【確認状況・位置】 No.3 の河岸植生付近から確認された。</p>	 <p>写真 3-7 オオコオイムシ</p>

(文責 パブリックコンサルタント株式会社)

3.3.4 魚類調査

1) 調査方法

調査は河川の状態に応じ、表 3-43 に示すように投網（7節 500目・21節 1,200目）、たも網（径 1.0m の半円形）、を用いて魚類の捕獲を実施した。

尚、捕獲した魚類は麻酔をかけ、種の判別・写真撮影を行った後、標本用の個体を除き、すべて速やかに放流した。

表 3-43 調査方法

調査方法・特徴など	調査状況写真
<p>【投網】</p> <p>調査方法 投網の規格・・・3.5m×3.5m 網目 0.8cm 投網による魚類の採捕を実施する。投網は瀬・淵を問わず、主に遊泳魚類を捕獲するのに適する。</p> <p>対象魚類 主に遊泳魚類。</p>	
<p>【たも網】</p> <p>調査方法 たも網の規格・・・1.0m 網目 0.4cm たも網による魚類の採捕を実施する。たも網は河岸や石の下など主に底生魚類を捕獲するのに用いる。</p> <p>対象魚類 主に底生魚類。</p>	

2) 調査時期

調査は道内の多くの魚種の産卵期である6月に実施した。詳細な調査日は以下のとおりである。
2006年06月14日

3) 調査位置

調査は、ウヨロ川の河口～中流域及びエコの森の旧川を対象として実施した。詳細な範囲は図 3-21 に示すとおりである。

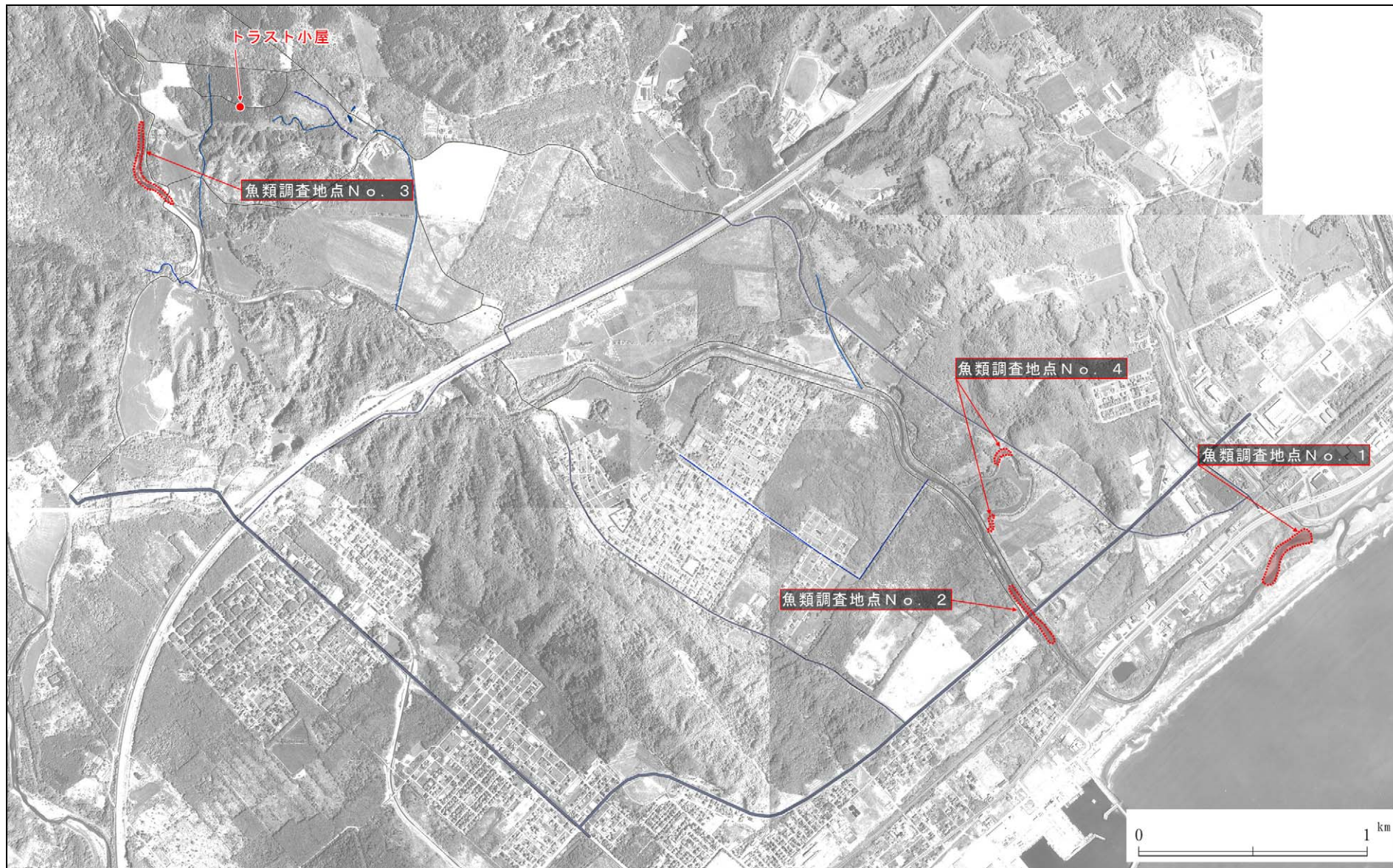


図 3-21 魚類調査位置図

4) 調査結果

確認種

調査の結果、表 3-44 に示すとおりヤツメウナギ科 1 種、サケ科 3 種、コイ科 2 種、トゲウオ科 2 種、ドジョウ科 2 種、ハゼ科 3 種、カジカ科 1 種の計 7 科 14 種が確認された。

ウヨロ川に生息する魚類の特徴は、通し回遊魚の割合が多いことで、確認種の 14 種のうち、その多くは生活史の内、海域に依存する。

また、トラストの森周辺の泉やエコの森などに見られる止水環境には、ウヨロ川本川には見られないエゾホトケが多く生息していることが特徴的である。

表 3-44 魚類目録

科	種	地点 No.1	地点 No.2	地点 No.3	地点 No.4	補足点
		本川河口	本川中流	本川上流	旧川 (エコの森)	泉 (トラストの森)
ヤツメウナギ	シベリアヤツメ					
サケ	アメマス					
	サケ					
	サクラマス(ヤマメ)					
コイ	ウグイ					
	ギンブナ					
トゲウオ	イトヨ					
	イバラトミヨ					
ドジョウ	フクドジョウ					
	エゾホトケ					
ハゼ	ジュズカケハゼ					
	ウキゴリ					
	シマウキゴリ					
カジカ	エゾハナカジカ					
	カジカ属					
7 科	14 種	11 種	8 種	5 種	7 種	3 種

補足点…底生動物調査時に確認した魚種のみ

リスト作成 パブリックコンサルタント株式会社

魚類生息状況

調査地点 No.1

調査地点 No.1 は、ウヨロ川の河口域であるブウベツ川との合流点付近を対象として実施した。

調査当日の天候は晴れ、気温は 11.8 、水温は 12.4 であった。

ブウベツ川合流点付近は、一様にフラットな流れとなっており、顕著な淵や瀬の形成は見られない。また河岸は砂が堆積し、魚類の生息環境に乏しい。

河床材料は砂が主体となっており、その他火山質の礫により構成されている。河床材は極めて流出しやすく調査中にも継続して流出している状況が見られた。

本地点では、シベリアヤツメ(幼生)、サケ(稚魚)、ヤマメ、ウグイ、イトヨ、イバラトミヨ、フクドジョウ、ジュズカケハゼ、ウキゴリ、シマウキゴリ、ジュズカケハゼの 11 種であった。

付近の深みには、遊泳魚であるウグイが多く見られる他は、ヤマメ及びサケの稚魚が多少見られる程度である。ブウベツ川合流点より 100m 程度上流へ向かうと平瀬が連続して形成されており、河道は蛇行している。河床は下流同様、火山質の礫により構成されている。しかし、礫の下には嫌気質の泥が深く堆積しており、河床は良好な状態ではない。

蛇行部や水裏部には河岸植生が繁茂し、イバラトミヨが最も多く見られ、本種が優占種となっている。またウキゴリやシマウキゴリ・フクドジョウ、スジエビが少数見られる。

調査当時はイトヨの遡上期にあたり、イトヨの親魚も多く見られた。

河道の一部には、ワンドが形成されており、泥の堆積が見られる場所では、シベリアヤツメの幼生が生息している。また同じ環境にはジュズカケハゼが多く見られた。

本地点は、海域を指標する魚種の出現を期待して設定しているが、横断工作物等はないにもかかわらず、他の河川で多く見られるようなアシシロハゼやヌマガレイ、ボラやメナダなどは確認されなかった。

まとめると、河口域は比較的単調な河道や流況が卓越し、魚類の生息環境に乏しい。

河口域は、海域から遡上するサケやサクラマス、ウグイ、イトヨ、その他の通し回遊魚の重要なルートである一方、通年を河川に依存する淡水魚類の種数は少なく、また海域を指標する種の遡上状況も少ないものと推測される。



調査地点 No.1 から上流の状況



調査地点 No.1 から下流の状況



調査地点 No.1 の魚類採捕状況

調査地点 No.2

調査地点 No.2 は、ウヨロ川の下流域に位置するウヨロ橋の上下流を対象として実施した。

調査当日の天候は晴れ、気温は 14.5 、水温は 12.3 であった。

ウヨロ橋付近は、調査地点付近は、平瀬が卓越しており、一部深みが見られる程度で顕著な淵の形成は見られない。

河床は砂～5cm 大の礫が堆積し、河床状況は単調である。河岸にはヨシやクサヨシが繁茂し、泥の堆積が見られた。



調査地点 No.2 から上流の状況

本地点で確認された魚種は、シベリアヤツメ(幼生・成体)、サケ(稚魚)、サクラマス(ヤマメ)、ウグイ、イトヨ、イバラトミヨ、フクドジョウ、ウキゴリの 8 種であった。

調査地点の河岸にはヨシやクサヨシが繁茂し、いたるところに緩流部が形成されている。このような環境の河床からは、シベリアヤツメ(幼生)が確認された。また同じ環境の河岸植生群落周辺では、サケ(稚魚)、サクラマス(ヤマメ)の稚魚、イトヨ、イバラトミヨ、ウキゴリ、フクドジョウなど多種の魚種が確認された。



調査地点 No.2 から下流の状況

また、河道の狭窄部などには、小規模な淵が形成されているが、このような比較的水深のある場所からは、中型のヤマメやウグイが確認された。

生息魚種の個体数では、イバラトミヨが最も多く、本種が最も優占していると思われる。また産卵のため、海域から遡上しているイトヨも、下流地点に引き続き、本地点でも確認された。

これらのトゲウオ類にとって河口～ウヨロ川中流域は、河岸植生が卓越していることから、生息環境や産卵環境として重要な区間となっている。

一方で、さらに下流域で確認されているジュズカケハゼやシマウキゴリなどのハゼ科魚種は本地点では確認されなかった。



調査地点 No.2 の魚類採捕状況

また、エゾハナカジカについても本地点では確認されていない。これらの魚種に共通することは河床に生息する底生魚であるということ、底生動物でも触れたが、河床に砂地が多いこと、変動が激しいことが、上記魚種の生息を規定する一要因であるものと推測される。

調査地点 No.3

調査地点付近は、河道の屈曲部に大きな淵が形成されており、平瀬、早瀬が形成され、下流の橋下に更に淵が形成されていた。

調査当日の天候は晴れ、気温は 15.6 、水温は 11.2 であった。

河床は淵で砂礫の堆積が見られ、平瀬・早瀬では 3～30cm 大の礫が堆積し、河床状況は変化に富んだものとなっている。

本地点で確認された魚種は、アメマス、ヤマメ、ウグイ、フクドジョウ、エゾハナカジカの 5 種であった。下流に比べ、魚種構成は非常に単調となっている。

調査地点周辺は、礫河床が卓越しており、底生魚種もフクドジョウ、エゾハナカジカなど、流水に対応できる魚種に限られる。

特にエゾハナカジカは大型の個体が見られ、個体数も多い。

また渓流を代表するアメマスも本地点で出現した。個体数は多くはなく、本種はこれより上流域に主分布を持つものと推測される。

ヤマメは非常に多く生息しており、本地点を代表する魚種である。本種は河岸、平瀬・淵を問わず、いたるところに生息している。また、個体のサイズにもバリエーションがあることから、本地点より上流で再生産していることは明らかである。したがって、秋季にはサクラマスの遡上や産卵も観察できるものと考えられる。

下流地点に見られたサケ(稚魚)は本地点では確認されなかった。サケ(稚魚)は降下する時期であるが、サケ親魚の遡上自体も本地点では少ないものと思われ、サケの主産卵場はこれより下流にあるものと推測される。

ウグイは、調査時に産卵群が遡上してきており、平瀬で産卵を行っていた。個体数は非常に多いが、見られる時期は 5 月下旬～6 月下旬くらいに限られる。

また、本地点は、ウヨロ環境トラスト主催のキャンプ実習などで遊び場として利用されるが、魚類は捕獲しにくい場所である。そのなかでも、エゾハナカジカは底生魚であるため、比較的捕獲が容易である。このような魚種を対象とし、魚の手づかみ実習などをもすることも面白いと思われる。



調査地点 No.3 から上流の状況



調査地点 No.3 から下流の状況



調査地点 No.3 の魚類採捕状況

地点 No.4

調査地点 No.4 は、エコの森に見られるウヨロ川の旧川と旧川に注いでいる支川を対象として実施した。

調査当日の天候は晴れ、気温は 14.3 、水温は 14.2 であった。

調査地点付近は、旧川が広く開けており、周辺は湿地状となっている。水際や水域にはヨシやクサヨシ・オオカサスゲなどによる水際植生が卓越している。

旧川の水は茶褐色に着色しており、沼地状の景観となっている。また流入している支川は透明である。

河床には泥が厚く堆積し、礫等の河床材料は見られない。

本地点では、シベリアヤツメ(幼生)、ヤマメ、フナ属、イトヨ、イバラトミヨ、フクドジョウ、エゾホトケの7種が確認された。

確認種の内、ヤマメやイトヨなどの、通し回遊魚が確認されていることから、本地点はウヨロ川本川と連続していることが示唆される。

旧川部は水深が深く、河床は厚く泥が堆積している。ここで出現した魚種は、フナ属、イトヨ、イバラトミヨ、エゾホトケで、主に緩流域や止水環境を表徴する魚種構成であった。特にイバラトミヨは個体数が非常に多く、稚魚や抱卵した個体も多く確認された。本地点を代表する魚種であるといえることができる。

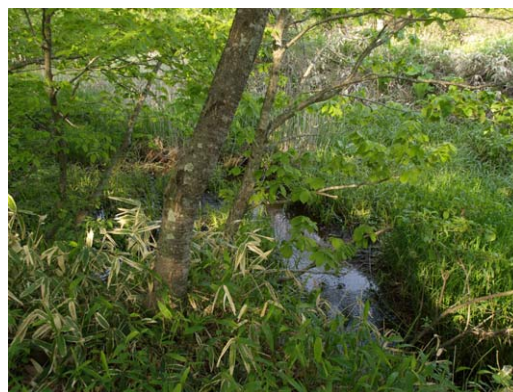
またエゾホトケも個体数は多かった。本種は現在、北海道各地で減少が危惧されている種であり、環境省、北海道により絶滅危惧種として選定されている。ウヨロ川本川では確認されていないため、このような旧川部や泉など、本川からは隔離された止水域に依存して生息しているものと思われる。

したがって、旧川部はエゾホトケの生息環境として非常に重要であるといえる。

一方、旧川に注いでいる支川部は、流水環境が見られ、このような場所からは、シベリアヤツメ(幼生)、ヤマメ、フクドジョウなどの生息が確認された。しかし個体数はそれほど多くはない。



調査地点 No.4 から上流の状況



調査地点 No.4 から下流の状況



調査地点 No.4 の魚類採捕状況

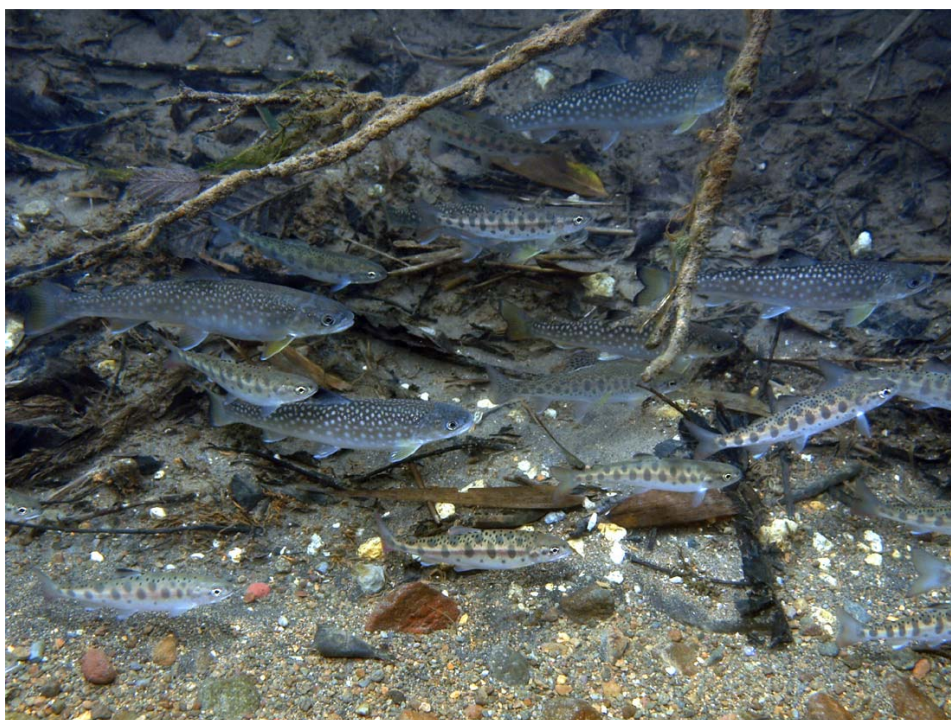


写真 3-8 アメマスとヤマメの群れ

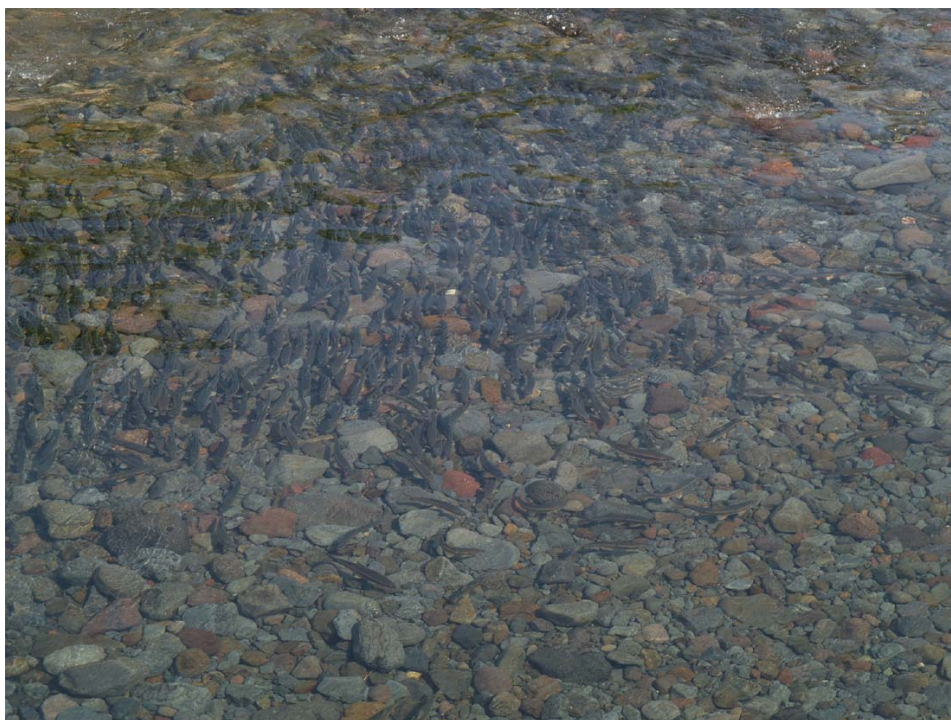


写真 3-9 遡上してきたウグイの産卵群

5) 着目すべき種

本調査で確認された魚類のうち、シベリアヤツメ、サクラマス(ヤマメ)、エゾハナカジカの3種は、現在、環境省や北海道により希少性を指摘されている。またエゾホトケについては絶滅の恐れのある種として選定されている。各種の選定状況や確認状況をまとめ、表 3-45 に示した。

尚、掲載に関しては環境省及び北海道が刊行している最新のレッドデータブックより引用した。



シベリアヤツメは、地点 No.1、No.2、No.4 の、河岸緩流域や止水域など、河床に泥が堆積した場所から確認された。

サクラマス(ヤマメ)は、地点 No.1、No.2、No.3、No.4 の全ての地点から生息が見られ、ウヨロ川に広く生息することが確認された。

エゾホトケは、地点 No.4 から確認された。本種はウヨロ川本川には全く見られず、エコの森にあるウヨロ川旧川やトラストの森脇の泉(底生動物調査時)等の隔離された止水域から生息が確認された。個体数はいずれも多い。

エゾハナカジカは地点 No.1、No.3 の礫河床から生息が確認された。特に地点 No.3 では生息している個体数が多い。

表 3-45 絶滅の恐れのある魚類

種名・選定状況・確認状況	写 真
<p>【種名】 シベリアヤツメ</p> <p>【選定状況】 環境省レッドデータブック(2005) 準絶滅危惧(NT) 北海道レッドデータブック(2001) 希少種(R)</p> <p>【主な生態】 国内では北海道のみに分布する、20cm 程度のヤツメウナギ科の種。 アンモシーテス(幼生)は、河川緩流域の砂泥中に生息する。夏～秋にかけて変態し、越冬して翌年に産卵する。産卵期は5～6月。</p> <p>【確認状況・位置】 地点 No.1、地点 No.2、地点 No.4 の砂泥中から確認された。</p>	 <p>写真 3-10 シベリアヤツメ</p>
<p>【種名】 サクラマス(ヤマメ)</p> <p>【選定状況】 環境省レッドデータブック(2005) - 北海道レッドデータブック(2001) 留意種(N)</p> <p>【主な生態】 国内では北海道、東北、北陸地方では降海し大型のサクラマスとなる個体が多い。河川ではアメマスよりも下流に生息し、産卵は秋季に行われる。</p> <p>【確認状況・位置】 調査地点の全ての地点で生息が確認された。</p>	 <p>写真 3-11 サクラマス(ヤマメ)</p>
<p>【種名】 エゾホトケ</p> <p>【選定状況】 環境省レッドデータブック(2005) 絶滅危惧 類(VU) 北海道レッドデータブック(2001) 絶滅危惧種(En)</p> <p>【主な生態】 全長は7cm 程度。国内では北海道のみに生息する。河岸や細流、湿地帯の静水域に主に生息する。</p> <p>【確認状況・位置】 地点 No.4(エコの森旧川)から確認された。尚、底生動物調査時にはトラスト脇の泉からも多数確認されている。</p>	 <p>写真 3-12 エゾホトケ</p>
<p>【種名】 エゾハナカジカ</p> <p>【選定状況】 環境省レッドデータブック(2005) - 北海道レッドデータブック(2001) 留意種(N)</p> <p>【主な生態】 国内では北海道のみに分布する。河川の感潮域を含む下流域を中心に分布し、礫底などに生息する。</p> <p>【確認状況・位置】 地点 No.1、No.3 の礫河床から確認された。</p>	 <p>写真 3-13 エゾハナカジカ</p>

(文責 パブリックコンサルタント株式会社)

4. まとめ

4.1 確認種

1) 植物

2005年-2006年までの1年間を通じた調査により、73科343種の植物種(シダ類以上の高等植物)がリストアップされた。調査範囲が広く、また調査範囲内の環境要素に変化が見られたことから、山間部に生育する種や河畔に生育する種、湿地に見られる種など、様々な植物種が確認されている。

2) 昆虫類

昆虫類は、2006年の春-秋の調査で321種がリストアップされた。調査範囲をトラストの森及び山間部、泉周辺、ウヨロ川河畔など、様々な環境要素に設定したことから、昆虫類は多種リストアップされている。

また、任意採取に加え、ベイトトラップ、ライトトラップなどを併用したために、歩行性の昆虫類や夜間に活動する種(主にガの仲間など)も補完されている。

3) 底生動物

底生動物は、2006年の春季の調査で87種がリストアップされた。調査地は、ウヨロ川の中流部・下流部、トラストの森脇の泉、エコの森(ウヨロ川旧川)などに設定して実施している。ウヨロ川では、主に流水性の種(カゲロウ・カワゲラ・トビケラ等)が確認され、エコの森(ウヨロ川旧川)は沼地状のため、止水性の種が多く確認されている。またトラストの森脇の泉では止水環境・流水環境の両方が見られたために多種の底生動物種が確認された。

4) 魚類

魚類は、2005年の秋季の調査で11種、2006年の春季の調査で14種がリストアップされた。調査地は、底生動物同様、ウヨロ川の中流部・下流部、エコの森(ウヨロ川旧川)で実施した他、回遊魚類を把握するため河口域でも実施している。ウヨロ川に広く分布する種ではシベリアヤツメ、サクラマス(ヤマメ)、ウグイ、イバラトミヨ、フクドジョウなどが挙げられる。河口域ではハゼ科魚種が多い。エコの森などの止水環境ではウヨロ川本川では見られないエゾホトケが多く生息していることが特徴的である。

5) 鳥類

鳥類は、2005年までの調査で58種、2006年の夏-秋の調査で54種確認され、計69種がリストアップされた(萩の里自然公園を入れると80種)。本年度の調査では、留鳥(一年中ウヨロ川周辺に生息する種)と夏鳥(ウヨロ川周辺に繁殖のためにやってくる種)を記録することができた他、10月には一部の冬鳥も記録された(カシラダカ、ミヤマホオジロ、マヒワ)。

またオオタカなどの猛禽類も本年度初めて確認された。

ウヨロ川フットパス沿いでは、アオジ、ウグイス、ヒヨドリは優占度、生息密度が高く、また出現率も高いことから、春~夏にこの地域に最も普通に生息する種である。

他方、冬鳥および旅鳥(春・秋の渡り時期に通過する種)についてはまだ十分な観察がなく、今後も観察を続けることにより明らかにしてゆく必要がある。

6) 哺乳類

哺乳類は、2005年までの調査で13種がリストアップされている。また2006年では、ネズミ類を対象とした調査を実施したために、ヒメネズミやエゾトガリネズミなどが新たに確認され、リストが補完された。

フットパス周辺において最も普通に見られる哺乳類はエゾシカで、足跡、糞がいたるところに残されている。他、夕方や早朝には姿を見られる機会が多い。その他の哺乳類については、おもに足跡・糞等によってその存在を知ることがほとんどで、姿を見る機会は少ない。

また、確認種には、近年外来種として問題視されているアライグマも含まれており、農作物への被害が心配される。

尚、現状ではコウモリ類の生息状況については全く不明である。

(文責 パブリックコンサルタント株式会社)

4.2 希少種

本調査(2005年-2006年)の調査で確認された種の内、環境省や北海道により絶滅の恐れのある種として選定されている種は、植物(2種)、昆虫類(2種)、底生動物(2種)、魚類(5種)、鳥類(4種)の、計15種の確認であった。確認された希少種をまとめ、表4-1に示した。

表4-1 調査により確認された希少種のまとめ(2005年-2006年)

種名及び指定状況	主な生態	確認状況	写真
タデ科 ノダイオウ 環境省 R.D.B : 絶滅危惧 類(VU)	高さ80~120cm程度になるタデ科の多年草。北海道、本州の中部以北に分布し、湿った草地や荒地に生育する。花の咲く時期は6~8月。	ウヨロ川小湿原で少数の生育を確認した。	
バラ科 ホザキシモツケ 環境省 R.D.B : 絶滅危惧 類(VU)	高さ1~2m程度になるバラ科の木本。北海道、本州中部以北に分布し、湿原の周辺などに生育する。花の咲く時期は7~8月。	調査範囲のいたる場所で生育を確認している。	
カミキリムシ科 ケマダラカミキリ 環境省 R.D.L : 準絶滅危惧(NT) 北海道 R.D.B : 留意種(N)	大きさ14~18mm程度のカミキリムシの仲間。主にヨモギ、オオハongoソウ、オオハナウドの葉・茎などを食べる。	調査範囲 No.1 の泉の脇の草本群落周辺(アキタブキ)で確認された。調査範囲 No.3 の林縁(オオイタドリ)で確認された。	
セセリモドキガ科 ニホンセセリモドキ 北海道 R.D.B : 希少種(R)	幼虫期は5-6月、沢沿いのやや陰地のムラサキシキブなどに見られる。蛾は年1化、7月に羽化する。	調査範囲 No.3 で実施したライトトラップ(9月)に確認された。	写真なし
モノアラガイ科 モノアラガイ 環境省 R.D.L : 準絶滅危惧(NT)	殻高25mm、殻径20mm程になる。小川、川の淀み池沼、水田などに生息する。植食性で微小な藻類を削り取って食べる。雌雄同体でゼラチン質の卵塊を産む。成長は早く約2ヵ月で成熟する。	No.1、No.3、No.4 の河岸植生付近から多数確認された。特にNo.3では個体数が多かった。	

<p>コオイムシ科 オオコオイムシ</p> <p>北海道 R.D.B : 希少種(R)</p>	<p>北海道から本州に分布するコオイムシ科の一種。主に小川、水田、湖沼等の水生植物の繁茂する止水域に生息する。</p>	<p>No.3 の河岸植生付近から確認された。</p>	
<p>ヤツメウナギ科 シベリアヤツメ</p> <p>環境省 R.D.B : 準絶滅危惧(NT) 北海道 R.D.B : 希少種(R)</p>	<p>国内では北海道のみに分布する。アンモシーテス(幼生)は、河川緩流域の砂泥中に生息し、珪藻類や有機物を食べている。夏～秋にかけて変態し、越冬して翌年に産卵する。産卵期は 5～6 月で産卵後は死亡する。</p>	<p>地点 No.1 (ウヨロ川)、地点 No.2(ウヨロ川)、地点 No.4(エコの森)の砂泥中から確認された。</p>	
<p>サケ科 サクラマス(ヤマメ)</p> <p>北海道 R.D.B : 留意種(N)</p>	<p>国内では北海道、東北、北陸地方では降海し大型のサクラマスとなる個体が多い。 河川ではアママスよりも下流に生息し、産卵は秋季に行われる。</p>	<p>調査地点の全ての地点で生息が確認された。</p>	
<p>コイ科 ヤチウグイ</p> <p>環境省 R.D.B : 準絶滅危惧(NT)</p>	<p>国内では北海道のみに分布する。河川の緩流部や、湖沼、細流に生息し、ヨシ等の抽水植物や、水、藻類の繁茂するような環境を特に好む。食性は雑食で、落下昆虫、水生昆虫、付着藻類等。</p>	<p>2005 年の調査で、ウヨロ川下流で 1 個体が確認されている。</p>	
<p>ドジョウ科 エゾホトケ</p> <p>環境省 R.D.B : 絶滅危惧 類(VU) 北海道 R.D.B : 絶滅危惧種(En)</p>	<p>全長は 7cm 程度。国内では北海道のみに生息する。河岸や細流、湿地帯の静水域に主に生息する。</p>	<p>地点 No.4(エコの森旧川)から確認された。尚、底生動物調査時にはトラスト脇の泉からも多数確認されている。</p>	
<p>カジカ科 エゾハナカジカ</p> <p>北海道 R.D.B : 留意種(N)</p>	<p>国内では北海道のみに分布する。河川の感潮域を含む下流域を中心に分布し、礫底などに生息する。</p>	<p>地点 No.1 (ウヨロ川)、No.3(トラストの森脇の泉)の礫河床から確認された。</p>	

<p>タカ科 オオタカ</p> <p>種の保存法：国内希少野生動植物種 環境省 R.D.B：絶滅危惧類(VU) 北海道 R.D.B：絶滅危急種(Vu)</p>	<p>日本では九州以北に留鳥として分布する。主に平地から山地の林に生息する。主に鳥類を採食し、ネズミやウサギ等の小動物も捕る。</p>	<p>2006年の調査で初めて記録された。道央道上流の無名橋付近で9月に記録された。オオタカの繁殖はカラマツ林で行われる例が多いので、周辺での繁殖も考えられる。</p>	
<p>シギ科 オオジシギ</p> <p>環境省 R.D.B：準絶滅危惧(NT) 北海道 R.D.B：希少種(R)</p>	<p>日本では中部地方以北に夏鳥として渡来する。草地、牧草地、湿地、水田、畑、池などの周辺に生息し、繁殖地では求愛やテリトリー宣言のためにディスプレイ飛翔を行う。土壌中の小動物を補食する。</p>	<p>牧場周辺で数つがい繁殖するものと思われる。最近減少が心配される種であるが、この地域ではまだ普通に生息している。</p>	
<p>カワセミ科 ヤマセミ</p> <p>北海道 R.D.B：希少種(R)</p>	<p>日本では北海道から九州までの各地に留鳥として分布。山地の渓流や湖沼に生息し、魚類を補食する。繁殖期には川や湖の岸边やその近くの崩落地に巣穴を掘る。</p>	<p>この地域で繁殖しているものと思われる。ヤマセミは河川沿いの大きな崖地で繁殖するが、このような場所は河川工事等で失われやすく、減少が心配される。</p>	
<p>キツキ科 クマゲラ</p> <p>天然記念物(国)：国指定天然記念物 種の保存法：国内希少野生動植物種 環境省 R.D.B：絶滅危惧類(VU) 北海道 R.D.B：絶滅危急種(Vu)</p>	<p>日本では北海道と東北地方の一部に分布している。原生林や二次林などの深い森林に生息する。樹木の幹をつついたり、枯れ木の樹皮を次々にはがして食物を探し、木の幹や朽ち木、地上などで採食する。</p>	<p>2006年の9月にトラストの森北側で記録された。またトラストの森内にクマゲラの食痕も見られている。この地域にはクマゲラが繁殖するような大径木は少なく、繁殖はしていないと思われる。秋～冬の間繁殖期に採餌等のためにこの地域を利用している。</p>	

(文責 パブリックコンサルタント株式会社)

5. 今後の課題

2005年-2006年の調査により、ウヨロ川周辺における植物、昆虫類、底生動物、魚類、鳥類、哺乳類に関する生息種と生息状況が定性的に把握できた。また調査結果では、各項目共に多様な種がリストアップされた。これは里地・里山の持つ生息場としての多様性を反映した結果といえる。

ただし、小型哺乳類調査の対象とした里山の保全活動として草刈りを実施している箇所では、種構成は単純であり、生息数も少ないという結果であった。

他方、現況調査としては主に生息種のリスト作成にとどまっている段階である。今後は、このリストを元に、里山の生物多様性を検証する調査について、引き続き実施していくことが望まれる。

(文責 NPO法人ウヨロ環境トラスト)

ウヨロ川中下流域の里山自然環境調査報告書

2006年12月20日 発行

発行者 NPO法人ウヨロ環境トラスト

〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町 1-11-7

TEL 0144-85-2852 FAX 0144-85-2856

E-mail: trust@shiraoi.org
